

BladeSymphony

Virtage Navigator ユーザーズガイド

LPAR 設定編

Revision 2.00

HITACHI

重要なお知らせ

- 本書の内容の一部、または全部を無断で転載、複写することは固くお断わりします。
- 本書の内容について、改良のため予告なしに変更することがあります。
- 本書の内容については万全を期しておりますが、万一ご不審な点や誤りなど、お気づきのことがありましたら、お問い合わせ先へご一報くださいますようお願いいたします。
- 本書に準じないで本製品を運用した結果については責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

登録商標・商標について

Adobe、Adobeのロゴは、Adobe Systems Incorporated (アドビ システムズ社) の米国ならびに他の国における登録商標または商標です。

Microsoft、Windows、Windows Server は米国Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Pentium、Xeon は Intel Corporation の登録商標および商標です。

Java、JREおよびその他のJavaを含む商標は、米国 Sun Microsystems, Inc. の登録商標または商標です。

Linuxは、Linus Torvalds氏の日本およびその他の国における登録商標または商標です。

その他、本マニュアル中の製品名および会社名は、各社の登録商標または商標です。

版權について

このマニュアルの内容はすべて著作権によって保護されています。このマニュアルの内容の一部または全部を、無断で転載することは禁じられています。

All Rights Reserved. Copyright (C) 2011, Hitachi, Ltd.

BladeSymphony Virtage Navigator

本資料は、BladeSymphony Virtage Navigator V02-00 に対応している LPAR 設定編です。

目次

1 概要	3
2 適用条件	6
2.1 ファームウェア条件.....	6
2.2 HVM初期起動の適用条件.....	6
3 操作	7
3.1 HVM導入時の初期起動.....	7
3.1.1 シャーシの選択.....	10
3.1.2 パーティションの選択.....	12
3.1.3 HVMの設定.....	13
3.1.4 HVMの起動.....	14
3.1.5 HVMの登録.....	17
3.1.6 LPARの作成.....	18
3.1.7 LPARの開始.....	21
3.1.8 LPARの終了.....	25
3.2 LPARの追加.....	27
3.3 LPARの詳細設定.....	28
3.3.1 LPARの設定.....	29
3.3.1.1 LPARの追加	29
3.3.1.2 プロセッサ数の設定	33
3.3.1.3 メモリサイズの設定	35
3.3.1.4 共有NICの設定	37
3.3.1.5 共有FCポートの設定	40
3.3.1.6 USBの設定	43
3.3.1.7 HVM構成情報の保存	46
3.3.2 LPARの起動.....	48
3.3.3 OSのインストール.....	51
3.4 関連コンソール起動.....	53
3.4.1 SVPシステムコンソール(Web)の起動	54
3.4.2 SVPシステムコンソール(Telnet)の起動	55
3.4.3 シリアル端末ベースのHVMスクリーンの起動	56
3.5 BIOSの設定.....	58
4 オプション機能	64
4.1 HVMスクリーンの簡単移動.....	64
4.1.1 メニュースクリーンへの移動	64
4.1.2 スクリーンの直接移動.....	66

4.1.3 スクリーンの巡回移動	67
4.2 SVP情報の登録と削除	68
4.2.1 SVP情報の登録	69
4.2.2 SVP情報の削除	73
5 注意事項	76
5.1 Initial Setupの注意事項	76
5.1.1 HVM構成情報をクリアした場合	76
5.1.2 HVM構成情報をリストアした場合	76
5.1.3 SVPバージョンがA1065 の場合は装置の電源Off/Onが必要になります	76
5.2 HVMコンソールの注意事項	77
5.2.1 HVMスクリーンとHVMコンソールの差異	77
5.2.2 仮想COMコンソールが開かない場合	78
5.3 Related Consoleの注意事項	78
5.3.1 Code:20040003 が発生する場合	78
5.3.2 HVMスクリーンが開かない場合	78
5.4 IPアドレスを変更する場合の注意事項	79
5.4.1 HVM IPアドレスを変更する場合	79
5.4.2 BSM IPアドレスを変更する場合	80
5.4.3 SVP IPアドレスを変更する場合	80
6 トラブルシュート	81
6.1 エラーコード一覧	81
7 障害時のデータ採取	81
8 アイコン一覧	82
9 変更来歴	84

1 概要

本マニュアルでは、Virtage の導入から運用に至るまでの LPAR 設定 (LPAR Configuration) について説明します。

(以後、Virtage のことを HVM (Hitachi Virtualization Manager) と表記することがあります)

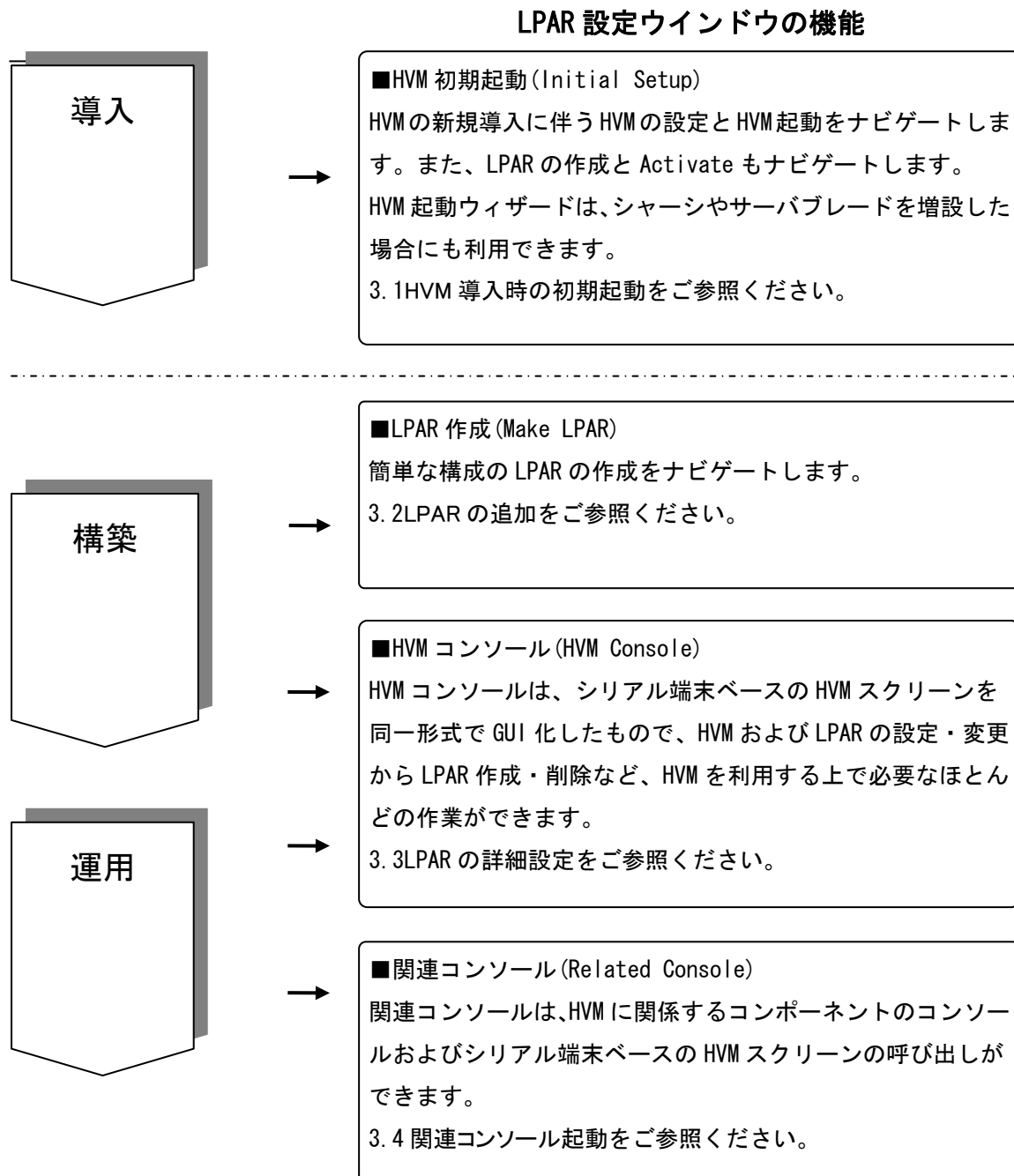


図 1-1 LPAR 設定の概要

以下、LPAR 設定の機能概要とサポートバージョンを示します。

表 1-1 HVM 初期起動のサポート機能 (Initial Setup)

機能	説明	サポートバージョン
電源 On	サーバブレードの電源を On にします。	V02-00
BIOS 設定	BIOS を設定します。	未サポート (※1)
HVM 設定	HVM 構成情報の初期設定を行います。	V02-00
LPAR 設定	LPAR の追加ができます。	V02-00
LPAR 起動	LPAR を Activate できます。	V02-00
ブート設定	ゲスト OS のブート設定ができます。	未サポート (※2)

※1: サーバブレードの BIOS セットアップツールで設定を変更します。

※2: ゲスト論理 EFI で設定します。

表 1-2 LPAR 作成のサポート機能 (Make LPAR)

機能	説明	サポートバージョン
LPAR 作成	LPAR の追加ができます。	V02-00

表 1-3 HVM コンソールのサポート機能 (HVM Console)

#	スクリーン名称	説明	サポートバージョン
1	Logical Partition Configuration	LPAR の名称やプロセッサ数メモリ容量を設定できます。	V02-00
2	Logical Processor Configuration	LPAR のプロセッサの詳細設定ができます。	V02-00
3	Physical Processor Configuration	物理プロセッサの詳細設定状態表示ができます。	V02-00
4	PCI Device Information	PCI デバイスの情報を表示できます。	V02-00
5	PCI Device Assignment	LPAR の PCI デバイスの割当てができます。	V02-00
6	VNIC Assignment	LPAR の仮想 NIC の詳細割当てができます。	V02-00
7	Shared FC Assignment	LPAR の共有 HBA の詳細割当てができます。	V02-00
8	Allocated FC Information	HBA の情報を表示できます。	V02-00
9	System Configuration	HVM システムの構成設定ができます。	V02-00
10	System Service State	HVM システムのサービス状態を表示できます。	V02-00

#	スクリーン名称	説明	サポートバージョン
11	Date and Time	HVM システム時刻や LPAR の時刻を設定できます。	未サポート
12	HVM Options	HVM のオプション機能を設定できます。	V02-00
13	LPAR Usage	CPU の使用率を表示できます。	未サポート (※1)
14	Front Panel	ゲストのダンプ採取やゲストシリアルコンソールのログ表示ができます。	未サポート
15	HVM System Logs	HVM 使用中に生成された HVM イベントログを表示できます。	V02-00
16	Firmware Version Information	各コンポーネントのファームウェアバージョンを表示できます。	V02-00

※1:Virtage Navigator のモニタリング機能をご利用ください。

表 1-4 関連コンソールのサポート機能(Related Console)

機能	説明	サポートバージョン
System Console(Web)	SVP のシステムコンソール(Web) を起動します。	V02-00
System Console(Telnet)	SVP のシステムコンソール(Telnet) を起動します。	V02-00
HVM Screen	シリアル端末ベースの HVM スクリーンを起動します。	V02-00

2 適用条件

2.1 ファームウェア条件

LPAR 設定は、ファームウェアと連携する機能なので、以下のファームウェアバージョンを全て満たしている必要があります。

SVPバージョンA1065 と組み合わせてHVM初期起動(Initial Setup)を使用する際は、注意事項「5.1.3 SVPバージョンがA1065 の場合は装置の電源Off/Onが必要になります」をご参照ください。

表 2-1 LPAR 設定のファームウェア条件

ファームウェア	BS320	BS2000		BS2000fx	
		標準 サーバブレード	高性能 サーバブレード	標準 サーバブレード	高性能 サーバブレード
SVP	A1065 以降	未サポート ※1	未サポート ※1	未サポート ※1	未サポート ※1
HVM	17-6X 以降	未サポート ※1	未サポート ※1	未サポート ※1	未サポート ※1

※1：本機能をサポートしていませんが、機能の動作抑止は行っておりません。ご注意ください。

2.2 HVM初期起動の適用条件

HVM 初期起動(Initial Setup)は、下記の操作の直後の HVM 起動では有効になりません。利用手順を注意事項に示してありますので、そちらを参照ください。

- ① HVM 構成情報のクリア
- ② HVM 構成情報のリストア

3 操作

3.1 HVM導入時の初期起動

サーバブレードで初めて HVM を起動するときに有効なのが、ウィザード型ウインドウの HVM 起動です。HVM 起動はいくつかのステップに分かれ、サーバブレードの電源 On から LPAR の Activate までをナビゲートします。

表 3-1 HVM 起動

#	ステップ名称	ウィザードの概要	入力パラメータ
1	Start Initial Setup	初期設定の開始を示す画面	なし
2	Select Chassis	シャーシの選択	SVP IP アドレス SVP のログイン ID
3	Select Partition	サーバブレードの選択	サーバブレード番号
4	HVM Setting	HVM 構成の初期設定	HVM IP アドレス サブネットマスク Default Gateway VNIC System No. HVM ID
5	Settings & Power ON	サーバブレードの電源 On	なし
6	Wait for HVM Ready	HVM が Ready 状態になるまでを監視	なし
7	Regist to Profile	HVM Profile への登録	なし
8	Make LPAR	LPAR の作成	LPAR 数 LPAR のプロセッサ数 LPAR のメモリ LPAR の NIC カード数 LPAR の HBA カード数 他
9	LPAR Operation	LPAR の Activate	LPAR 番号

(1) LPAR Configuration メニューの画面右の Initial Setup ボタンをクリックします。

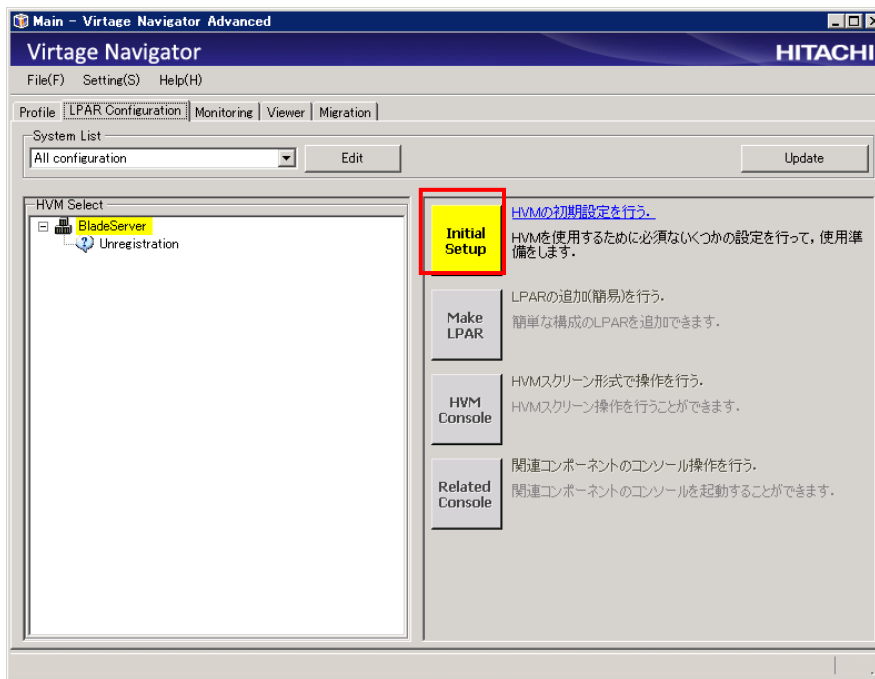


図 3-1 Main ウィンドウ (Initial Setup の開始)

Initial Setup of HVM ウィンドウが表示されます。

画面左には、Initial Setup の全体ステップ、画面中央の上部には、設定ステップ名称と設定ステップの概要が表示されます。

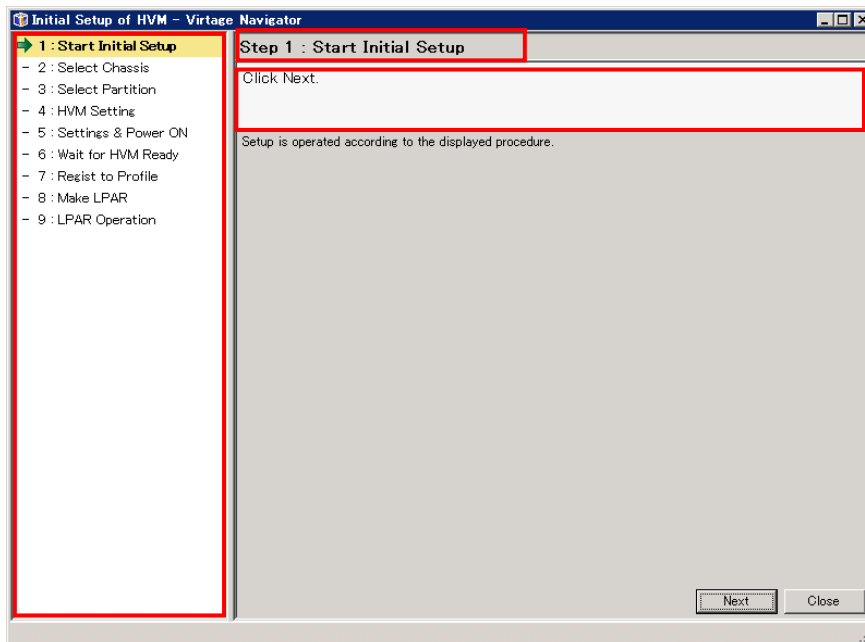


図 3-2 Initial Setup of HVM ウィンドウ (Start Initial Setup 表示)

(2) Next ボタンをクリックします。

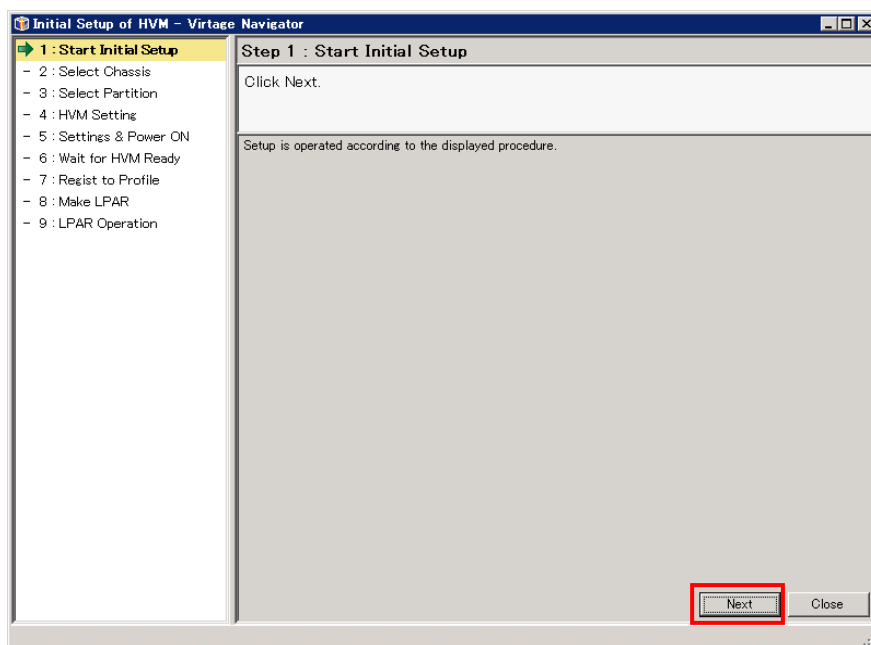


図 3-3 Initial Setup of HVM ウィンドウ (Start Initial Setup 終了)

シャーシ選択画面が表示されます。

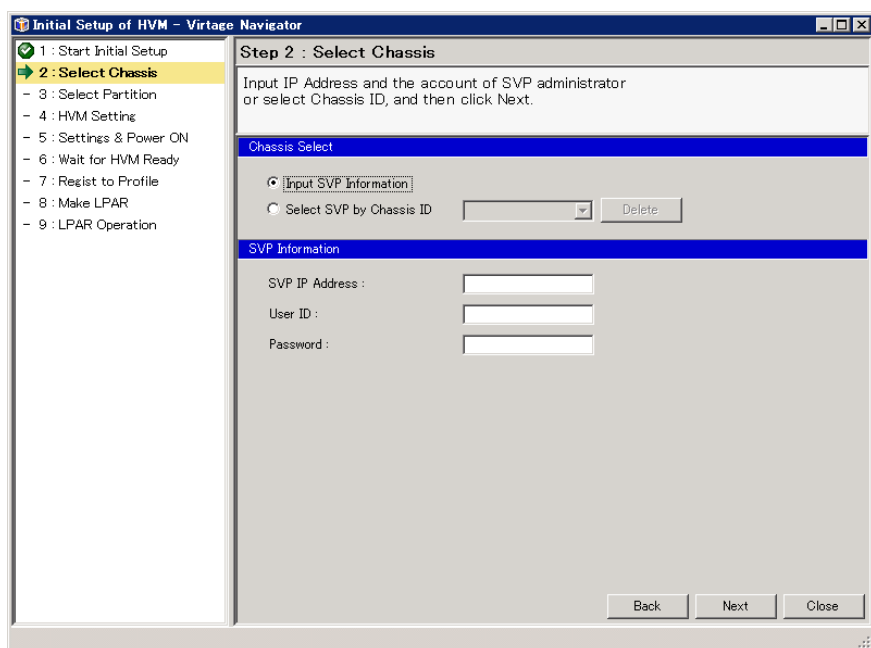


図 3-4 Initial Setup of HVM ウィンドウ (Select Chassis 開始)

3.1.1 シャーシの選択

- (1) シャーシに対応付けられている SVP IP アドレスと管理者権限の SVP ログイン ID(ユーザ ID とパスワード)を入力し、Next ボタンをクリックします。

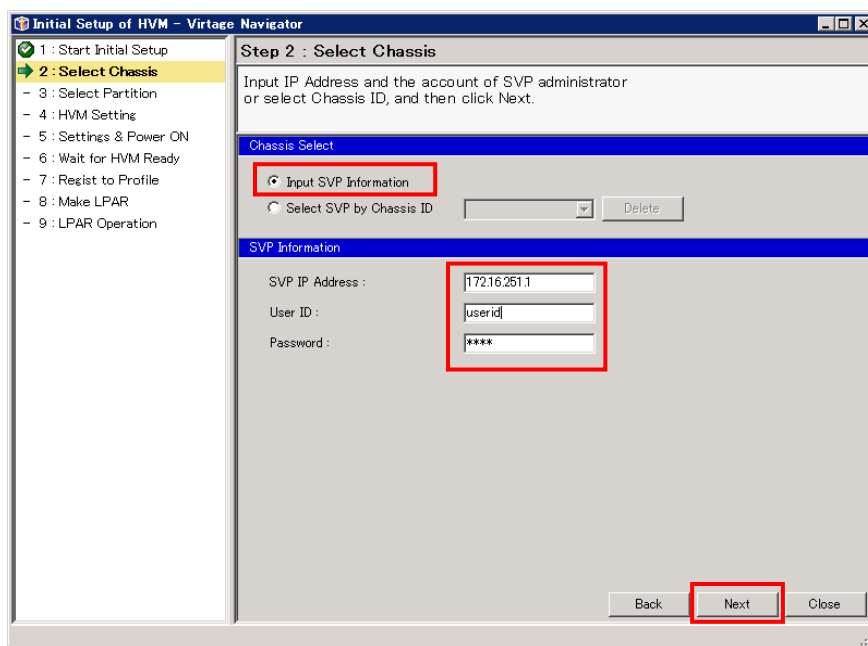


図 3-5 Initial Setup of HVM ウィンドウ (Select Chassis 操作)

入力した内容が正しければ、シャーシ ID、シャーシのシーケンシャル番号、SVP のファームウェアバージョンが表示されます。内容を確認します。

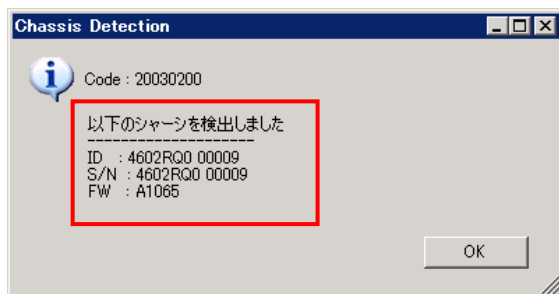


図 3-6 Chassis Detection ウィンドウ (Select Chassis 成功)

IP アドレスが SVP のものでない場合、あるいは SVP のファームウェアバージョンが LPAR 設定に必要な条件を満たしていない場合、以下のメッセージが表示されます。

IP アドレスの確認、または SVP のバージョンを確認し、OK ボタンをクリックします。

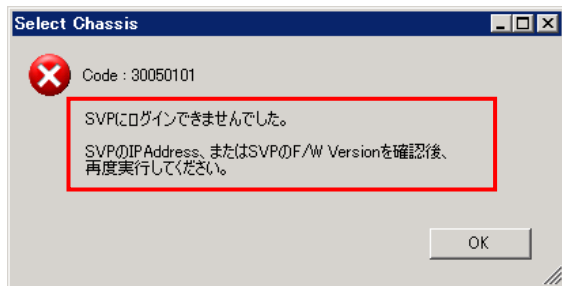


図 3-7 Select Chassis ウィンドウ (Select Chassis 失敗 1)

ログイン ID が SVP に登録されているものと異なっている場合、以下のメッセージが表示されます。SVP のログイン ID を確認します。OK ボタンをクリックします。

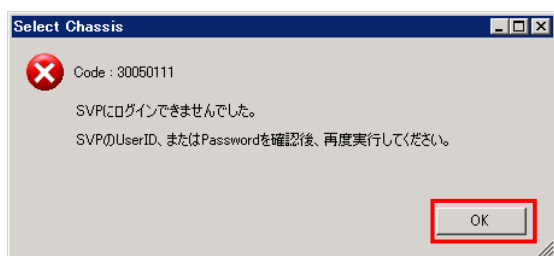


図 3-8 Select Chassis ウィンドウ (Select Chassis 失敗 2)

3.1.2 パーティションの選択

- (1) Information、Firmware Version に表示される内容を確認しながら、画面中央でパーティション番号を選択します。

パーティション番号は、サーバブレード番号と同意義です。

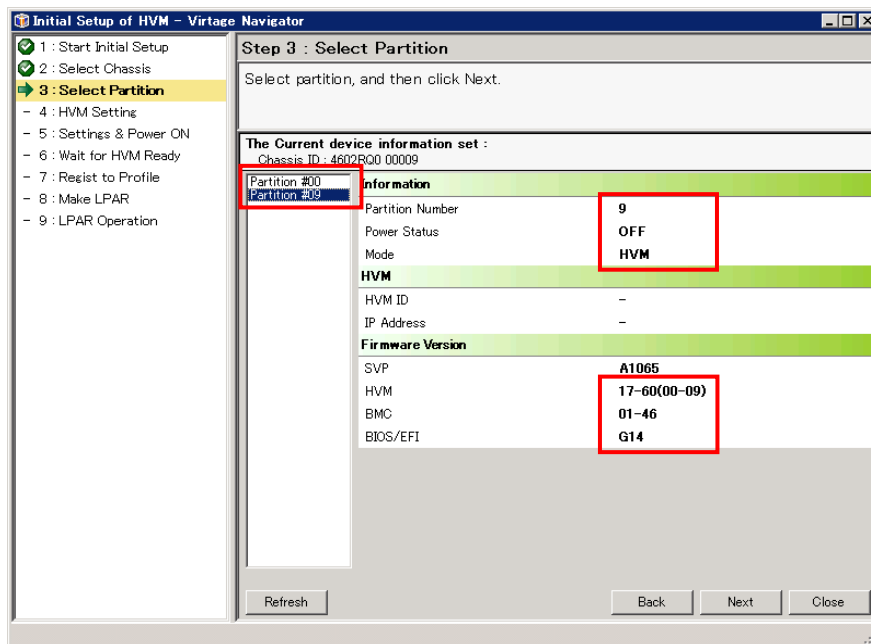


図 3-9 Initial Setup of HVM ウィンドウ (Select Partition 操作)

- (2) Next ボタンをクリックします。

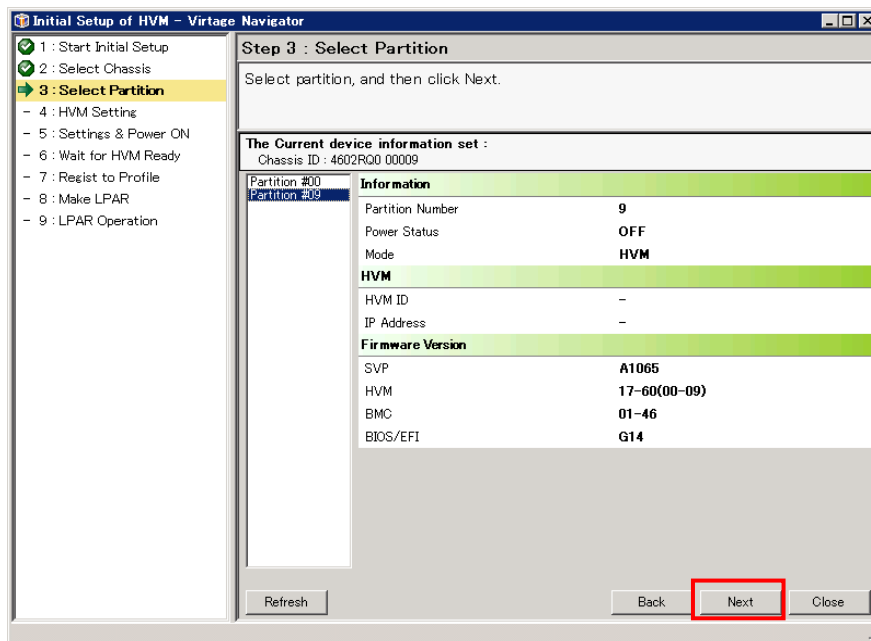


図 3-10 Initial Setup of HVM ウィンドウ (Select Partition 完了)

- (3) 再度、バージョンを確認し、OK ボタンをクリックします。

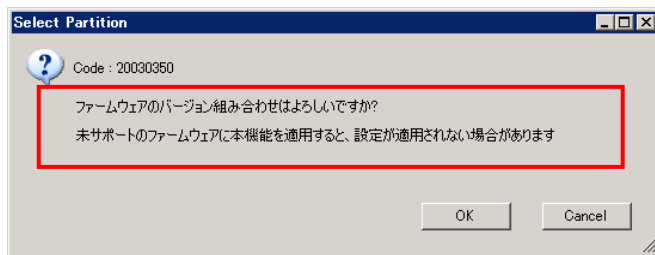


図 3-11 Select Partition ウィンドウ (Select Partition 完了)

3.1.3 HVMの設定

- (1) HVM IP アドレス、サブネットマスク、VNIC System No. を入力し、Next ボタンをクリックします。

Default Gateway と HVM ID は必須ではありませんが、入力することを推奨します。

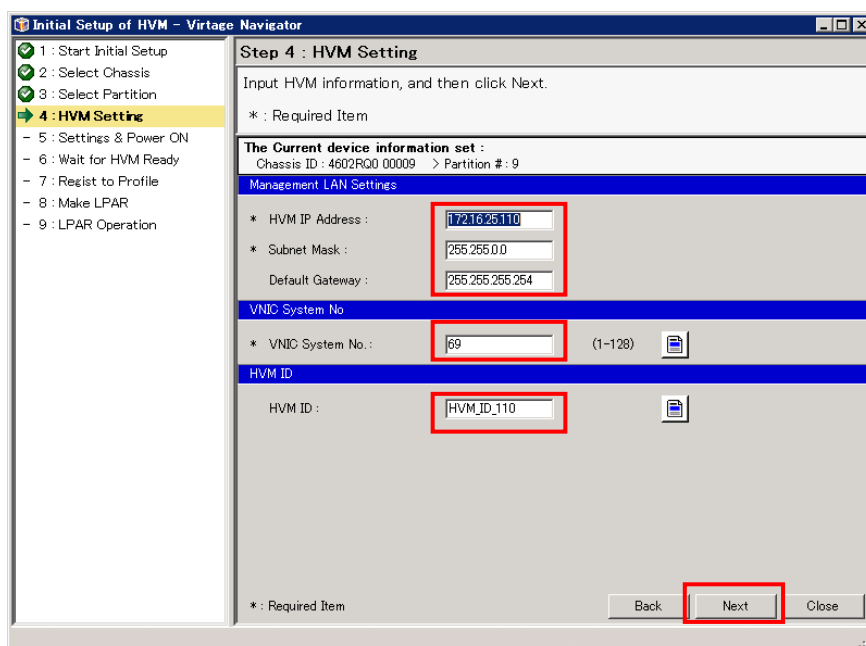


図 3-12 Initial Setup of HVM ウィンドウ (HVM Setting 操作)

3.1.4 HVMの起動

(1) HVM の設定情報を確認します。内容に間違いがなければ、Next ボタンをクリックします。

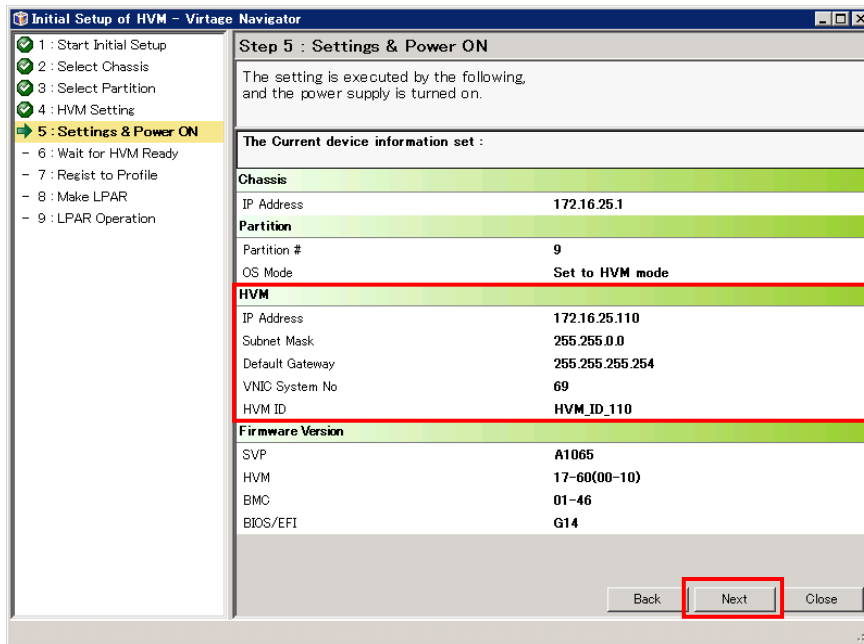


図 3-13 Initial Setup of HVM ウィンドウ (Setting & Power ON 表示)

HVM を正常に起動させるには、サーバブレードの BIOS 設定が HVM 必須値に設定されている必要があります。

そのため BIOS 設定の設定状態を確認するメッセージが表示されます。

BIOS 設定の内容は、サーバブレードの出荷形態によって異なります。

BIOS の設定手順については、3.5 BIOS の設定を参照してください。

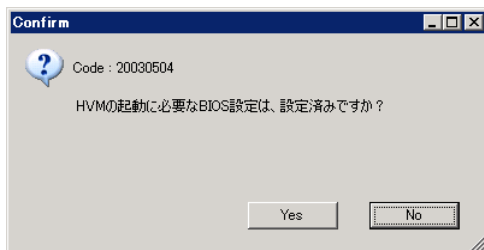


図 3-14 Confirm ウィンドウ (BIOS 設定確認)

サーバブレードの BIOS 設定が HVM 必須値に設定されていない場合は、No ボタンをクリックします。

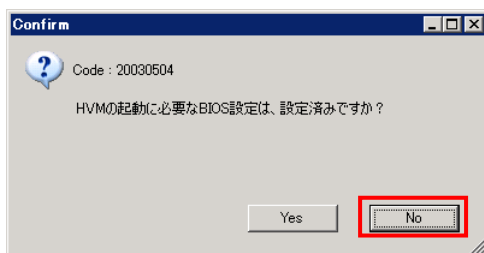


図 3-15 Confirm ウィンドウ (BIOS 設定確認 1)

Remote KVM コンソールを使用する際に、予め準備しておく事項を表示します。

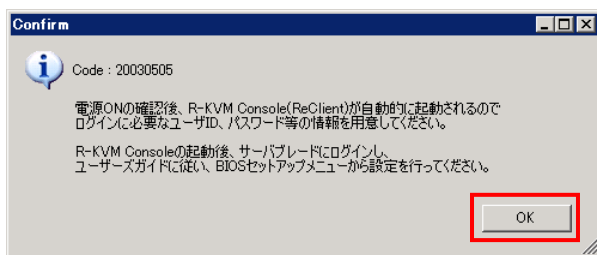


図 3-16 Confirm ウィンドウ (Remote KVM コンソール注意事項)

(2) サーバブレードの BIOS 設定が HVM 必須値に設定されている場合は、Yes ボタンをクリックします。

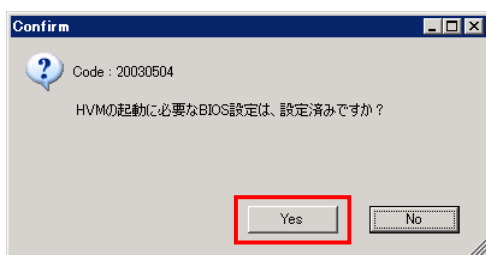


図 3-17 Confirm ウィンドウ (BIOS 設定確認 2)

Setting & Power On ステップに移行し、サーバブレードの電源 On 待ちを示す画面が表示されます。

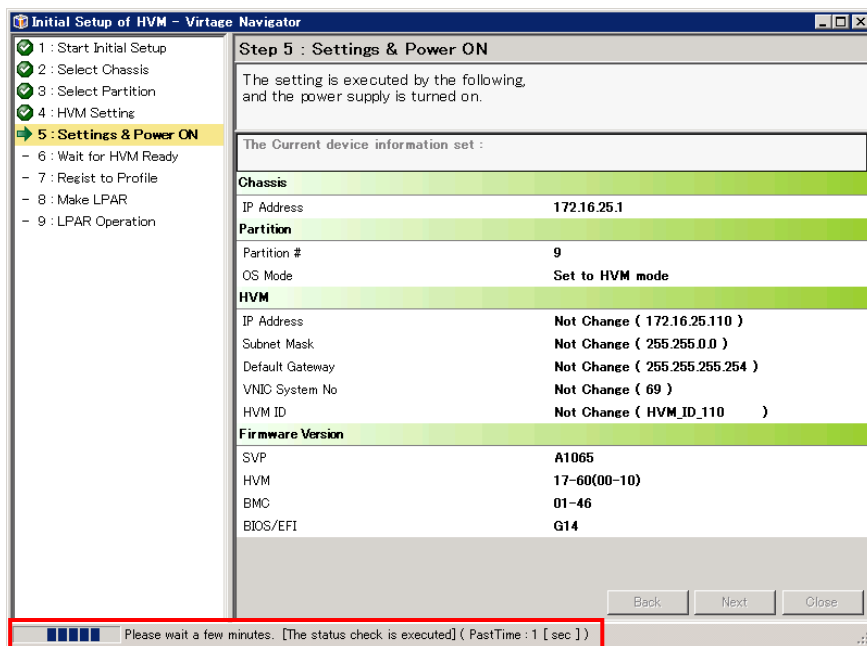


図 3-18 Initial Setup of HVM ウィンドウ (Setting & Power On 動作中)

サーバブレードの電源が On になると、Waiting for HVM Ready ステップに移行します。
HVM の立ち上げ待ちを示すメッセージが表示されます。
この間に BIOS 起動と HVM 起動が行われ、この画面は約 5 分間表示されます。
BIOS 設定が指示された場合、Remote KVM コンソールが自動的に起動されます。
この場合、3.5 BIOS の設定に記載されている手順で BIOS を設定してください。

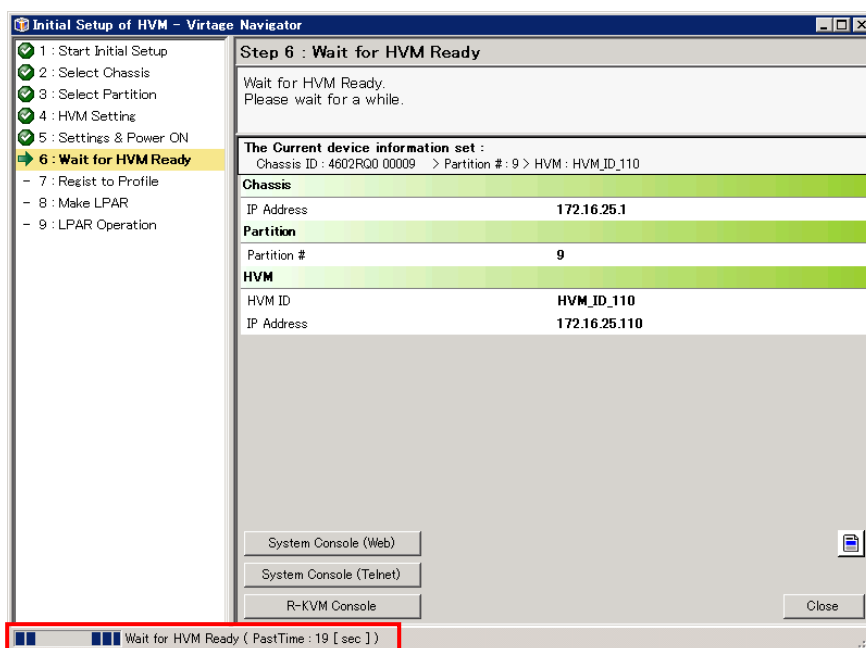


図 3-19 Initial Setup of HVM ウィンドウ (Wait for HVM Ready 動作中)

HVM の立ち上げに成功すると、自動的に Register to Profile ステップに移行します。

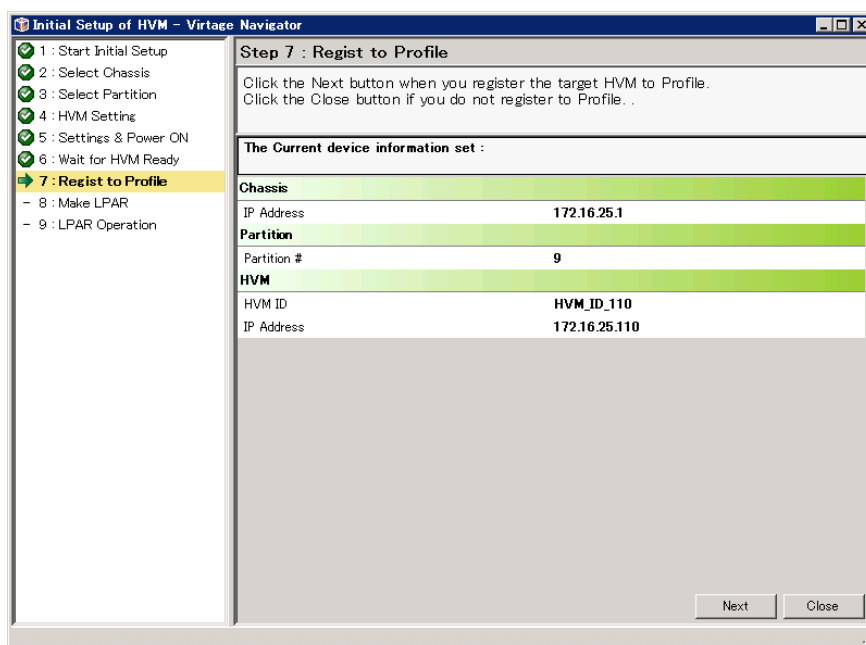


図 3-20 Initial Setup of HVM ウィンドウ (Setting & Power On 完了)

3.1.5 HVMの登録

- (1) HVM の登録は、HVM Console、Monitoring、Viewer、Migration を使用するために必要な操作です。
Next ボタンをクリックします。

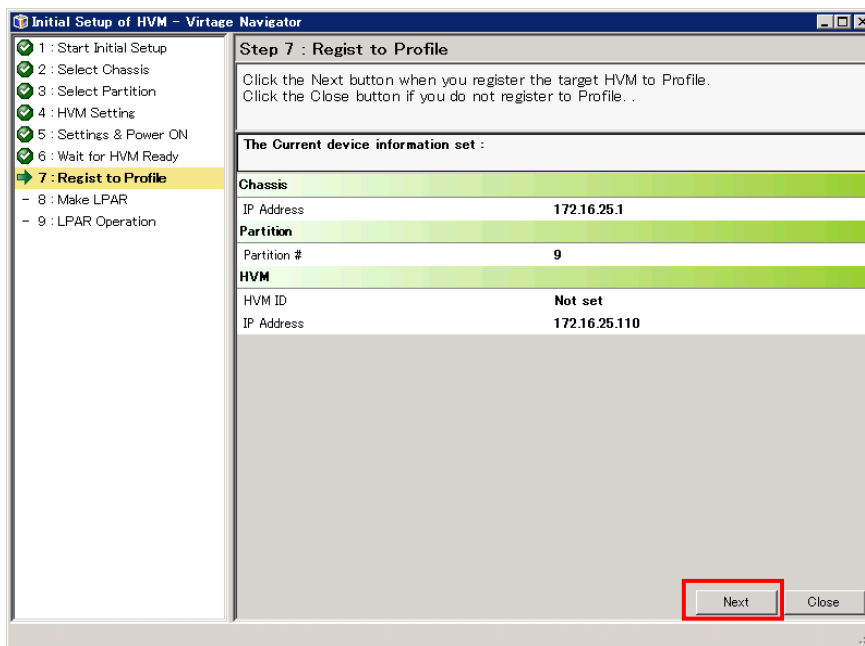


図 3-21 Initial Setup of HVM ウィンドウ (Regist to Profile)

HVM の登録が完了すると、自動的に Make LPAR のステップに移行します。

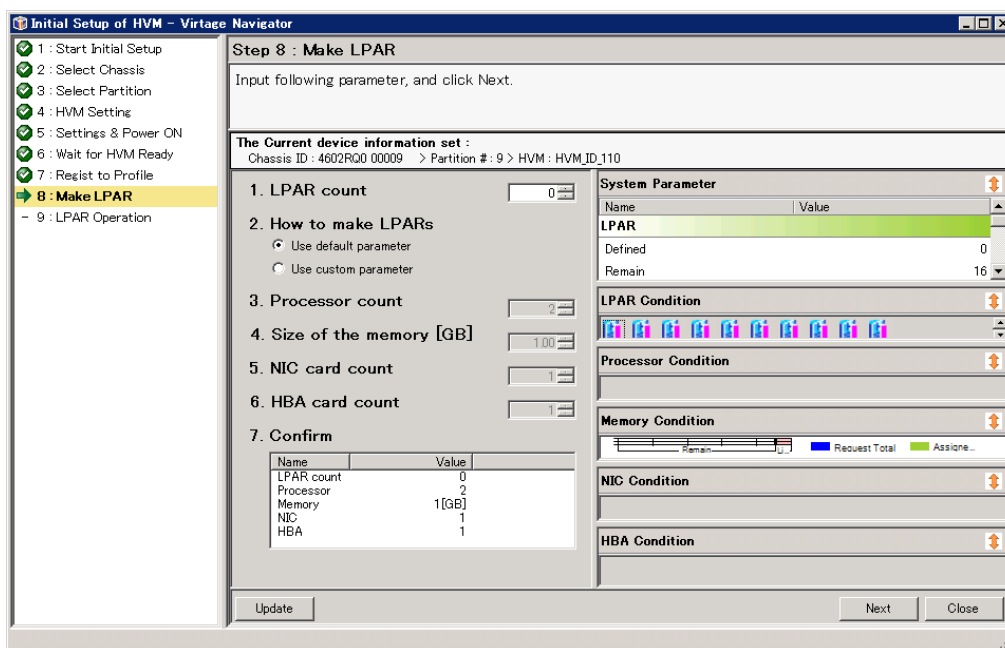


図 3-22 Initial Setup of HVM ウィンドウ (Make LPAR)

3.1.6 LPARの作成

LPAR 作成では、以下に示す項目で LPAR を作成します。

表 3-2 LPAR 作成の指定項目

#	設定項目	説明	補足															
1	LPAR 数	新しく作成する LPAR の個数を指定します。 同じ構成の LPAR を複数作成する場合は、2 以上を指定してください	個数が 0 で Next ボタンをクリックすると、LPAR を作成せず次のステップに進みます。															
2	作成方法	作成する LPAR の構成を選択します。 〈デフォルト構成〉 HVM が推奨するデフォルトの LPAR 構成を指定します。 デフォルト LPAR 構成 <table><tr><td>No.</td><td>構成</td><td>設定値</td></tr><tr><td>1</td><td>プロセッサ数</td><td>2</td></tr><tr><td>2</td><td>メモリサイズ</td><td>1 [GB]</td></tr><tr><td>3</td><td>NIC カード数</td><td>1</td></tr><tr><td>4</td><td>HBA カード数</td><td>1</td></tr></table> 〈カスタム構成〉 LPAR 構成の値を直接指定できます。	No.	構成	設定値	1	プロセッサ数	2	2	メモリサイズ	1 [GB]	3	NIC カード数	1	4	HBA カード数	1	導入時はデフォルト構成を指定することを推奨します。
No.	構成	設定値																
1	プロセッサ数	2																
2	メモリサイズ	1 [GB]																
3	NIC カード数	1																
4	HBA カード数	1																
3	プロセッサ数	LPAR の CPU 数を指定します。	—															
4	メモリサイズ	LPAR のメモリ容量を指定します。	—															
5	NIC カード数	LPAR の NIC の数を指定します。	ポート数でないことに注意してください。															
6	HBA カード数	LPAR の FC HBA の数を指定します。	ポート数でないことに注意してください。															
7	保存	HVM 上に生成した LPAR の構成を装置の外部記憶装置に保存します。	—															

(1) リソースの空き状態が画面右側に表示されます。

この内容を確認しながら、作成する LPAR のパラメータを指定します。

作成する LPAR のパラメータが決まったところで、Next ボタンをクリックします。

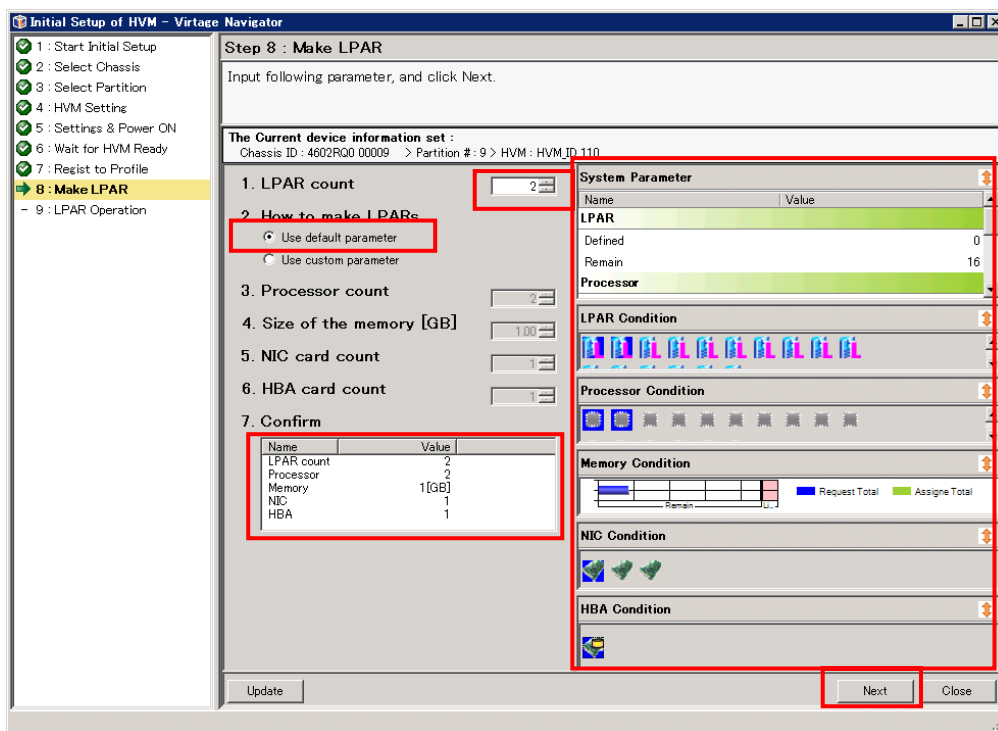


図 3-23 Initial Setup of HVM ウィンドウ (Make LPAR 操作)

(2) LPAR の作成が完了すると、自動的に Operation LPAR のステップに移行します。

LPAR を選択して、作成した LPAR の構成を確認します。

構成に問題がなければ、Save ボタンをクリックして LPAR 構成保存をします。

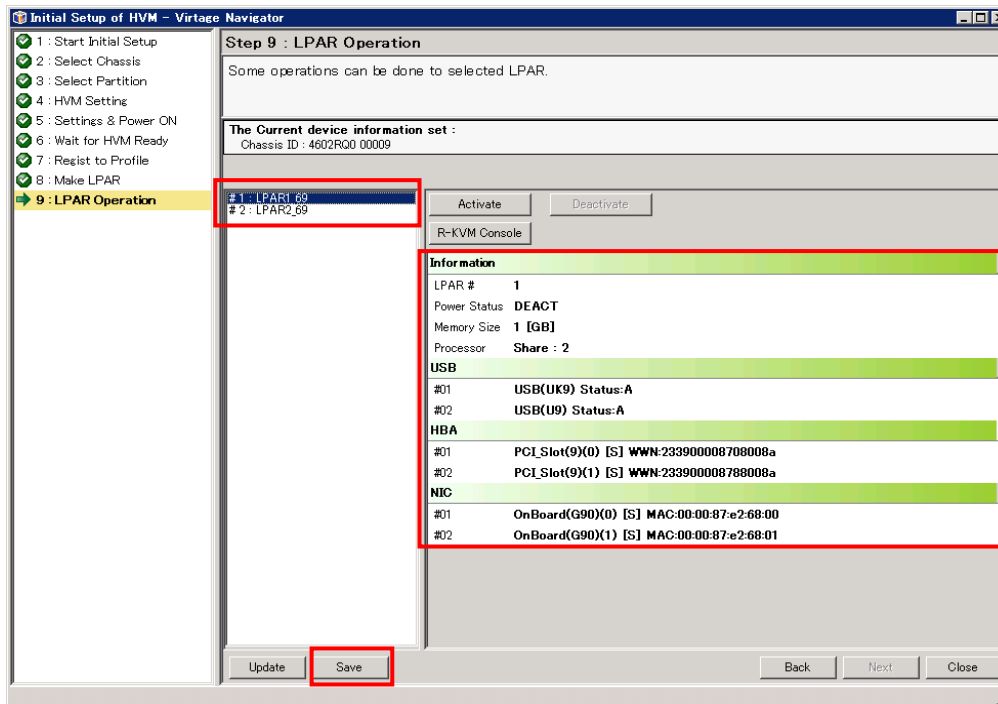


図 3-24 Initial Setup of HVM ウィンドウ (Make LPAR の完了)

LPAR 構成情報保存の確認メッセージが表示されます。OK ボタンをクリックします。

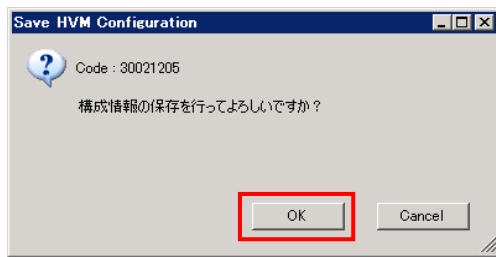


図 3-25 Save HVM Configuration ウィンドウ (LPAR 構成保存の確認)

正常終了のメッセージが表示されます。OK ボタンをクリックします。

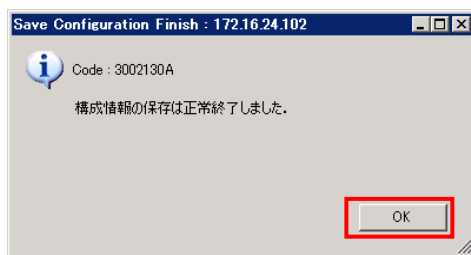


図 3-26 Save HVM Configuration ウィンドウ (LPAR 構成保存の完了)

3.1.7 LPARの開始

(1) LPAR を選択して、Activate ボタンをクリックします。

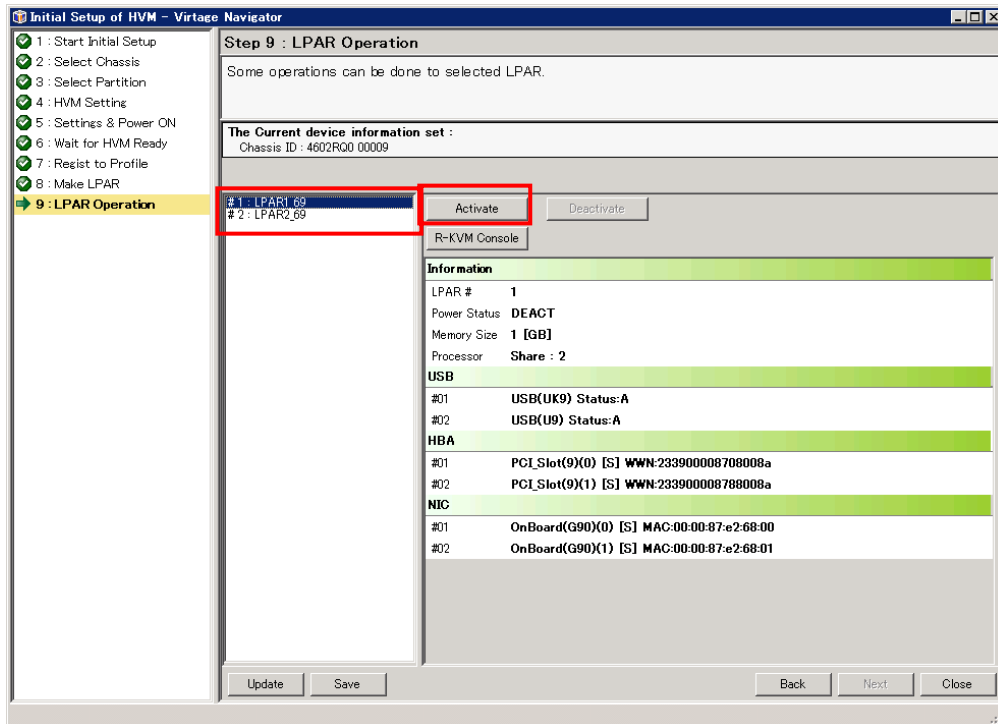


図 3-27 Initial Setup of HVM ウィンドウ (LPAR の Activate の開始)

(2) 確認メッセージが表示されます。OK ボタンをクリックします。

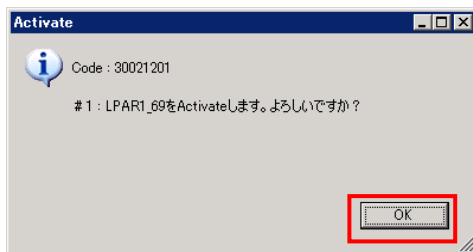


図 3-28 Activate ウィンドウ (LPAR の Activate の確認)

LPAR の Activate が完了すると、LPAR の状態が ACT に変化します。

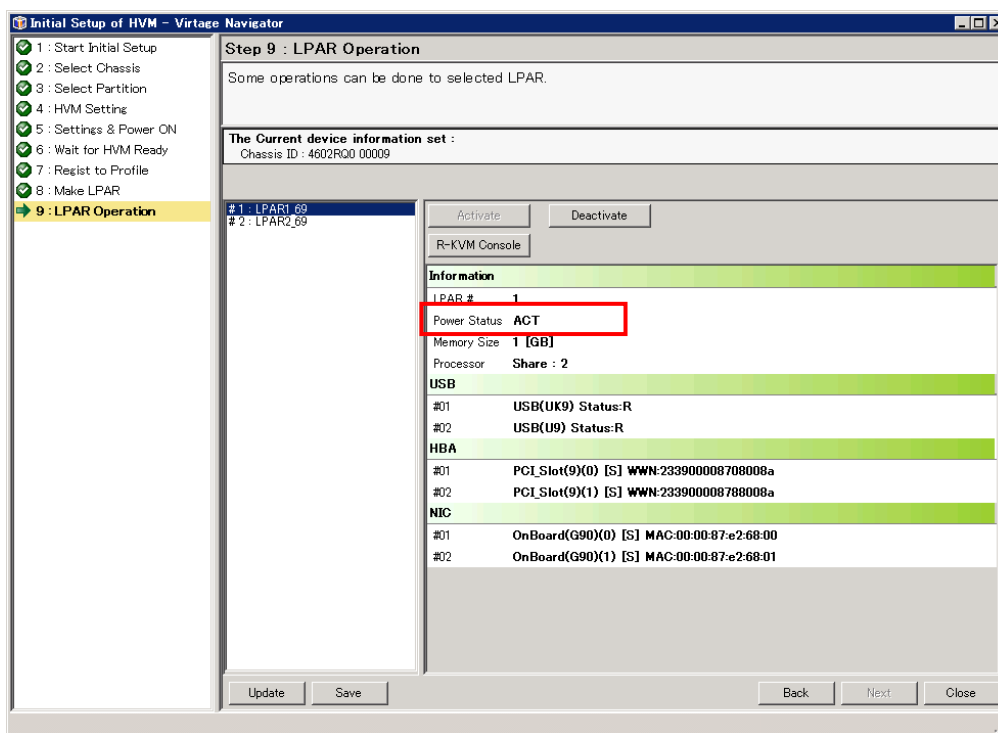


図 3-29 Initial Setup of HVM ウィンドウ (LPAR の Activate の完了)

(3) LPAR が Activate されると、ゲスト論理 EFI が起動します。

ゲスト論理 EFI のスクリーンを表示するために、R-KVM Console ボタンをクリックします。

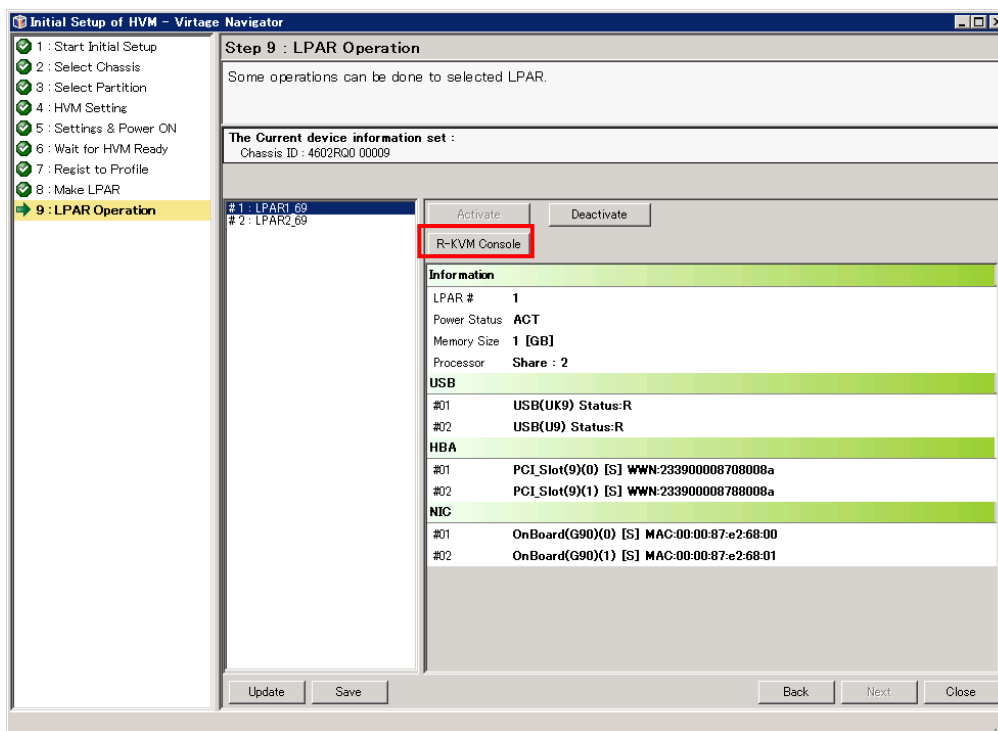


図 3-30 Initial Setup of HVM ウィンドウ (Remote KVM コンソールの起動)

(4) Remote KVM コンソールが起動されるので、接続ボタンをクリックします。

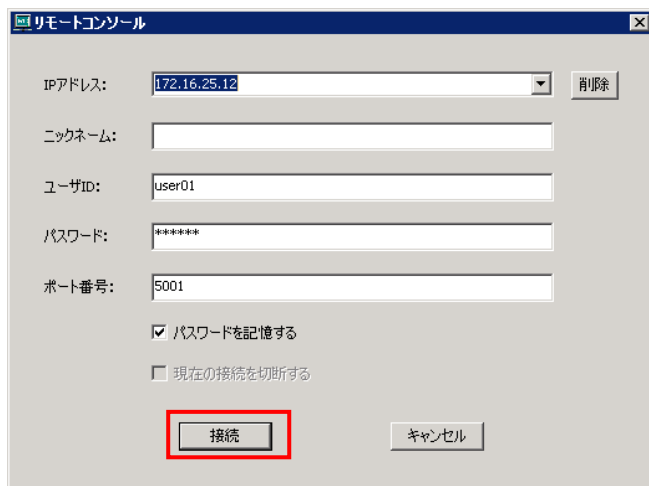
A screenshot of a 'リモートコンソール' (Remote Console) window. It contains several input fields: 'IPアドレス' (IP Address) with '172.16.25.12', 'ニックネーム' (Nickname) which is empty, 'ユーザID' (User ID) with 'user01', 'パスワード' (Password) with '*****', and 'ポート番号' (Port Number) with '5001'. There are two checkboxes: 'パスワードを記憶する' (Remember password) which is checked, and '現在の接続を切断する' (Disconnect current connection) which is unchecked. At the bottom, there are two buttons: '接続' (Connect) and 'キャンセル' (Cancel). The '接続' button is highlighted with a red rectangle.

図 3-31 Initial Setup of HVM ウィンドウ (Remote KVM コンソールのログイン画面)

(5) フルスクリーンでゲスト論理 EFI のスクリーンが表示されます。

[Alt]+[q]を押下することで部分描写とフルスクリーンを交互に切り替えることができますが、操作はフルスクリーンに限られます。

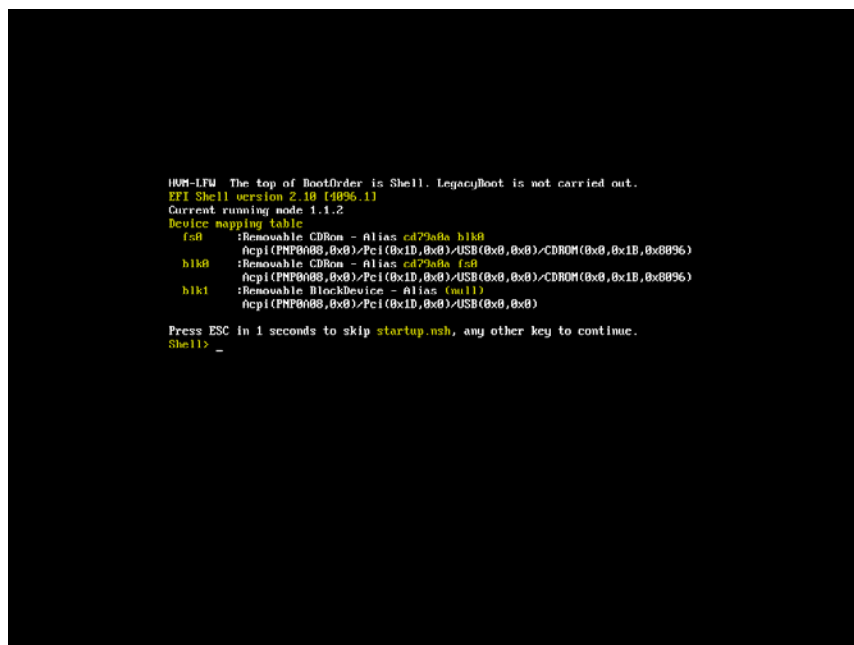


図 3-32 Initial Setup of HVM ウィンドウ (ゲスト論理 EFI の開始画面 (フルスクリーン))

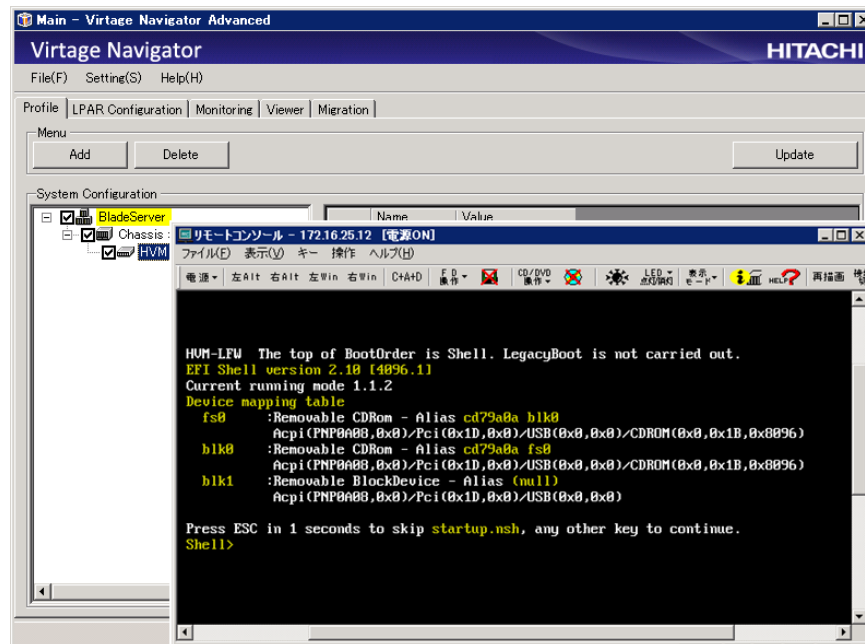


図 3-33 Initial Setup of HVM ウィンドウ(ゲスト論理 EFI の開始画面(部分描写))

以降、ゲスト論理 EFI の操作でブート設定を行い、OS のインストール作業ができます。
OS インストール手順は「Virtage OS インストール手順書」をご参照ください。

3.1.8 LPARの終了

LPAR の終了は、LPAR を Deactivate することで行います。

ゲスト論理 EFI が走行中の場合は、Virtage Navigator から LPAR を Deactivate します。

しかし、OS 走行中は、OS が提供する方法でシャットダウンしてください。

(1) LPAR を選択し、Deactivate ボタンをクリックします。

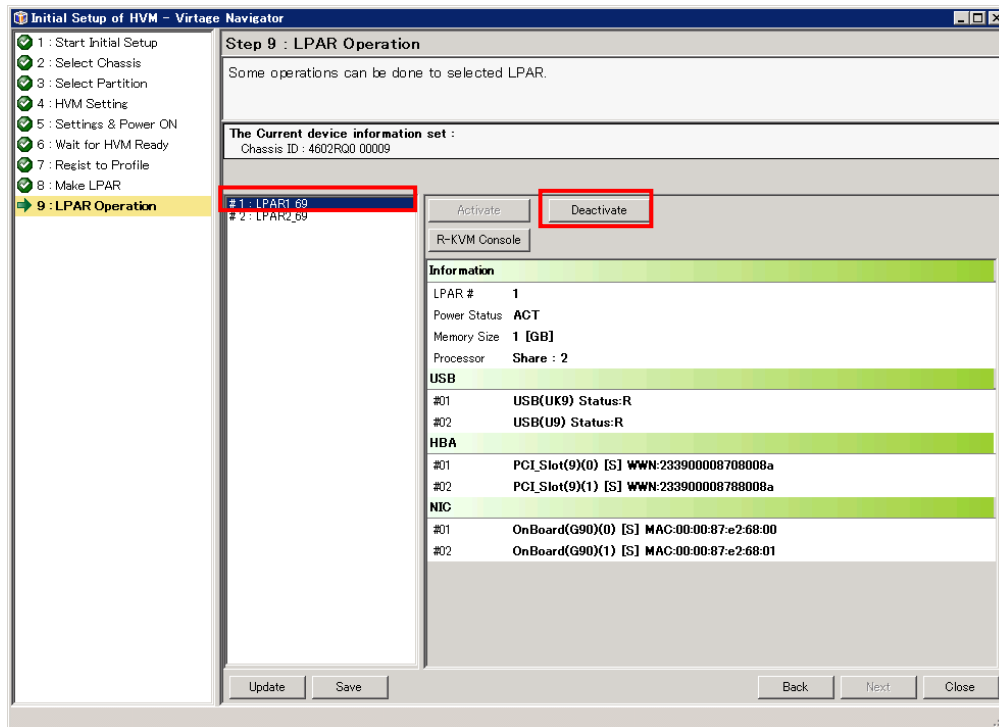


図 3-34 Initial Setup of HVM ウィンドウ (LPAR の Deactivate の開始)

(2) 確認メッセージが表示されます。OK ボタンをクリックします。

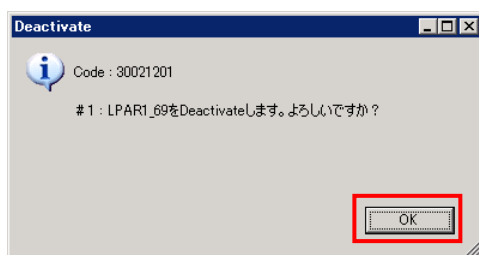


図 3-35 Deactivate ウィンドウ (LPAR の Deactivate の確認)

LPAR の Deactivate が完了すると、LPAR の状態が DEACT に変化します。

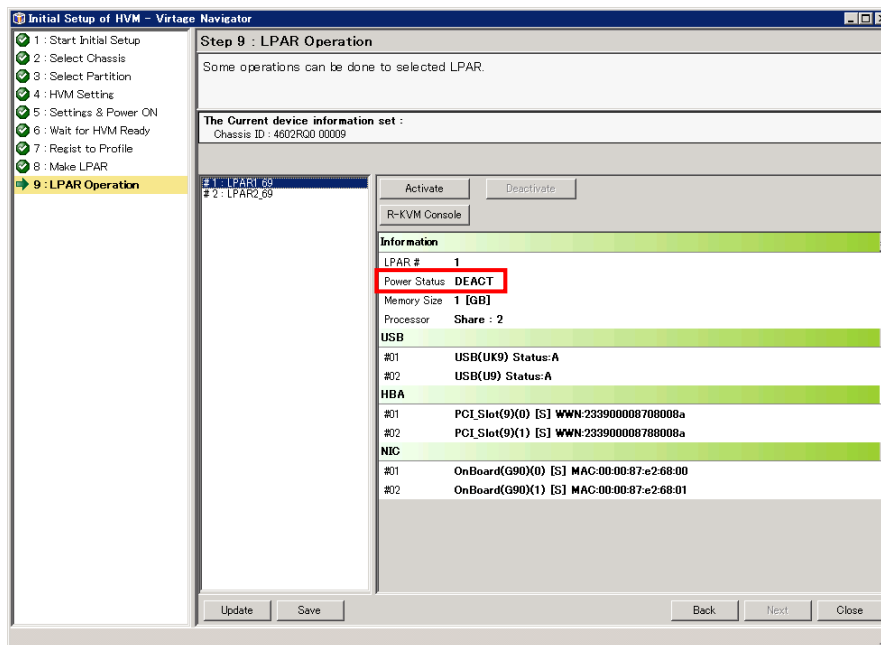


図 3-36 Initial Setup of HVM ウィンドウ (LPAR の Deactivate の完了)

3.2 LPARの追加

- (1) LPAR Configuration メニューの画面左側の HVM Select で HVM ID を選択し、画面右側の Make LPAR ボタンをクリックします。

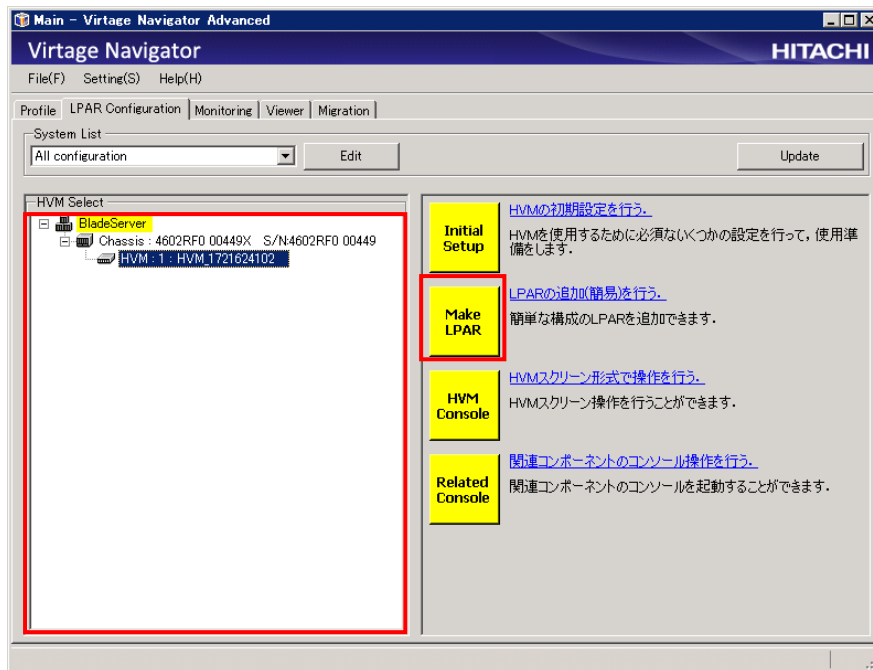


図 3-37 Main ウィンドウ (Make LPAR の開始)

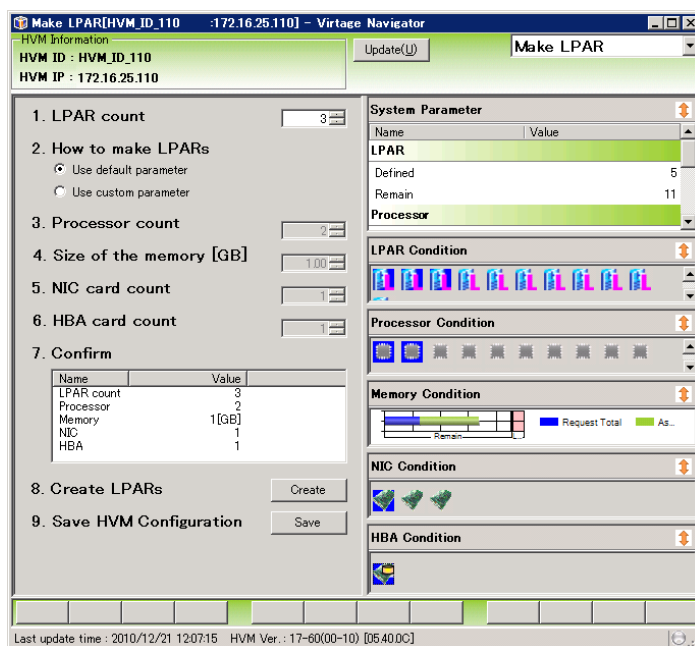


図 3-38 Make LPAR ウィンドウ (Make LPAR の開始)

- (2) LPAR 作成に必要なパラメータを指定します。

3.1. 6LPARの作成に示す操作と同じなので、そちらをご参照ください。

3.3 LPARの詳細設定

- (1) LPAR Configuration メニューの画面左側の HVM Select で HVM ID を選択し、画面右側の HVM Console ボタンをクリックします。

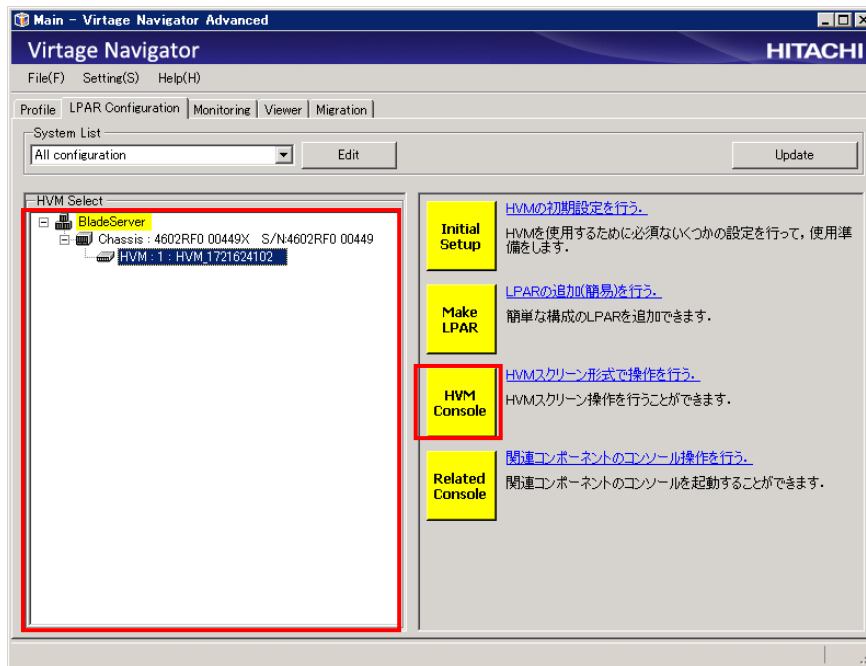


図 3-39 Main ウィンドウ (HVM Console の開始)

HVM コンソールのメニューが表示されます。

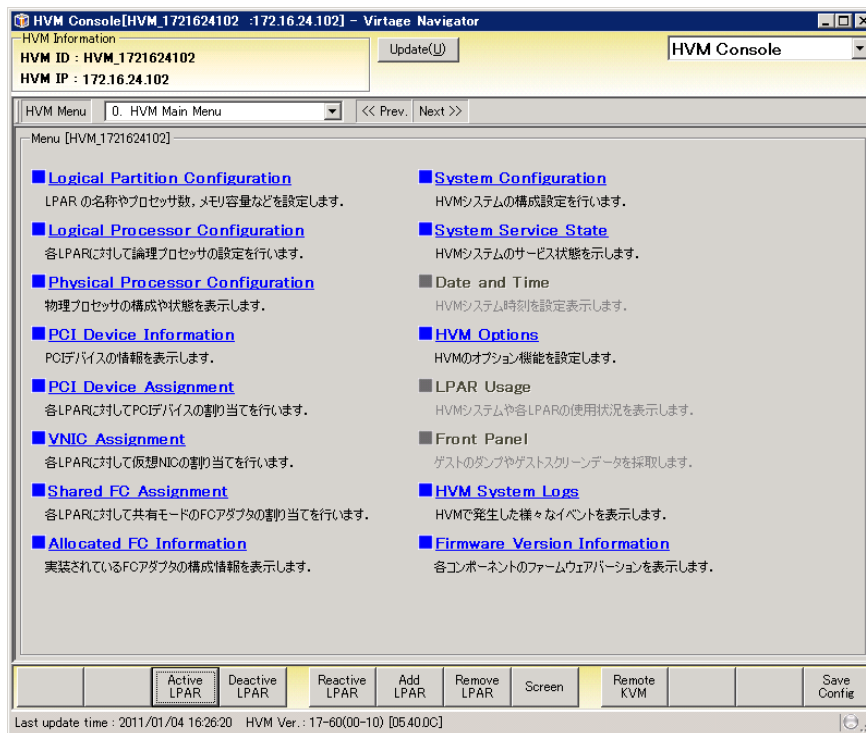


図 3-40 HVM Console ウィンドウ (HVM Console)

3.3.1 LPARの設定

3.3.1.1 LPARの追加

(1) HVM Console メニューで Logical Partition Configuration を選択します。

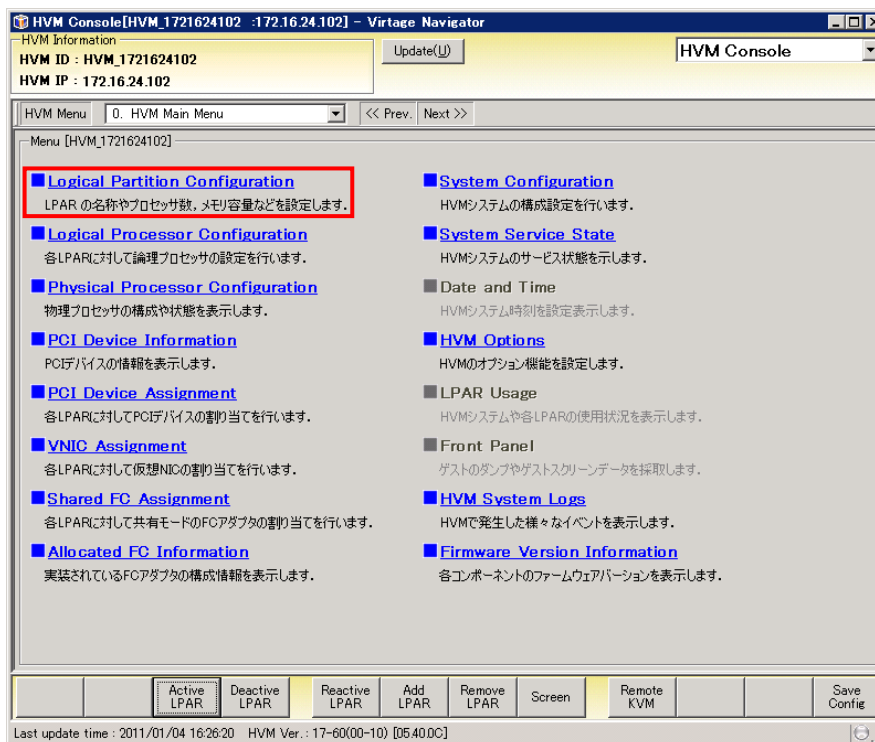


図 3-41 HVM Console ウィンドウ (Logical Partition Configuration の選択)

(2) Logical Partition Configuration で Add LPAR ボタンをクリックします。

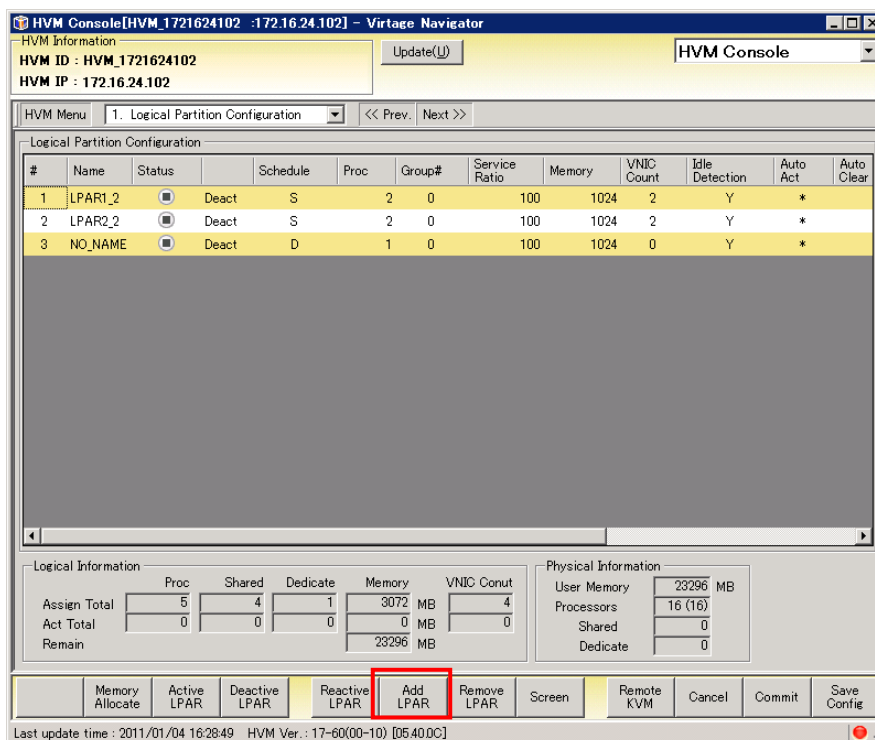


図 3-42 HVM Console ウィンドウ (Add ボタンのクリック)

(3) 作成する LPAR を選択し、OK ボタンをクリックします。

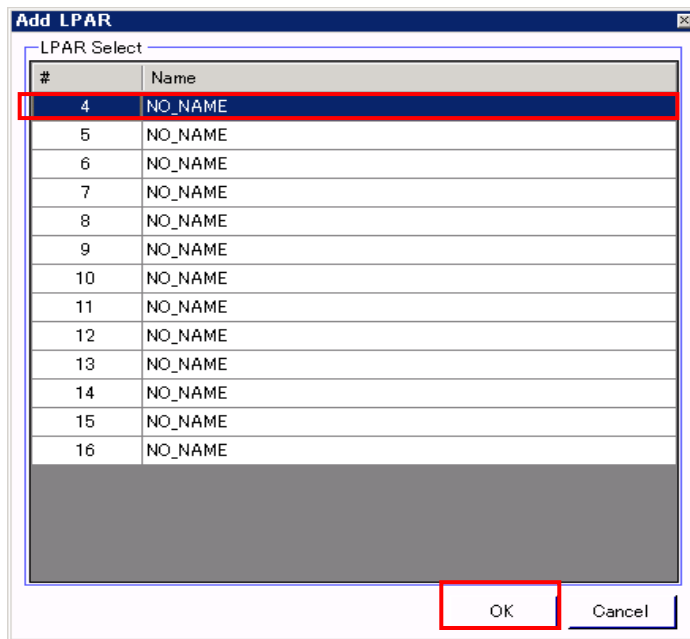


図 3-43 Add LPAR ウィンドウ (作成 LPAR の選択)

(4) 作成する LPAR を確認し、OK ボタンをクリックします。

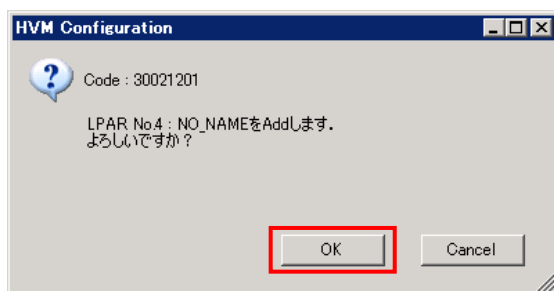


図 3-44 HVM Configuration ウィンドウ (作成 LPAR の確認)

(5) Logical Partition Configuration で作成した LPAR の Name 列を選択し、LPAR 名称を変更します。

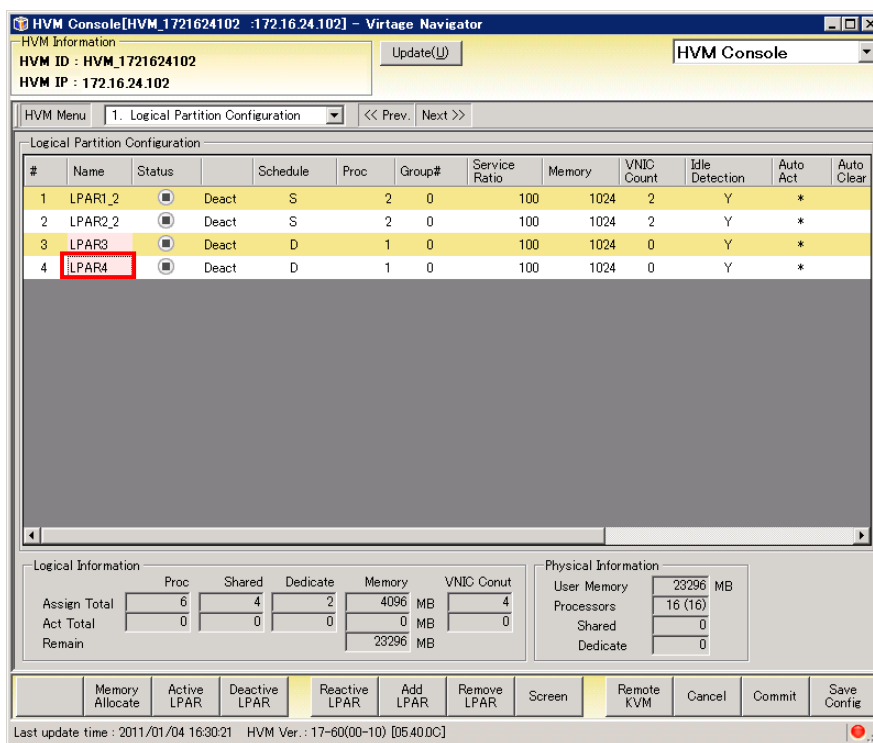


図 3-45 HVM Console ウィンドウ (LPAR 名称の変更)

(6) Commit ボタンをクリックします。

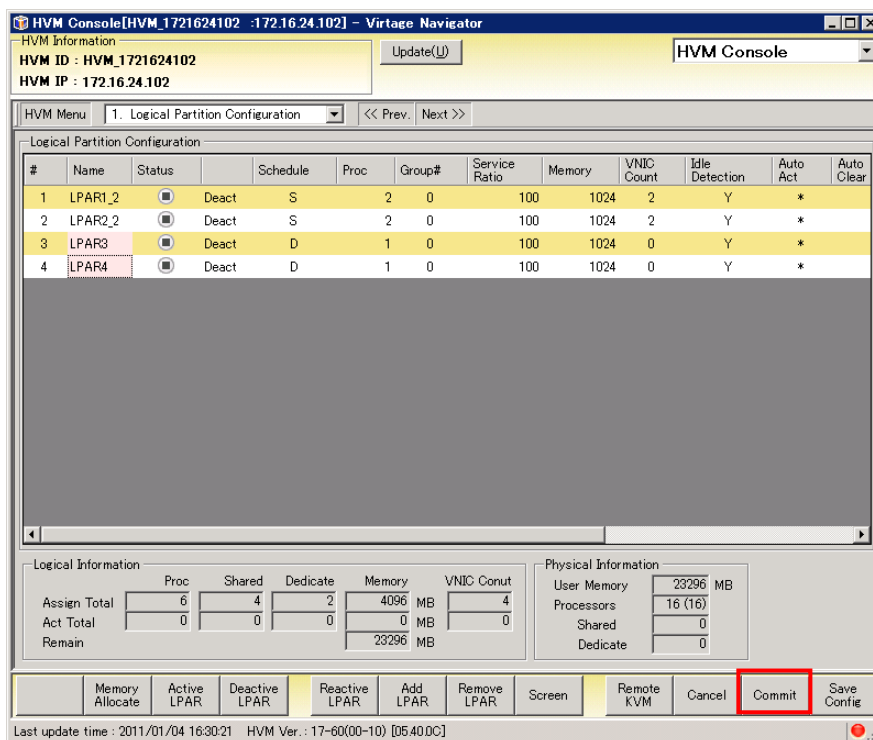


図 3-46 HVM Console ウィンドウ (Commit ボタンのクリック)

(7) 確認メッセージが表示されます。OK ボタンをクリックします。

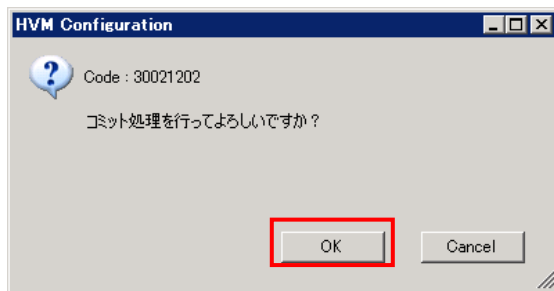


図 3-47 HVM Configuration ウィンドウ (Commit の確認)

3.3.1.2 プロセッサ数の設定

(1) Logical Partition Configuration で作成した LPAR の Proc 列を選択し、プロセッサ数を設定します。

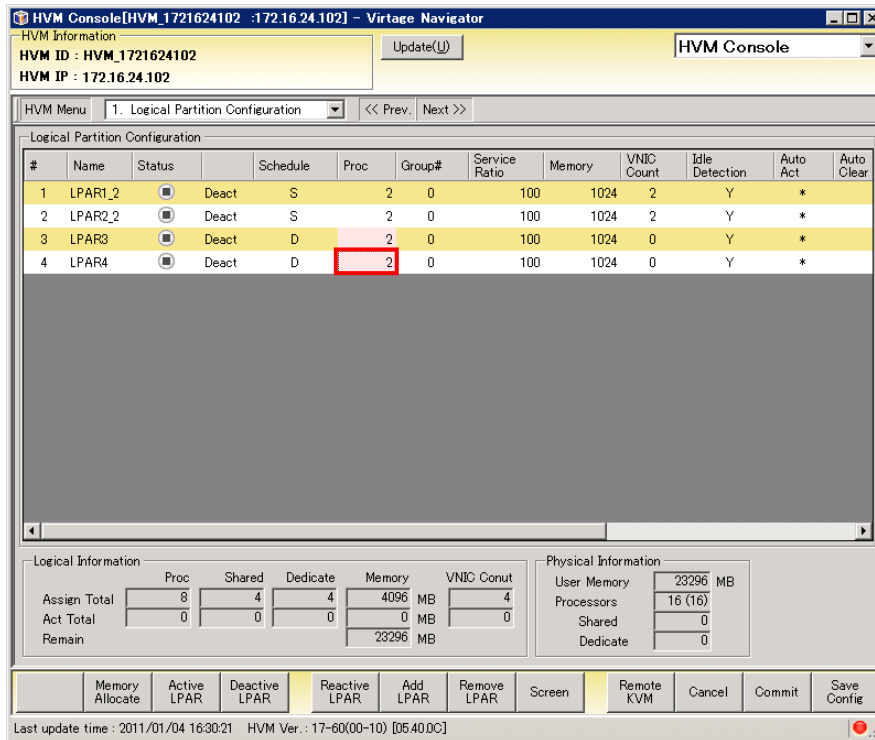


図 3-48 HVM Console ウィンドウ (プロセッサ数の設定)

(2) Commit ボタンをクリックします。

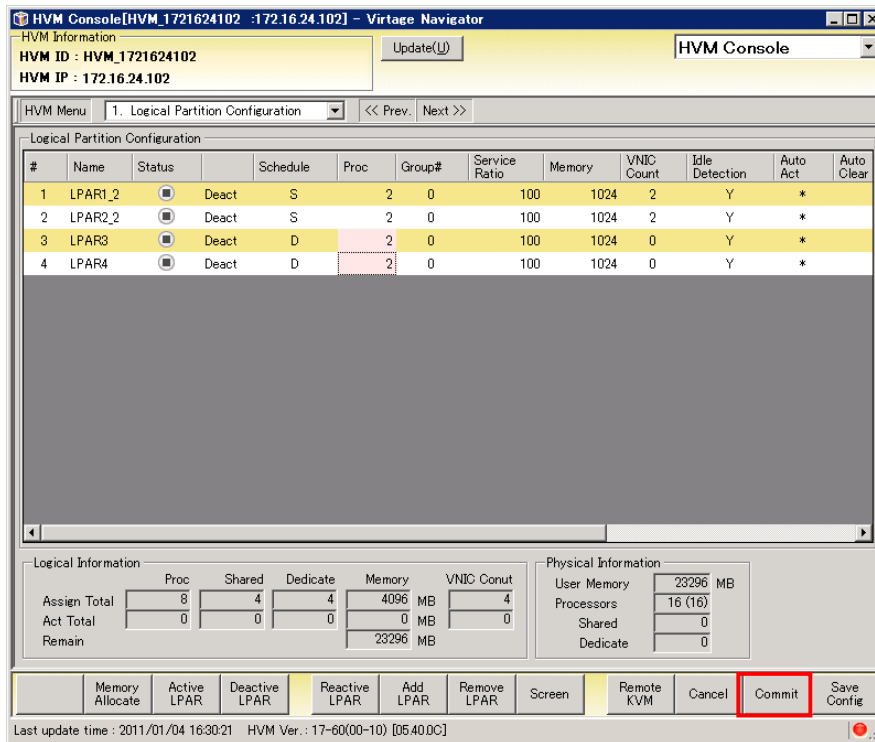


図 3-49 HVM Console ウィンドウ (Commit ボタンのクリック)

(3) 確認メッセージが表示されます。OK ボタンをクリックします。

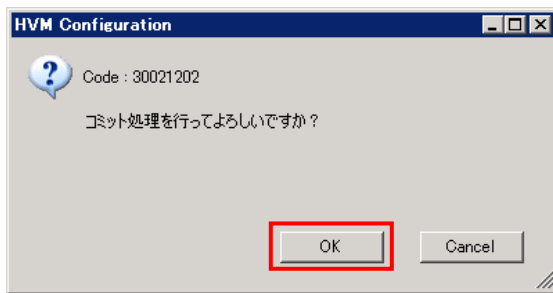


図 3-50 HVM Configuration ウィンドウ (Commit の確認)

3.3.1.3 メモリサイズの設定

(1) Logical Partition Configurationで作成した LPAR の Memory 列を選択します。

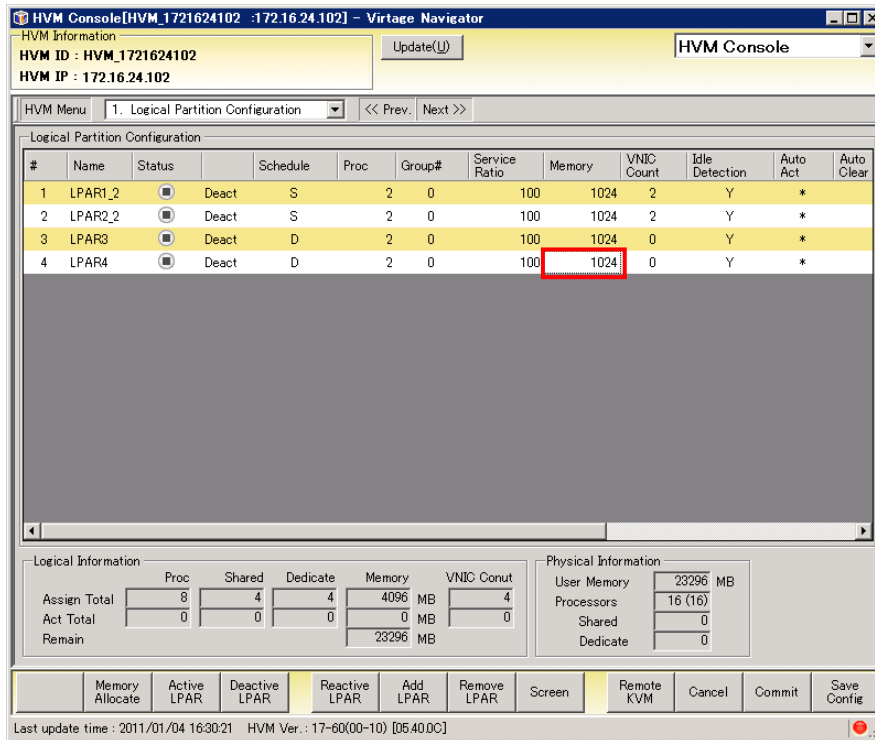


図 3-51 HVM Console ウィンドウ (Memory 列の選択)

(2) メモリサイズを設定します。

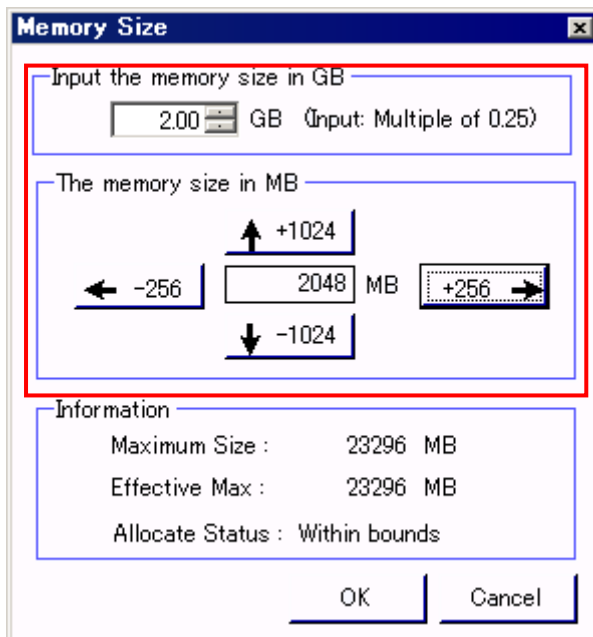


図 3-52 Memory Size ウィンドウ (メモリサイズの設定)

(3) Commit ボタンをクリックします。

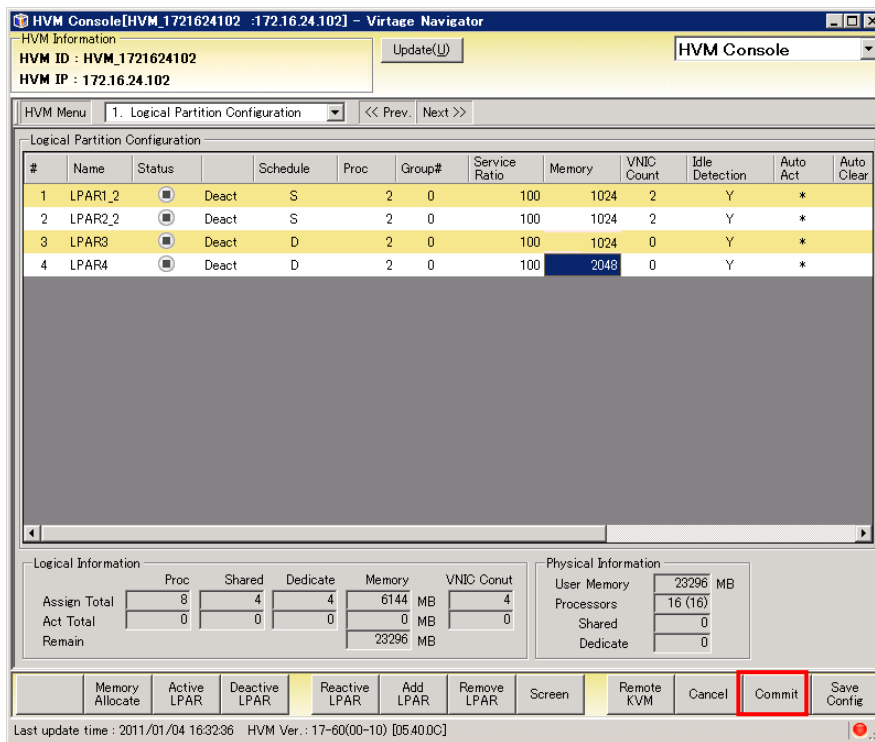


図 3-53 HVM Console ウィンドウ (Commit ボタンのクリック)

(4) 確認メッセージが表示されます。OK ボタンをクリックします。

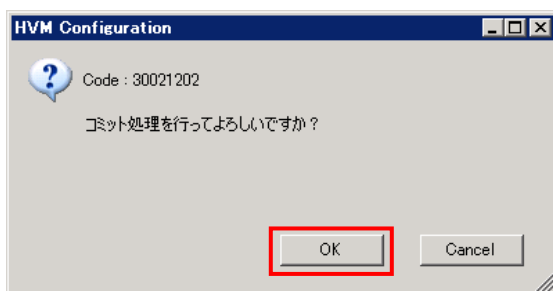


図 3-54 HVM Configuration ウィンドウ (Commit の確認)

3.3.1.4 共有NICの設定

(1) HVM Console メニューで VNIC Assignment を選択します。

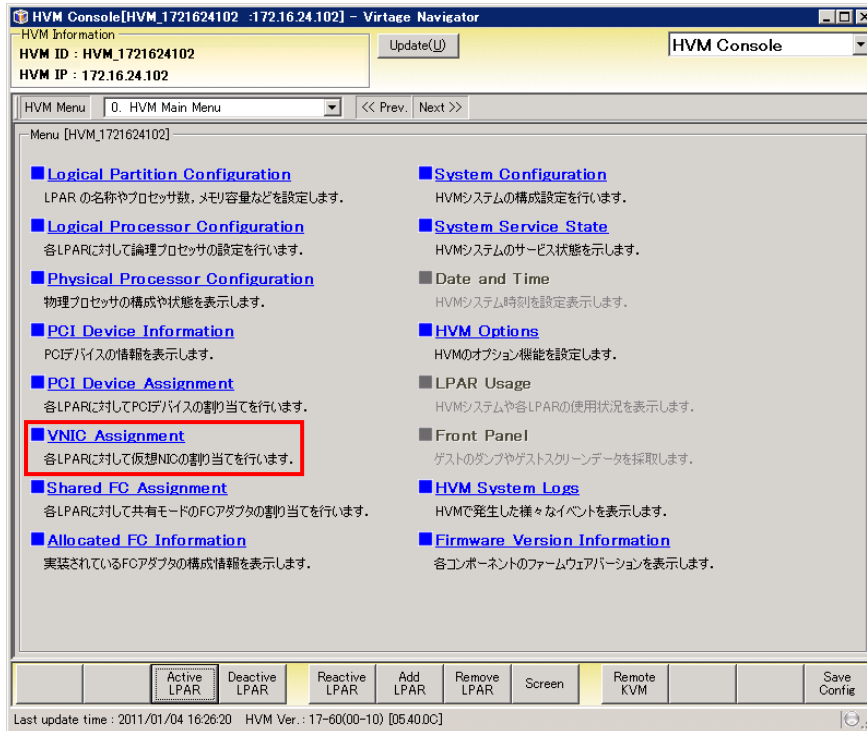


図 3-55 HVM Console ウィンドウ (VNIC Assignment の選択)

(2) 作成した LPAR の Virtual NIC Number の 0 列を選択します。

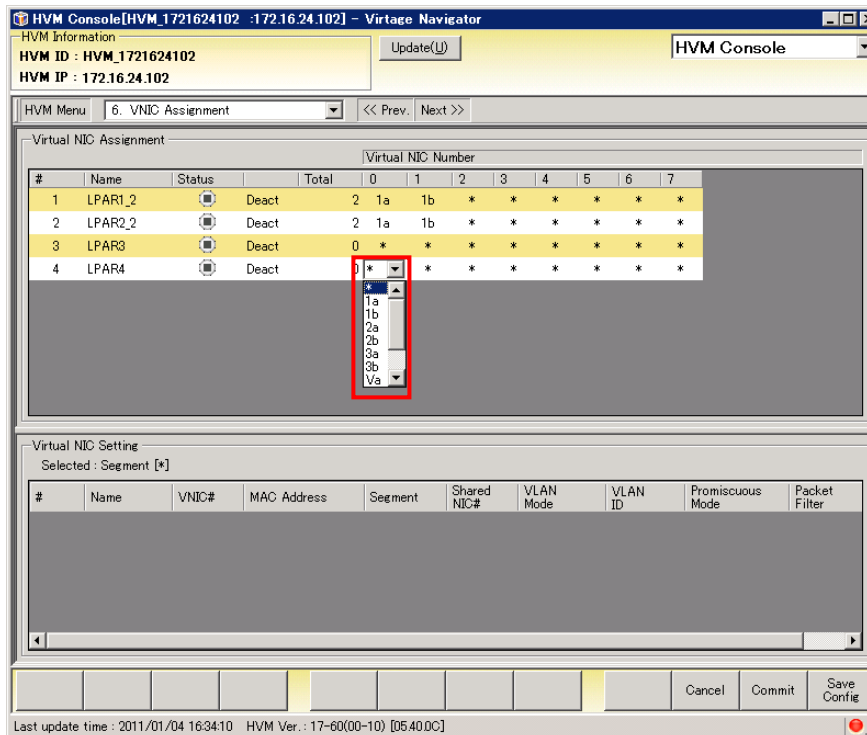


図 3-56 HVM Console ウィンドウ (Virtual NIC Number の選択)

(3) 1a を選択します。

共有 NIC は物理 LAN コントローラ単位で割り当てを行うため、1a を選択すると 1b も選択されます。

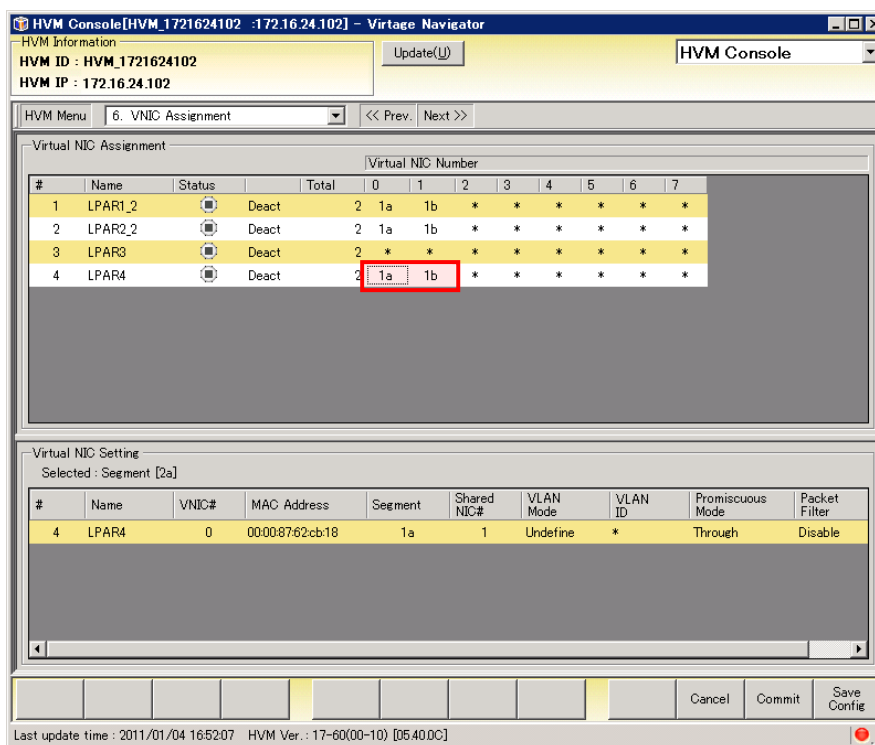


図 3-57 HVM Console ウィンドウ (Virtual NIC の選択)

(4) Commit ボタンをクリックします。

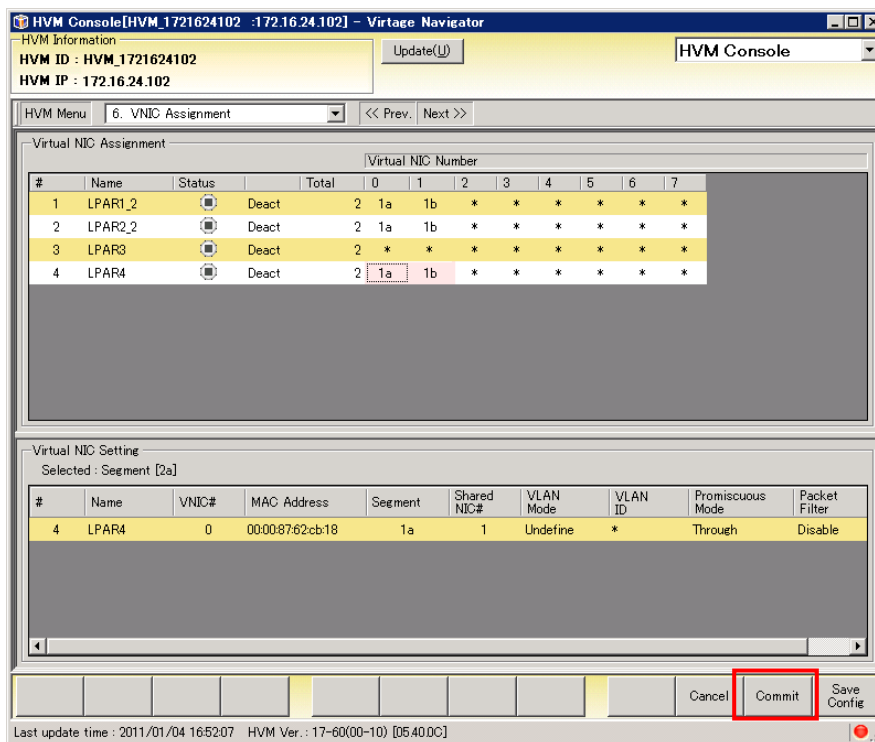


図 3-58 HVM Console ウィンドウ (Commit ボタンのクリック)

(5) 確認メッセージが表示されます。OK ボタンをクリックします。

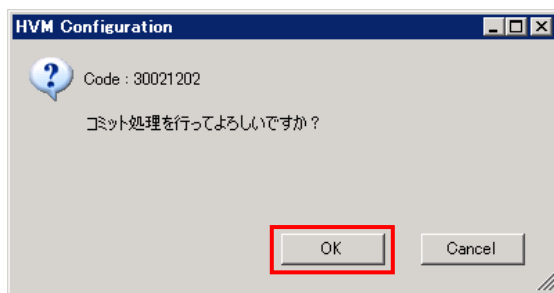


図 3-59 HVM Configuration ウィンドウ (Commit の確認)

3.3.1.5 共有FCポートの設定

- (1) HVM Console メニューで Shared FC Assignment を選択します。

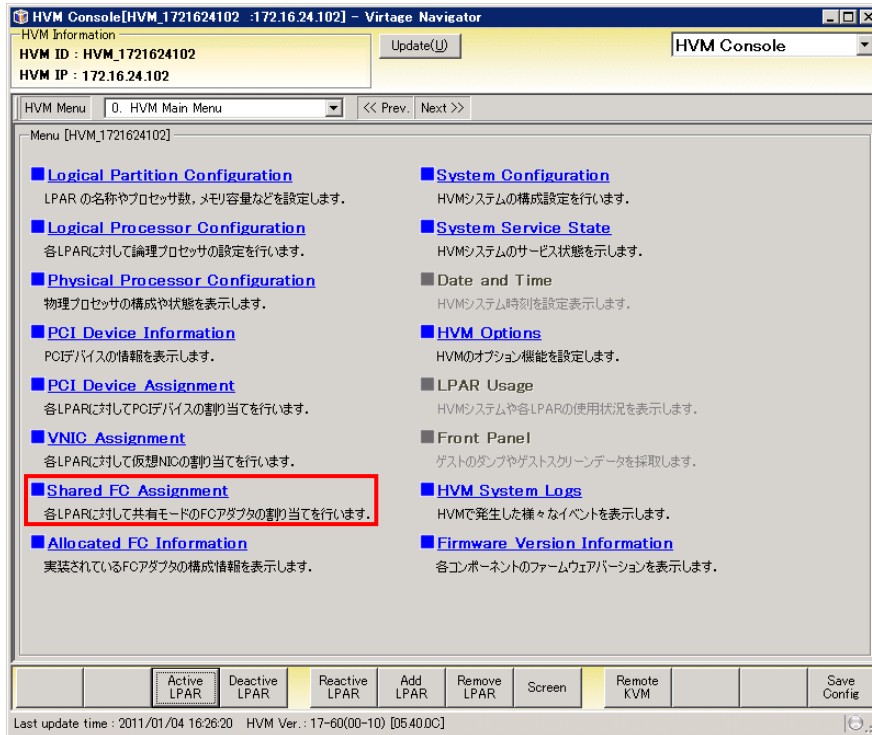


図 3-60 HVM Console ウィンドウ (Shared FC Assignment の選択)

- (2) 作成した LPAR の Shared FC#を選択します。

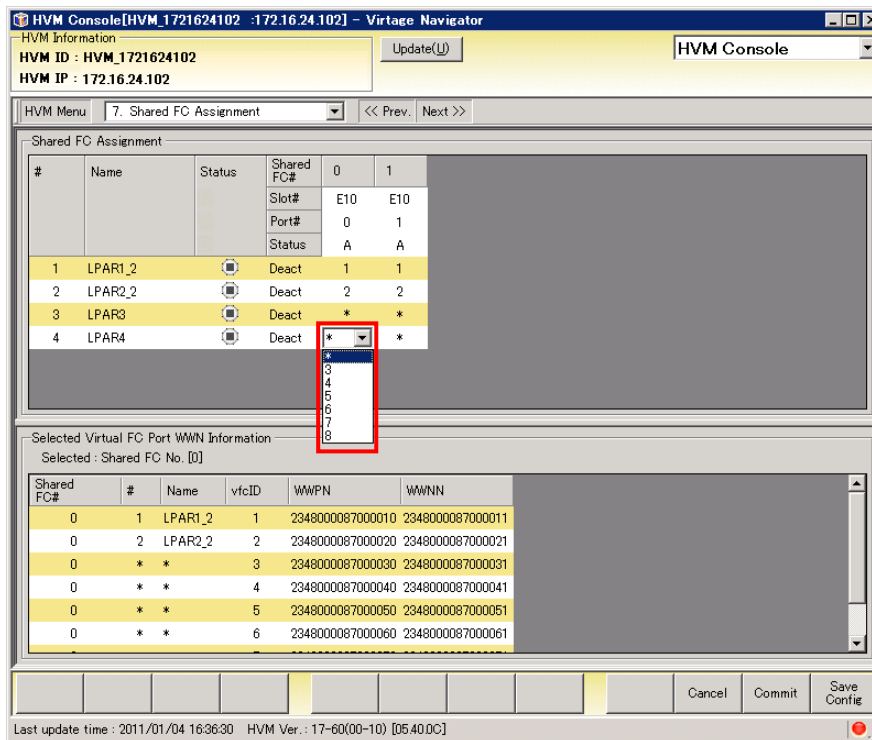


図 3-61 HVM Console ウィンドウ (Shared FC#の選択)

(3) 共有 FC ポートを選択します。

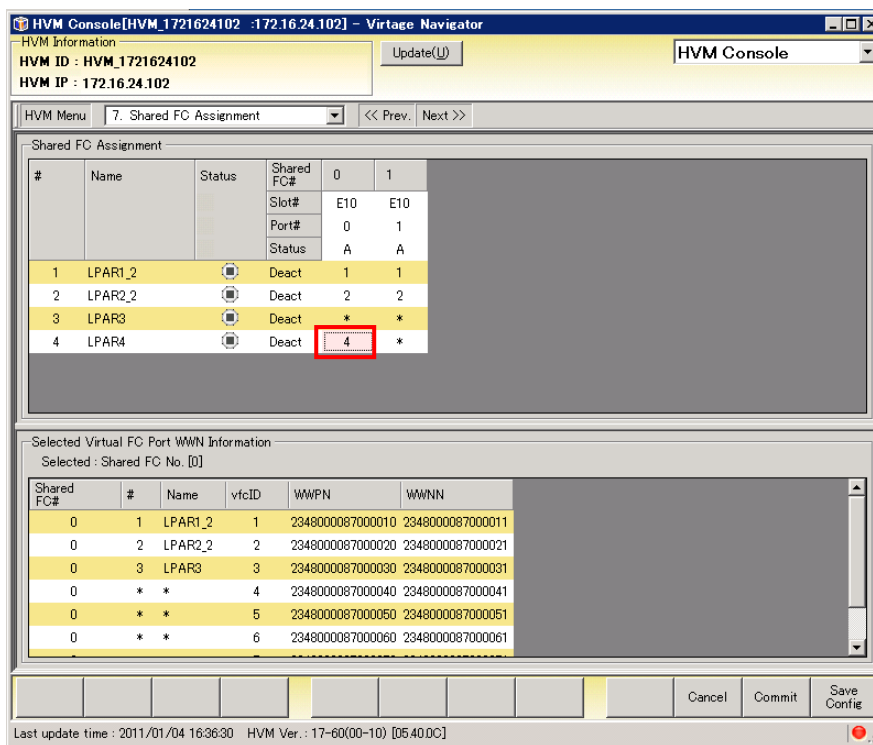


図 3-62 HVM Console ウィンドウ(共有 FC ポートの選択)

(4) Commit ボタンをクリックします。

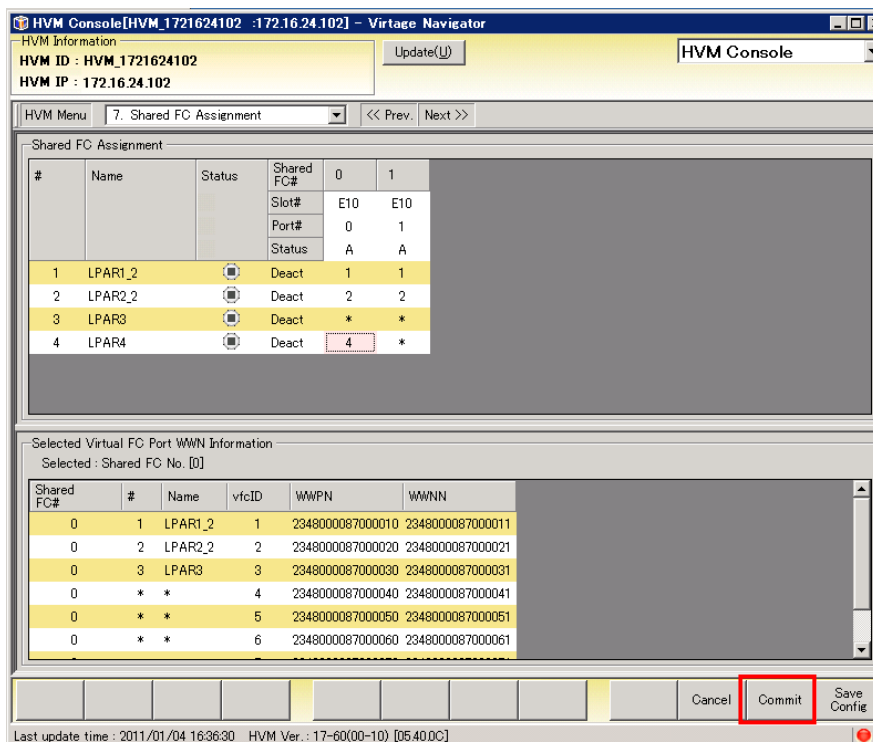


図 3-63 HVM Console ウィンドウ(Commit ボタンのクリック)

(5) 確認メッセージが表示されます。OK ボタンをクリックします。

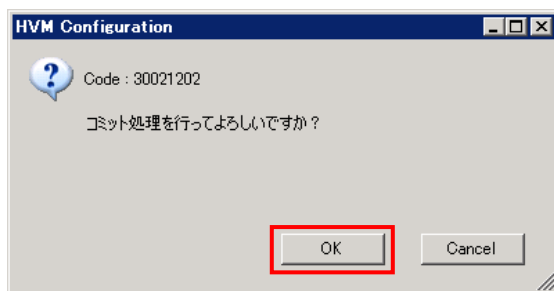


図 3-64 HVM Configuration ウィンドウ (Commit の確認)

3.3.1.6 USBの設定

- (1) HVM Console メニューで PCI Device Assignment を選択します。

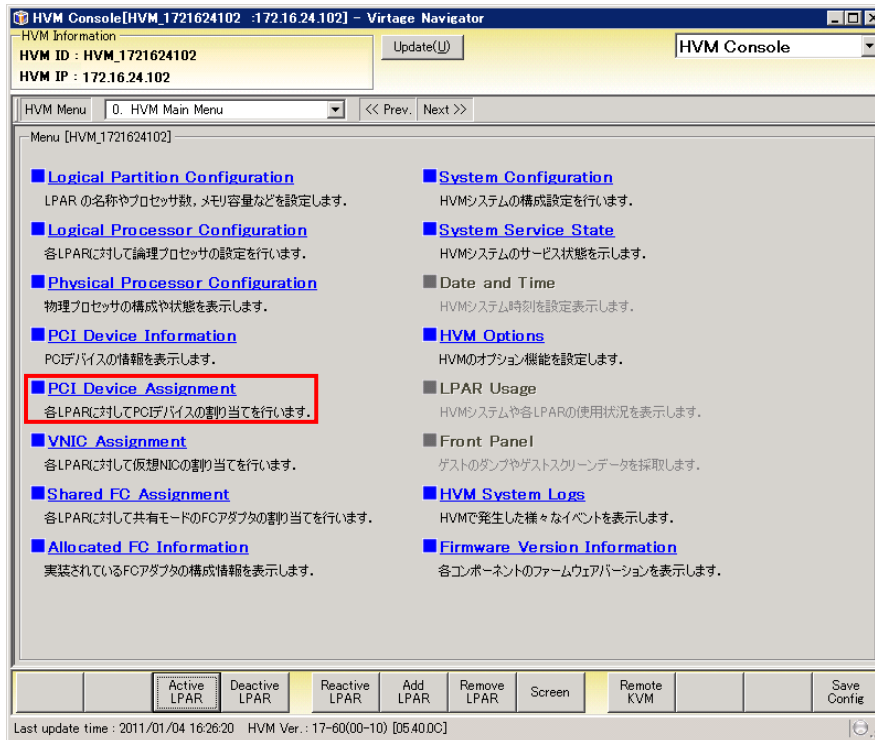


図 3-65 HVM Console ウィンドウ (PCI Device Assignment の選択)

- (2) 作成した LPAR の U 列を選択します。

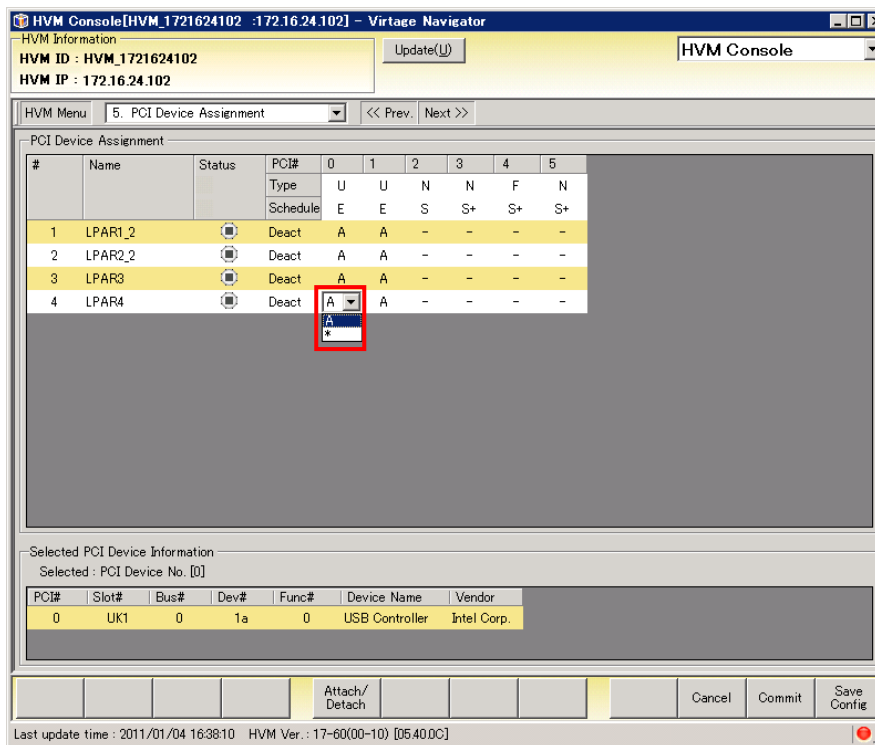


図 3-66 HVM Console ウィンドウ (USB の選択)

(3) A を設定し USB を設定します。

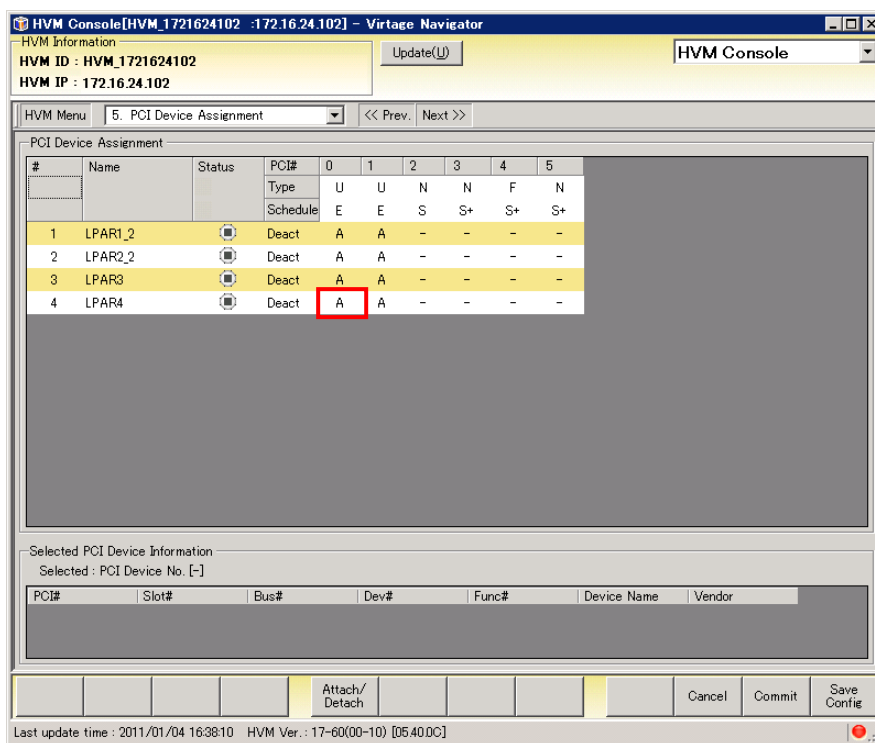


図 3-67 HVM Console ウィンドウ (USB の設定)

(4) Commit ボタンをクリックします。

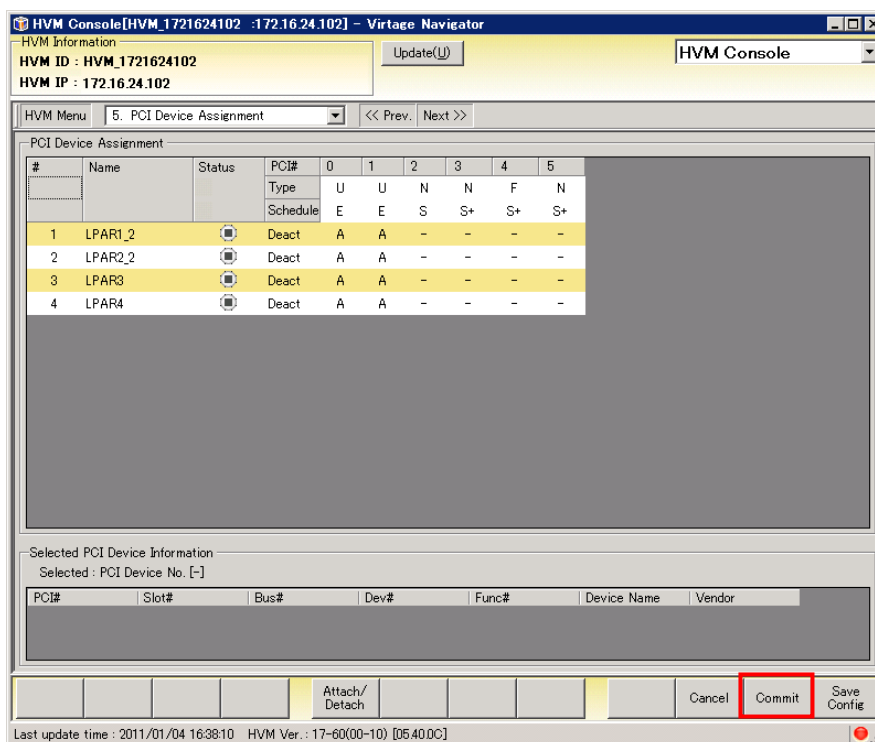


図 3-68 HVM Console ウィンドウ (Commit ボタンのクリック)

- (5) 確認メッセージが表示されます。OK ボタンをクリックします。

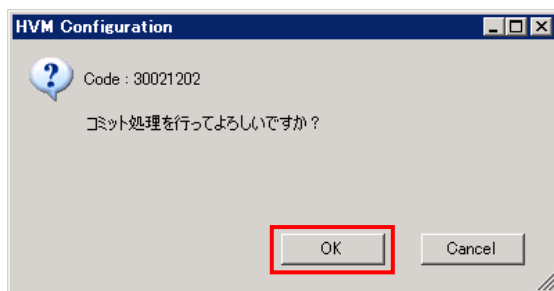


図 3-69 HVM Configuration ウィンドウ (Commit の確認)

3.3.1.7 HVM構成情報の保存

- (1) HVM Console メニューから Save Config ボタンをクリックします。

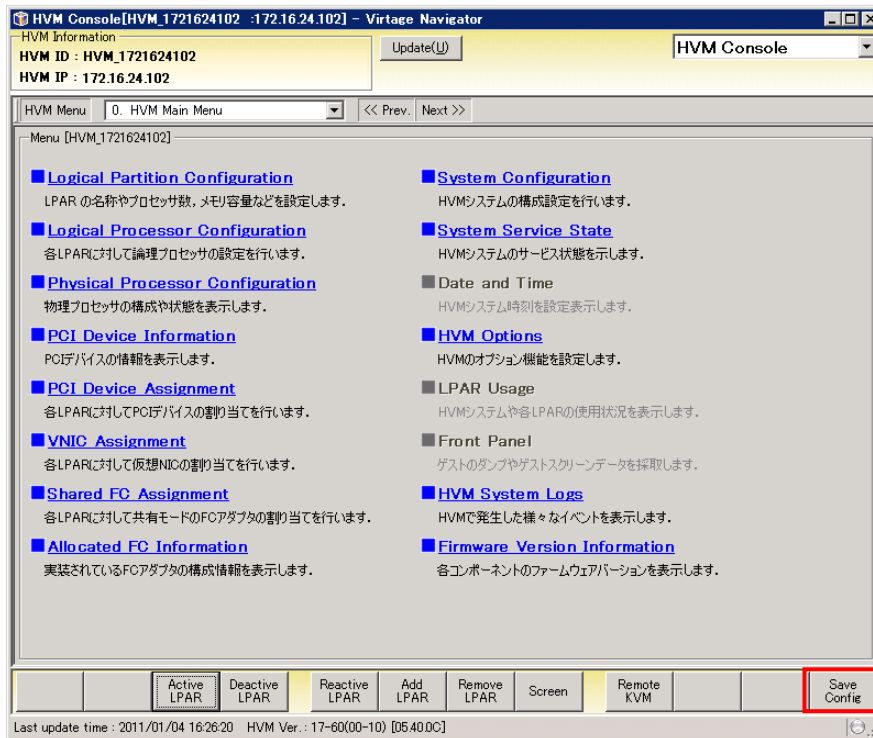


図 3-70 HVM Console ウィンドウ (Save ボタンのクリック)

- (2) 確認メッセージが表示されます。OK ボタンをクリックします。

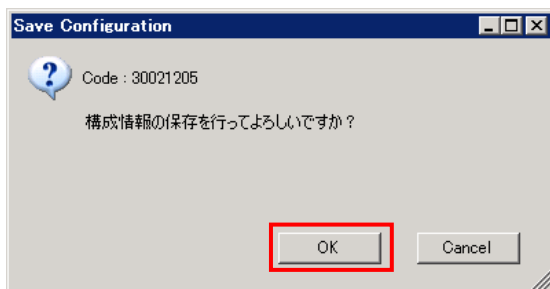


図 3-71 Save Configuration ウィンドウ (HVM 構成情報の保存)

HVM 構成情報の保存中のプログレスバーが表示されます。

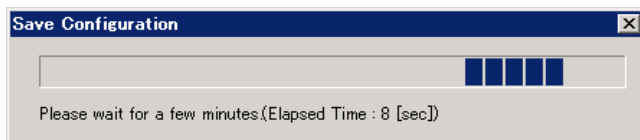


図 3-72 Save Configuration ウィンドウ (HVM 構成情報の保存中のプログレスバー表示)

- (3) 確認メッセージが表示されます。OK ボタンをクリックします。

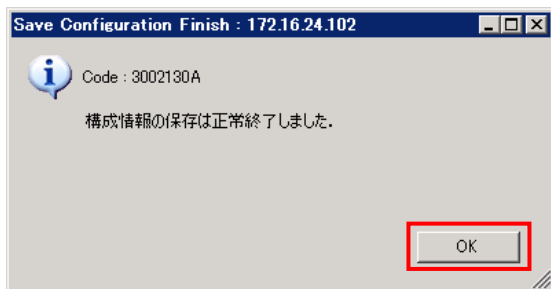


図 3-73 Save Configuration Finish ウィンドウ (HVM 構成情報の完了)

3.3.2 LPARの起動

(1) HVM Consoleメニューで Logical Partition Configuration を選択します。

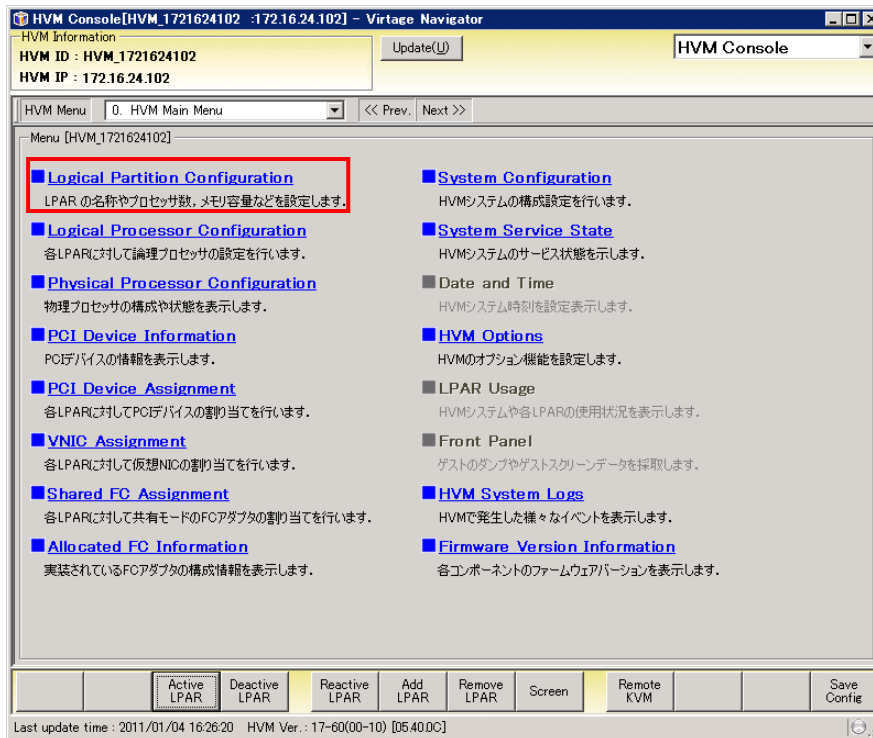


図 3-74 HVM Console ウィンドウ (Logical Partition Configuration の選択)

(2) Logical Partition Configuration で Active LPAR ボタンをクリックします。

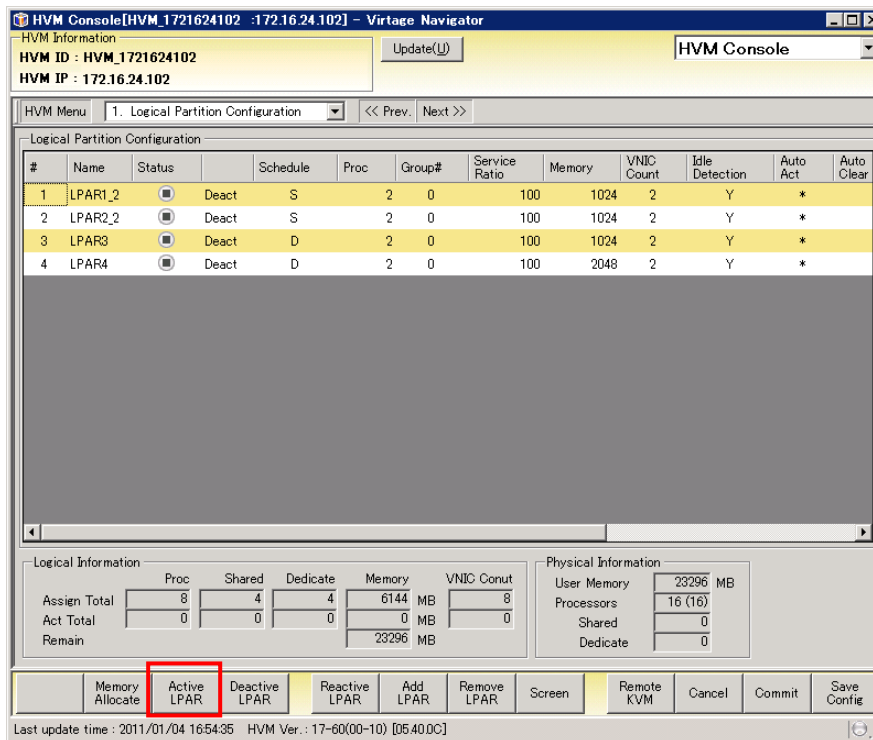


図 3-75 HVM Console ウィンドウ (Active LPAR ボタンのクリック)

(3) 作成した LPAR を選択し、OK ボタンをクリックします。

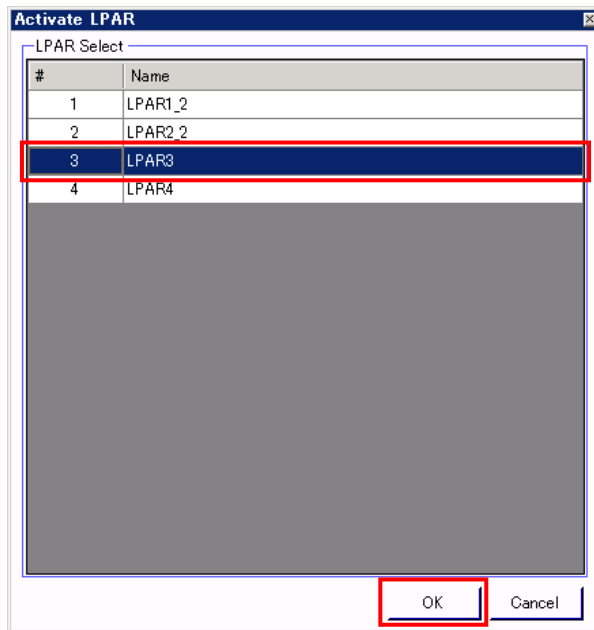


図 3-76 Activate LPAR ウィンドウ(起動する LPAR の選択)

(4) 確認メッセージが表示されます。OK ボタンをクリックします。

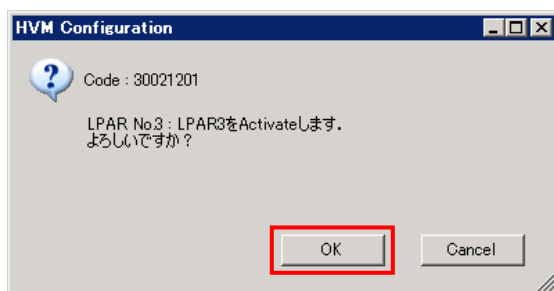


図 3-77 HVM Configuration ウィンドウ(起動する LPAR の確認)

LPAR が起動されます。

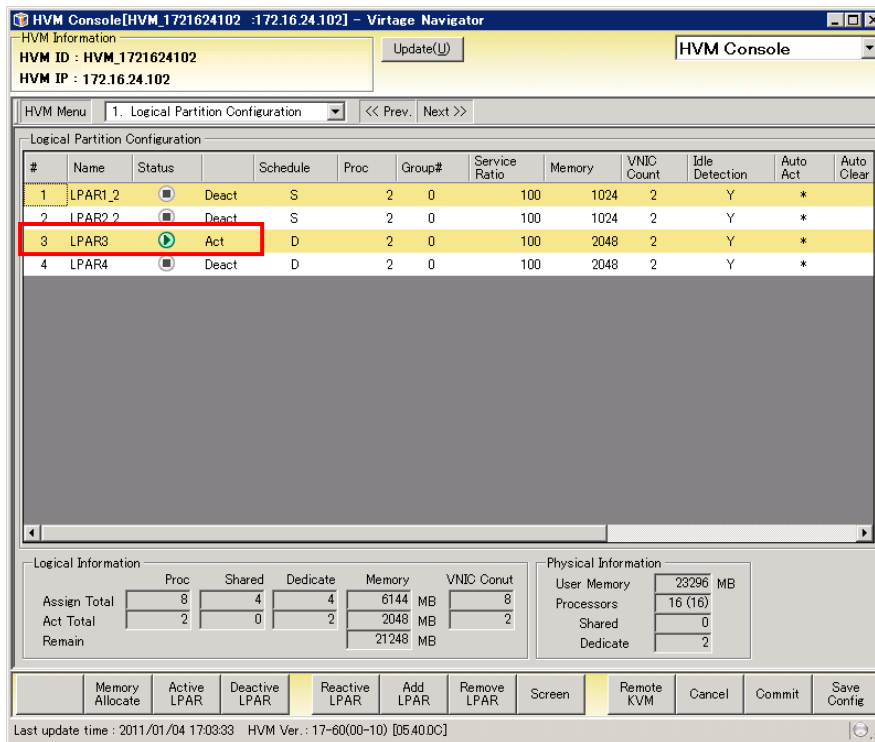


図 3-78 HVM Console ウィンドウ (LPAR の起動)

3.3.3 OSのインストール

(1) HVM Console メニューで Logical Partition Configuration を選択します。

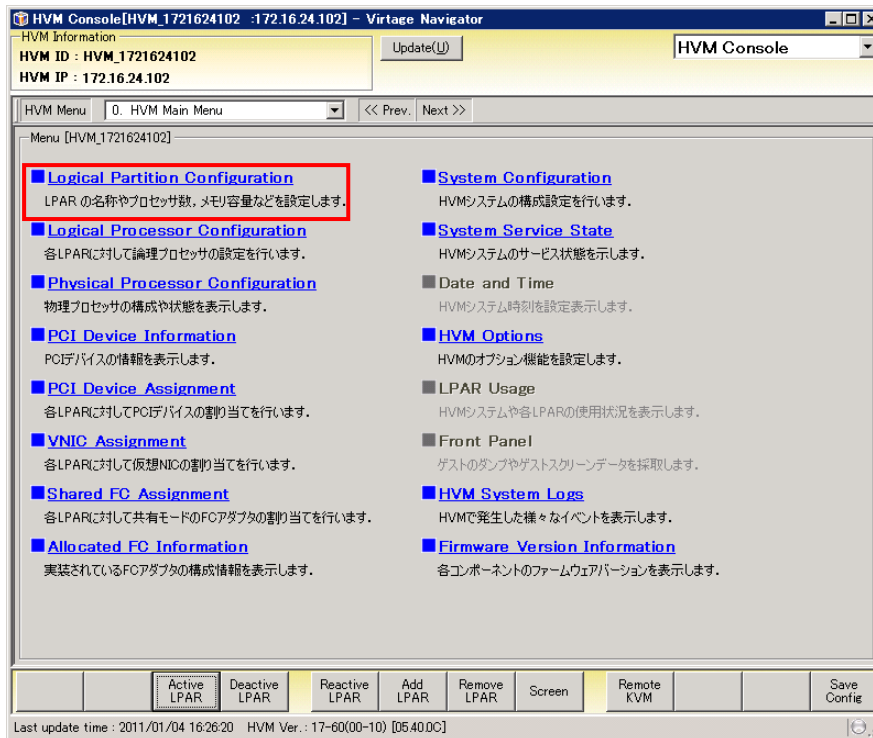


図 3-79 HVM Console ウィンドウ (Logical Partition Configuration の選択)

(2) Logical Partition Configuration で Remote KVM ボタンをクリックします。

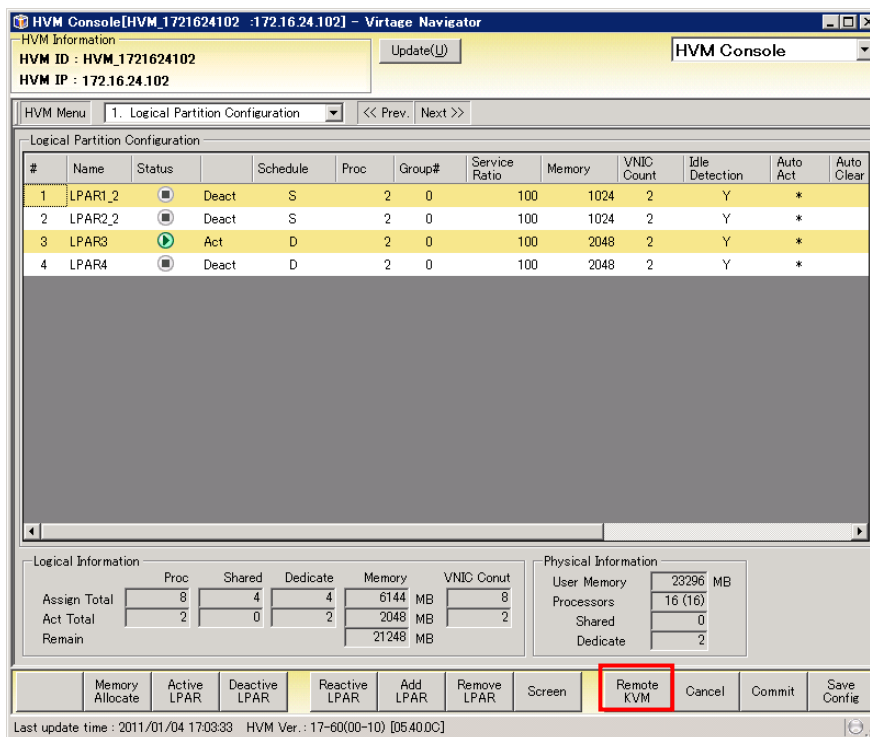


図 3-80 HVM Console ウィンドウ (Remote KVM ボタンのクリック)

(3) Remote KVM コンソールが起動されるので、接続ボタンをクリックします。

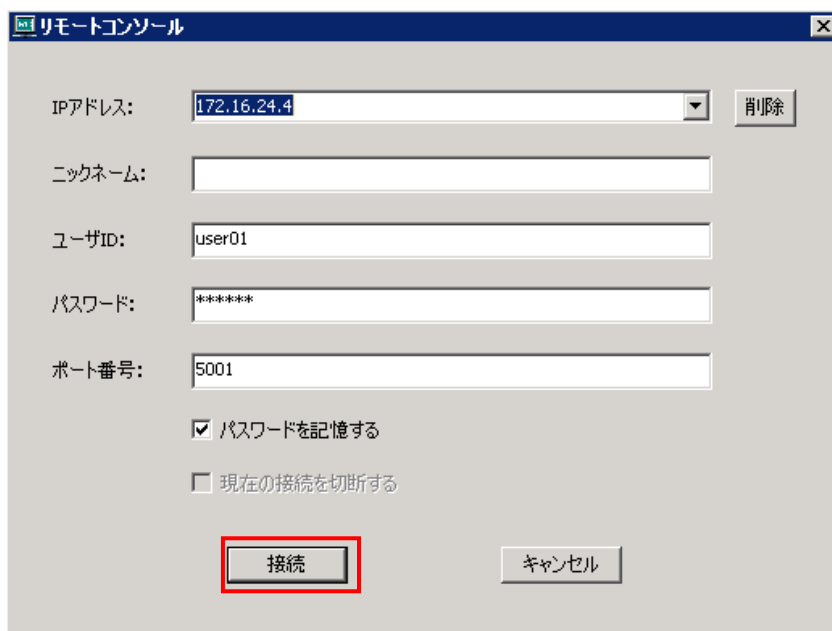


図 3-81 HVM Console ウィンドウ (Remote KVM 接続画面)

(4) フルスクリーンでゲスト論理 EFI のスクリーンが表示されます。

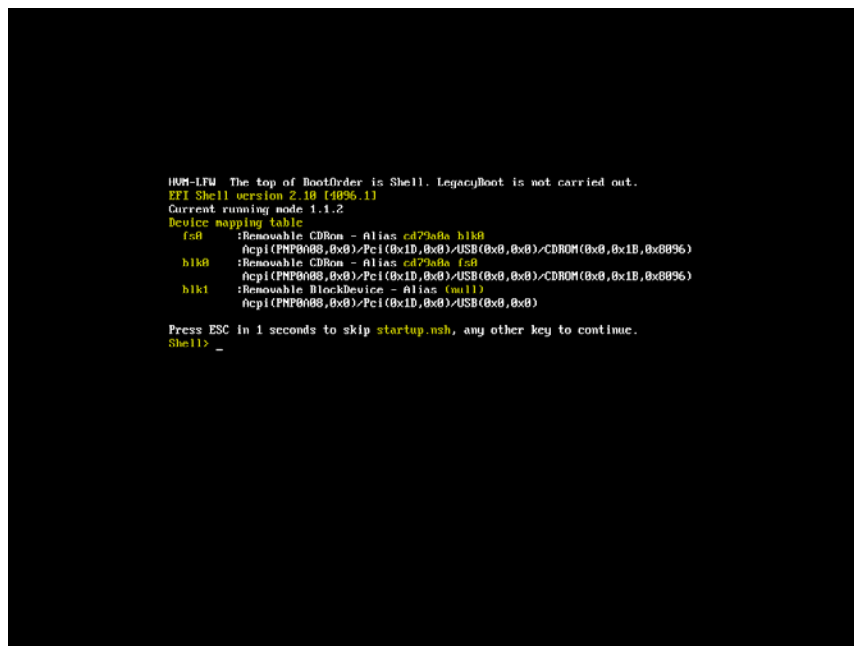


図 3-82 HVM Console ウィンドウ (ゲスト論理 EFI の開始画面 (フルスクリーン))

以降の OS インストール手順については「Virtage OS インストール手順書」をご参照ください。

3.4 関連コンソール起動

- (1) LPAR Configuration メニューの画面左側の HVM Select で HVM ID を選択し、画面右側の Related Console ボタンをクリックします。

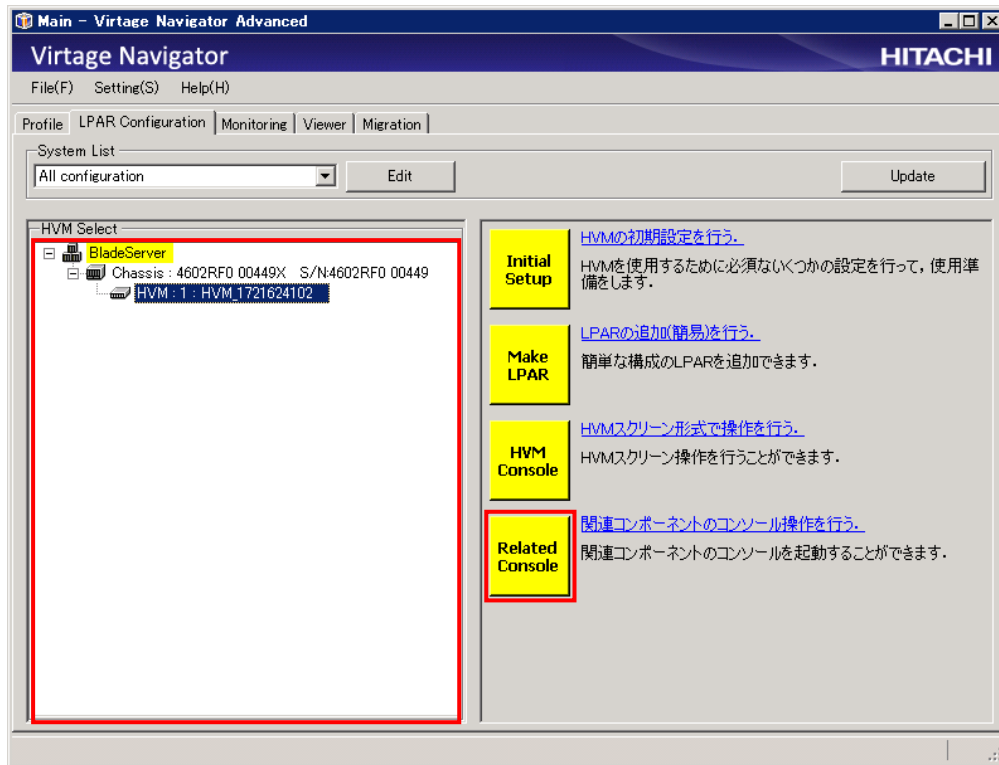


図 3-83 LPAR Configuration ウィンドウ (Related Console の開始)

Related Console のメニューが表示されます。

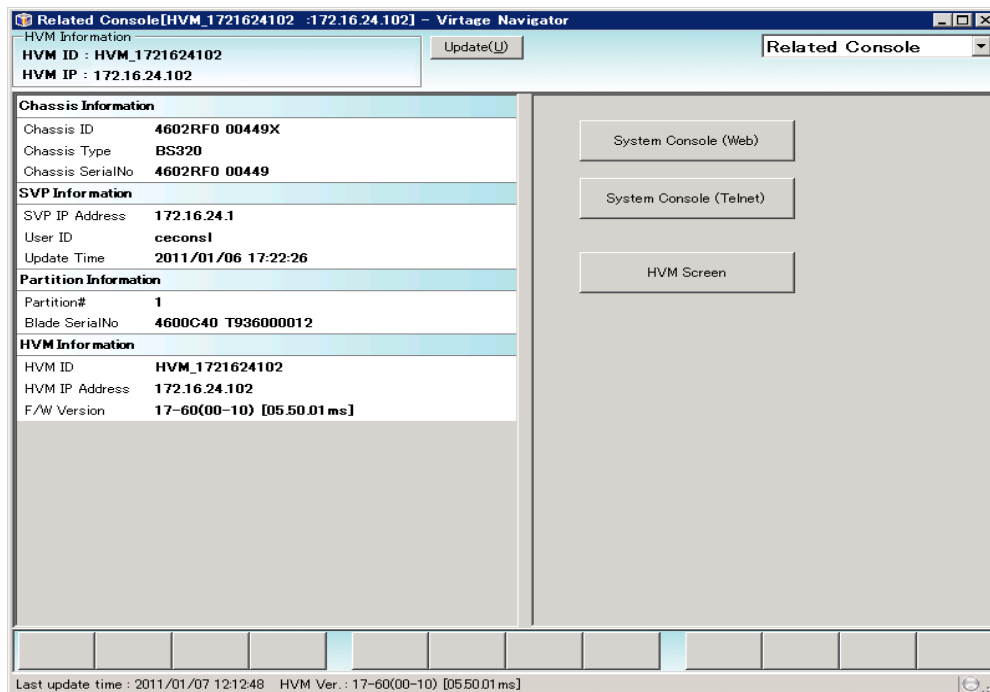


図 3-84 Related Console ウィンドウ (Related Console)

3.4.1 SVPシステムコンソール(Web)の起動

SVPのSystem Console (Web) の設定については「BladeSymphony BS320 ユーザーズガイド」の「マネジメントモジュールの設定」－「Web コンソール」－「クライアントの設定」をご参照下さい。

(1) Related Console メニューで System Console(Web) を選択します。

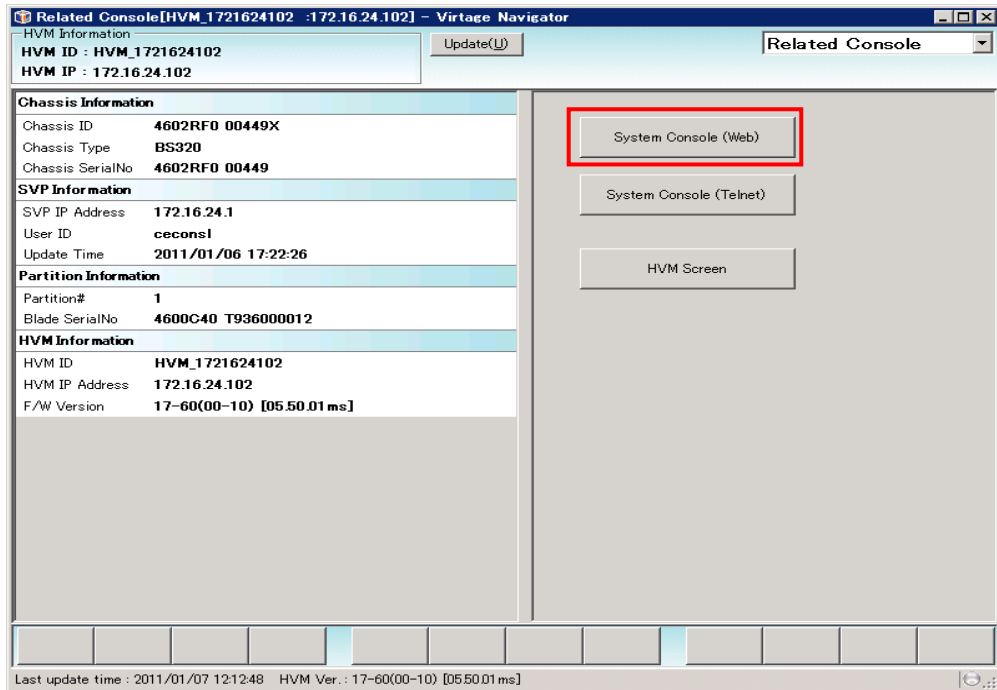


図 3-85 Related Console ウィンドウ (System Console(Web) の選択)

SVP の System Console (Web) が起動します。



図 3-86 System Console ウィンドウ (System Console(Web) の起動)

3.4.2 SVPシステムコンソール(Telnet)の起動

(1) Related Console メニューで System Console(Telnet)を選択します。

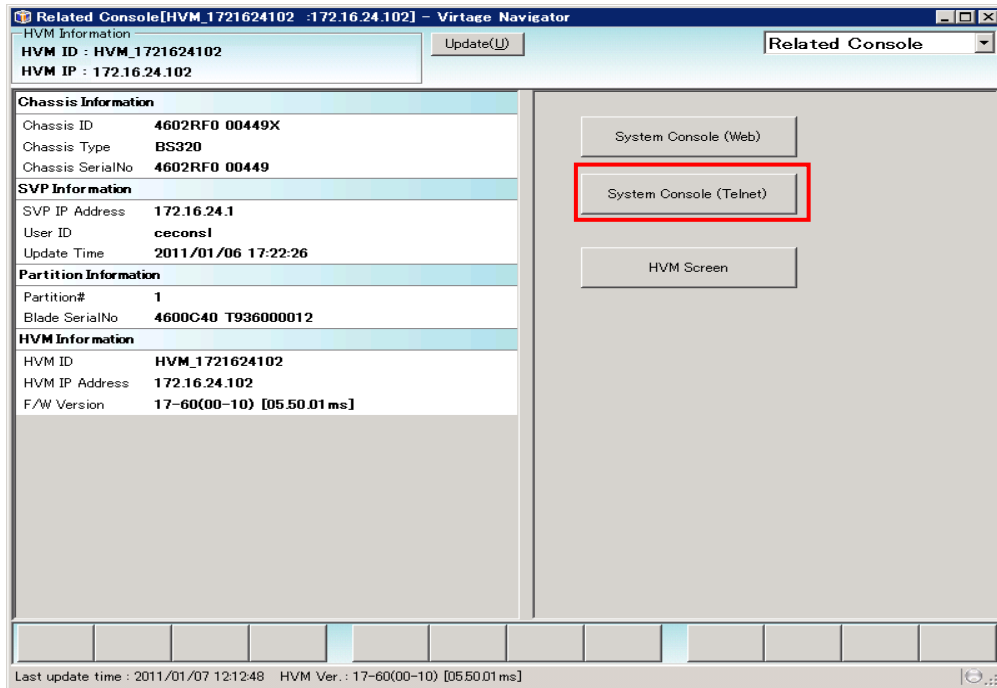


図 3-87 Related Console ウィンドウ(System Console(Telnet)の選択)

System Console(Telnet)が起動します。

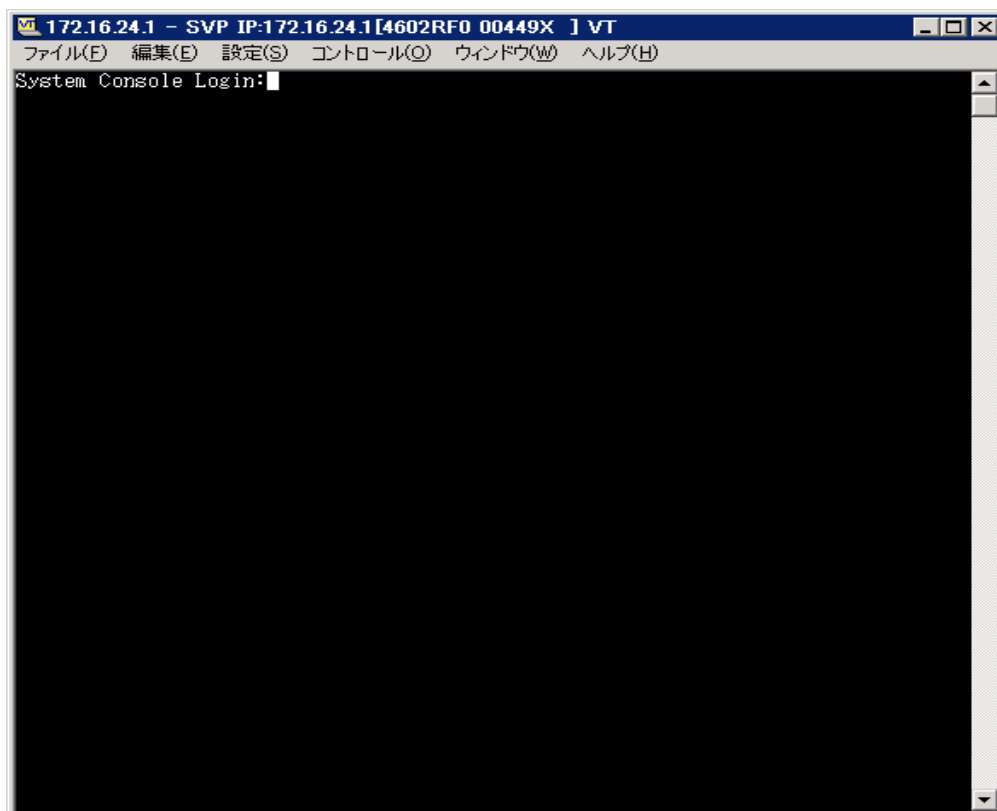


図 3-88 System Console ウィンドウ(System Console(Telnet)の起動)

3.4.3 シリアル端末ベースのHVMスクリーンの起動

事前に以下のファイルを用意します。

ファイルが存在しない場合にはシステムコンソール(Telnet)と同じ動作になります。

ファイル名 : AutoLoginHVM_320.ttl

格納場所 : インストールフォルダ¥VirNavi¥UserData

ファイル内容 : 以下の内容を AutoLoginHVM_320.ttl に記載します。

```
Getenv△' USER' △USER
getenv△' PASS' △PASS
getenv△' PNo' △PNo

wait△' System△Console△Login:'
sendIn△USER

wait△' System△Console△Password:'
sendIn△PASS

wait△' MENU:'
sendIn△' P' PNo
```

△は半角スペースを表します。

(1) Related Console メニューで HVM スクリーンを選択します。

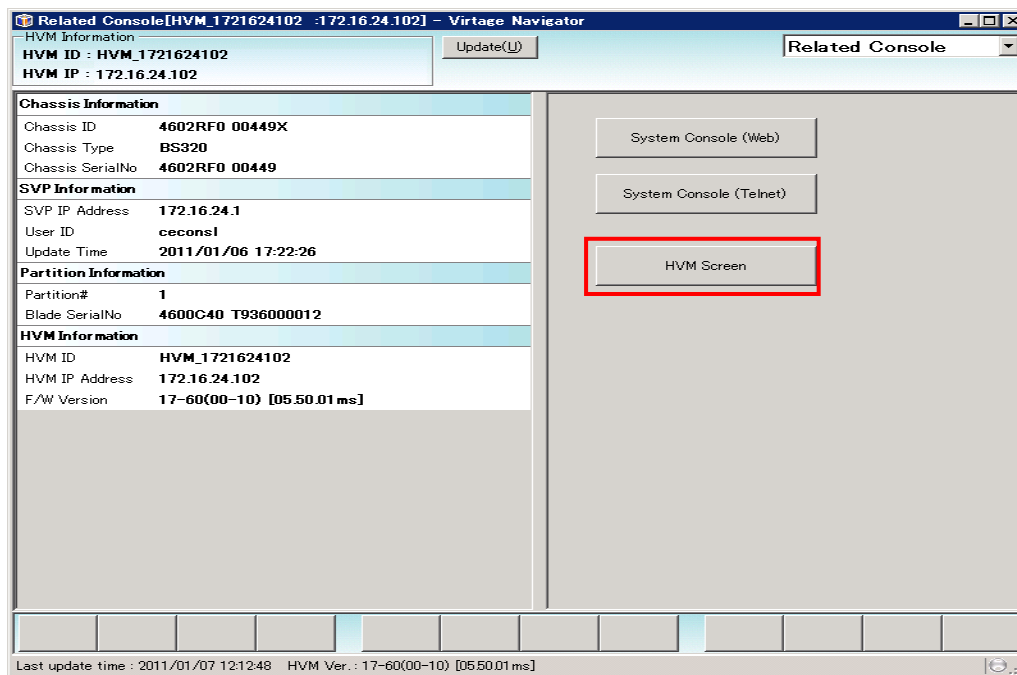


図 3-89 Related Console ウィンドウ (HVM Screen の選択)

- (2) 事前に用意したファイルが実行され HVM スクリーンが起動します。
起動後 Alt + T キーを押して HVM スクリーンの Refresh をかけます。

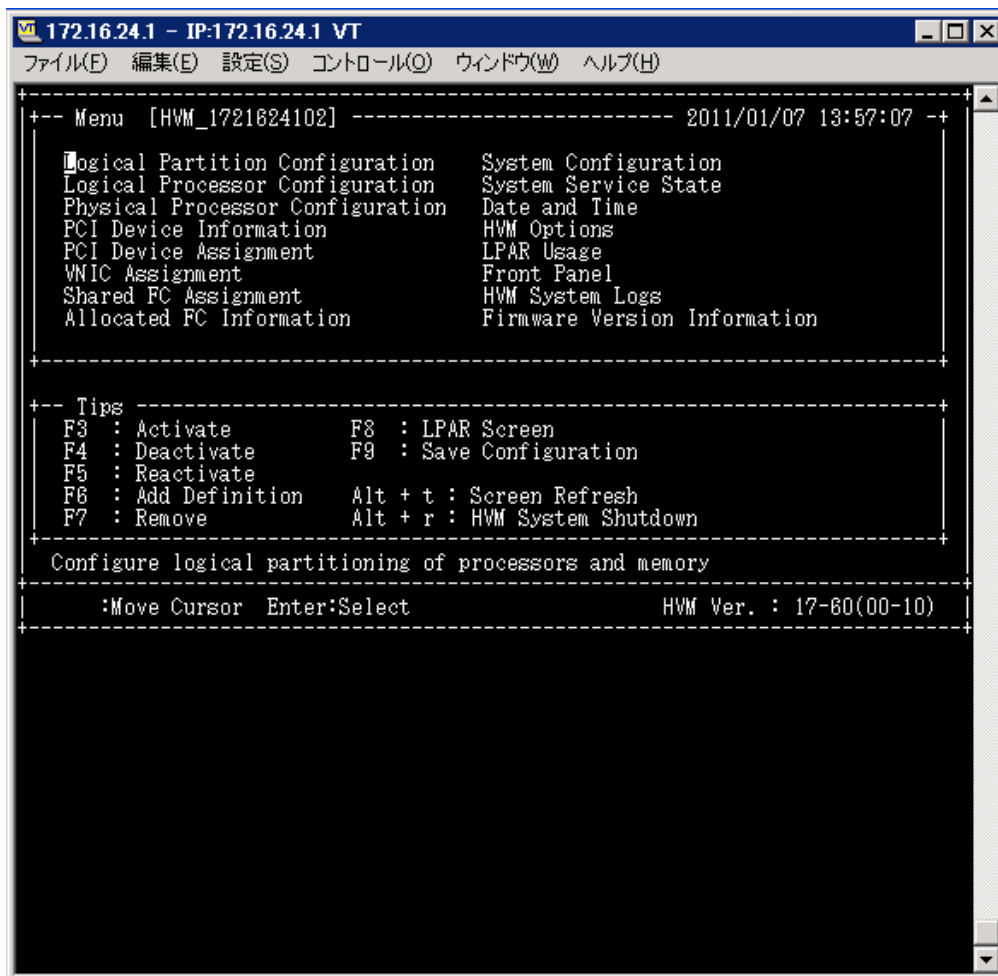


図 3-90 HVM スクリーンウィンドウ(HVM スクリーンの起動)

3.5 BIOSの設定

- (1) Remote KVM コンソールを起動します。

Remote KVM コンソールが起動されたところで、接続ボタンをクリックします。

この段階では、HVM が起動していないため、画面には何も表示されません。

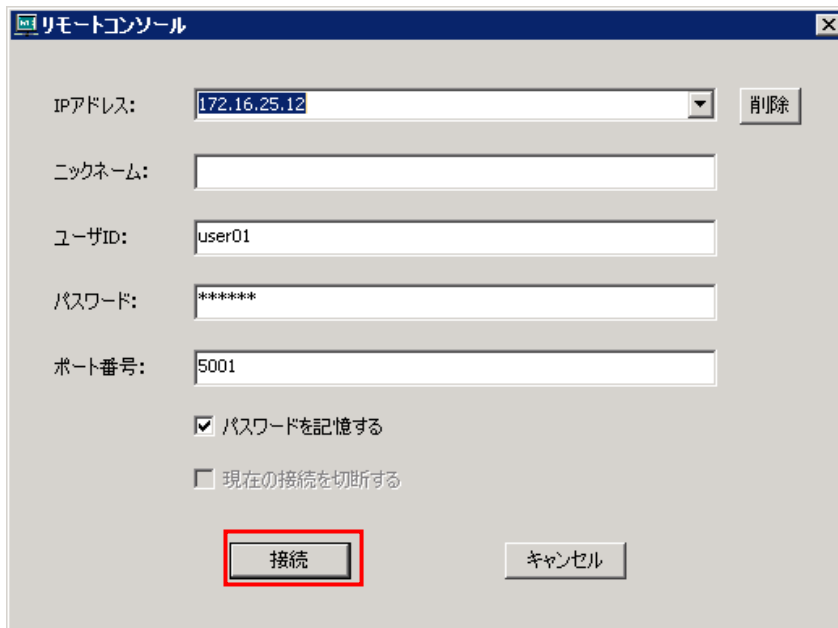
A screenshot of a 'リモートコンソール' (Remote Console) window. It contains several input fields: 'IPアドレス' (IP Address) with '172.16.25.12', 'ニックネーム' (Nickname), 'ユーザID' (User ID) with 'user01', 'パスワード' (Password) with '*****', and 'ポート番号' (Port Number) with '5001'. There are checkboxes for 'パスワードを記憶する' (Remember password) and '現在の接続を切断する' (Disconnect current connection). At the bottom, there are '接続' (Connect) and 'キャンセル' (Cancel) buttons. The '接続' button is highlighted with a red rectangle.

図 3-91 Initial Setup of HVM ウィンドウ (Remote KVM コンソールのログイン画面)

- (2) Tera Term で SVP システムコンソールにログインします。

「S」を入力し、「Enter」キーを押します。

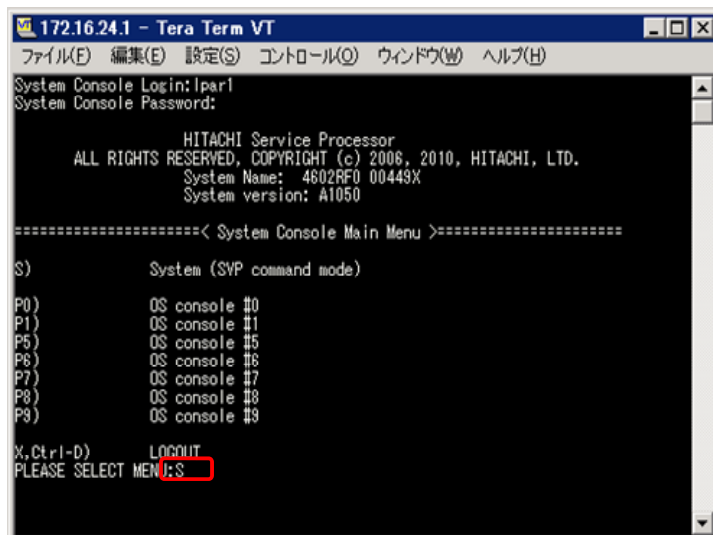
A screenshot of a Tera Term window titled '172.16.24.1 - Tera Term VT'. The window shows a 'System Console Login: lpar1' prompt. Below it, there is a 'System Console Password:' prompt. The user has entered 'S', and the screen displays the 'System Console Main Menu'. The menu lists various options: 'S) System (SVP command mode)', 'P0) OS console #0', 'P1) OS console #1', 'P5) OS console #5', 'P6) OS console #6', 'P7) OS console #7', 'P8) OS console #8', 'P9) OS console #9', 'X, Ctrl-D) LOGOUT', and 'PLEASE SELECT MENU: S'. The 'S' at the end of the prompt is highlighted with a red rectangle.

図 3-92 SVP へのログイン

- (3) 「PC」を入力し、「Enter」キーを押します。
- (4) 「0」を入力し、「Enter」キーを押します。
- (5) 「パーティション番号」を入力し、「Enter」キーを押します。
- (6) 「0」を入力し、「Enter」キーを押します。
- (7) 「y」を入力します。

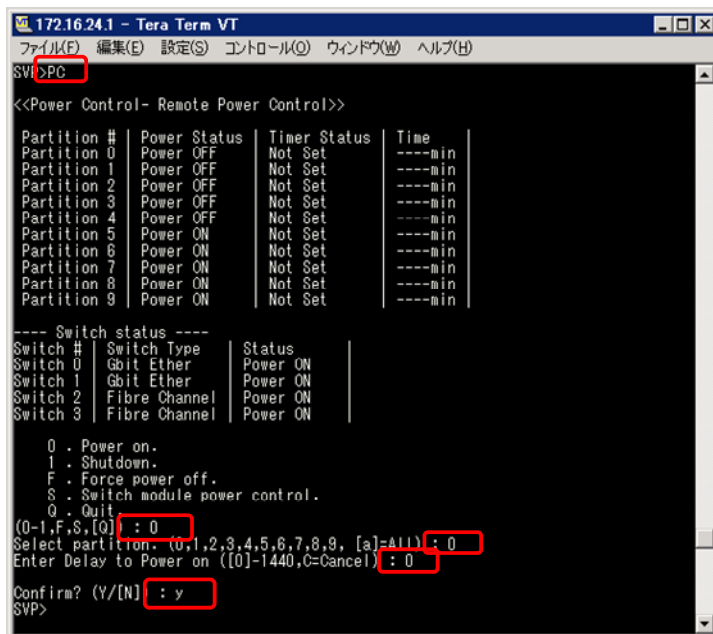


図 3-93 ブレード電源 ON

Remote KVM コンソールに戻り、BIOS の設定をします。

フルスクリーンでサーバブレードの BIOS のスクリーンが表示されます。

[Alt]+[q]を押下することで部分描写とフルスクリーンを交互に切り替えることができますが、操作はフルスクリーンに限られます。

(8) ブレード起動中に、「F2」キーを押します。

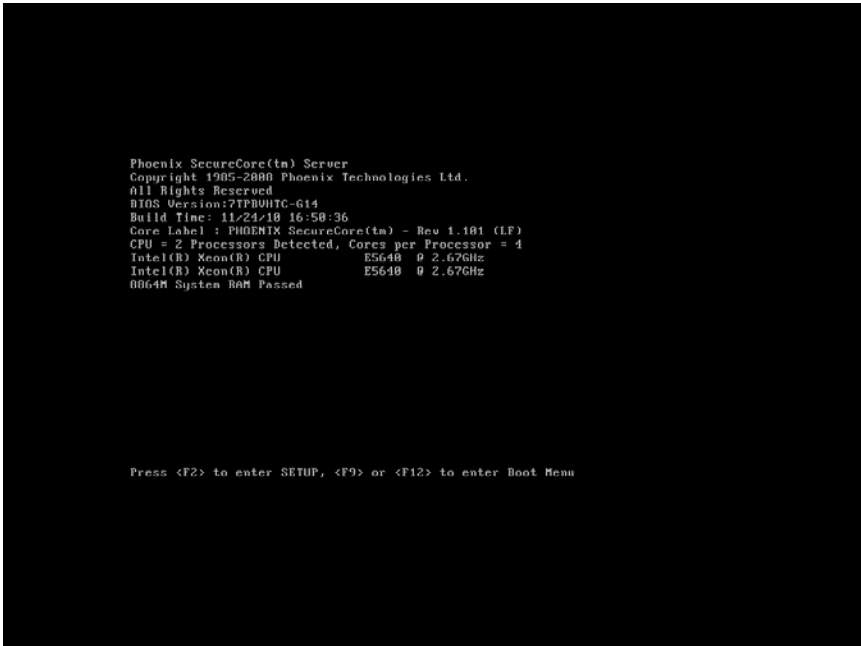


図 3-94 サーバブレードの起動画面

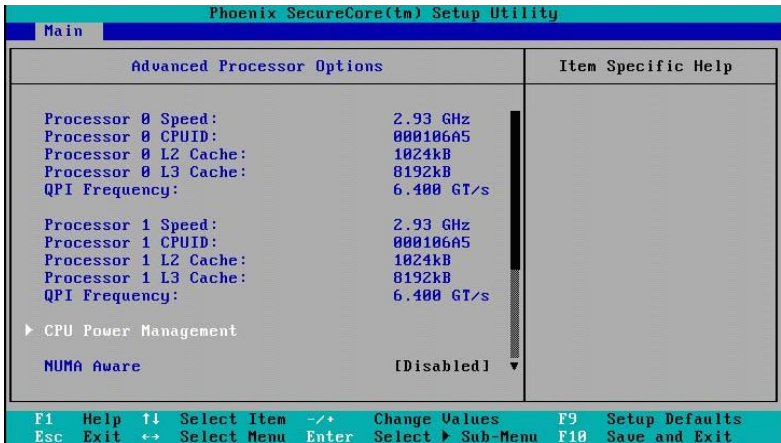


図 3-95 ブレード起動中 (BIOS 設定画面の表示)

BIOS 設定画面が表示されます。

- (9) [Main]–[Advanced Processor Options]に移動します。
[NUMA Aware]が[Disabled]に設定されていることを確認します。

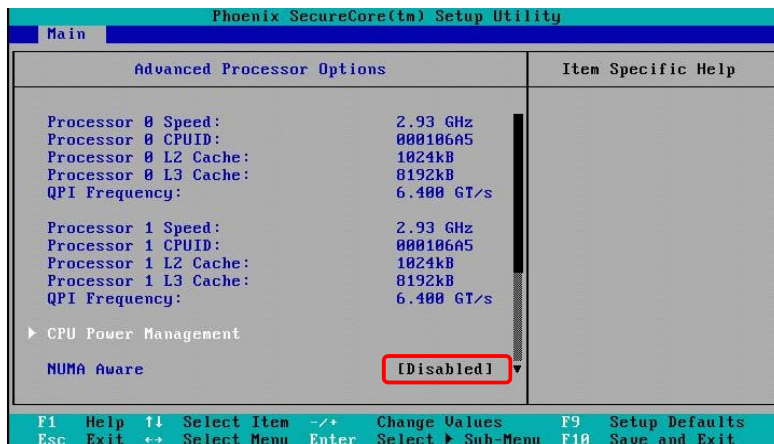


図 3-96 BIOS 設定画面([Advanced Processor Options]の確認)

- (10) [Advanced]–[PnP Configuration]に移動します。
[LAN1-1 Option ROM Scan]が[Enabled]に設定されていることを確認します。
[LAN1-2 Option ROM Scan]が[Enabled]に設定されていることを確認します。
[Onboard LAN2 Control]が[Enabled]に設定されていることを確認します。

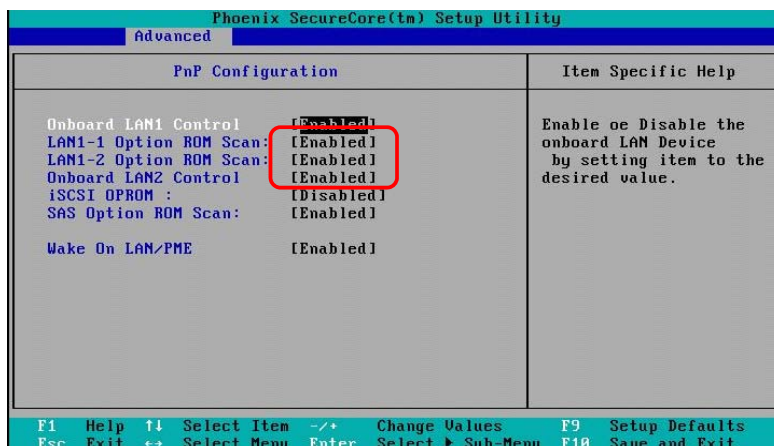


図 3-97 BIOS 設定画面([PnP Configuration]の確認)

(11) [Server]-[Console Redirection]に移動します。

[Com Port Address]が[On-board COM A]に設定されていることを確認します。

[Baud Rate]が[9600]に設定されていることを確認します。

[Console Type]が[VT100]に設定されていることを確認します。

[Flow Control]が[None]に設定されていることを確認します。

[Continue C.R. after POST]が[On]に設定されていることを確認します。

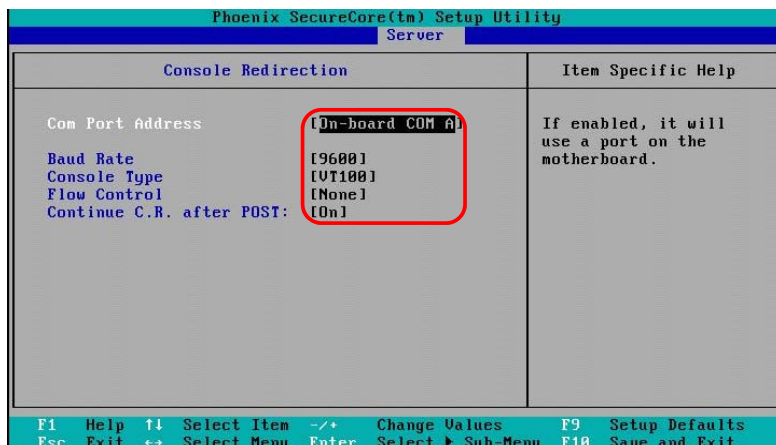


図 3-98 BIOS 設定画面 ([Console Redirection] の確認)

(12) [Boot]に移動します。

[Boot Priority order]に[USB HDD: Generic STORAGE DEVICE]が設定されていることを確認します。

[Boot Priority order]に[PCI BEV: IBA GE Slot xx00 vxxxx]が設定されていることを確認します。

[Boot Priority order]に[PCI BEV: IBA GE Slot xx01 vxxxx]が設定されていることを確認します。

※[x]キーにより、[Boot Priority order]に移動することができます。

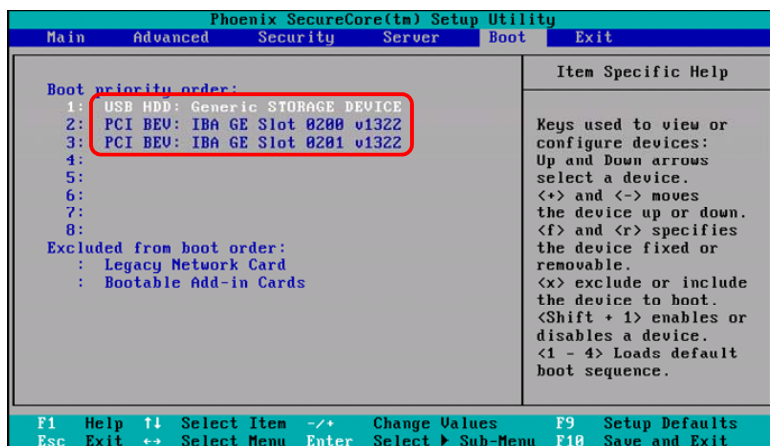


図 3-99 BIOS 設定画面 ([Boot] の確認)

(13) [Exit]に移動します。

[Saving Changes]を選択します。

[Yes]を選択します。

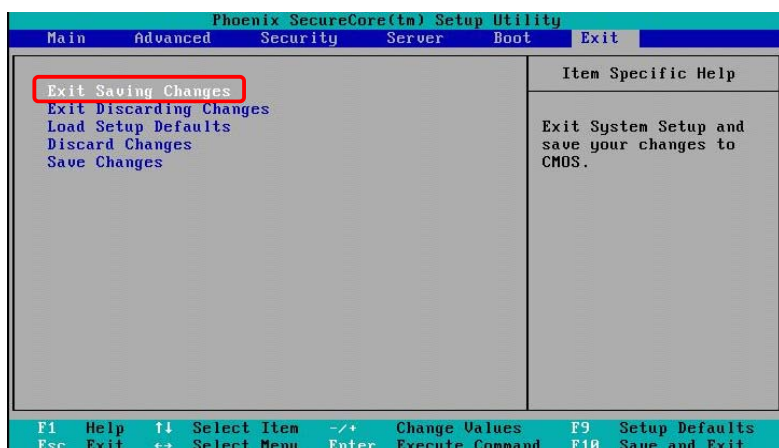


図 3-100 BIOS 設定画面([Saving Changes]の確認)

(14) ターミナルアプリケーションに戻り、ブレードの電源を OFF にします。

(注) SVP システムコンソールは、ユーザ操作が 10 分以上行われなかった場合、自動でログアウトします。自動ログアウトが行われた場合、再度 SVP システムコンソールにログインしてください。

(15) SVP コマンドモードで、「PC」を入力し、「Enter」キーをクリックします。

(16) 「F」を入力し、「Enter」キーをクリックします。

(17) 「パーティション番号」を入力し、「Enter」キーをクリックします。

(18) 「0」を入力し、「Enter」キーをクリックします。

(19) 「y」を入力します。

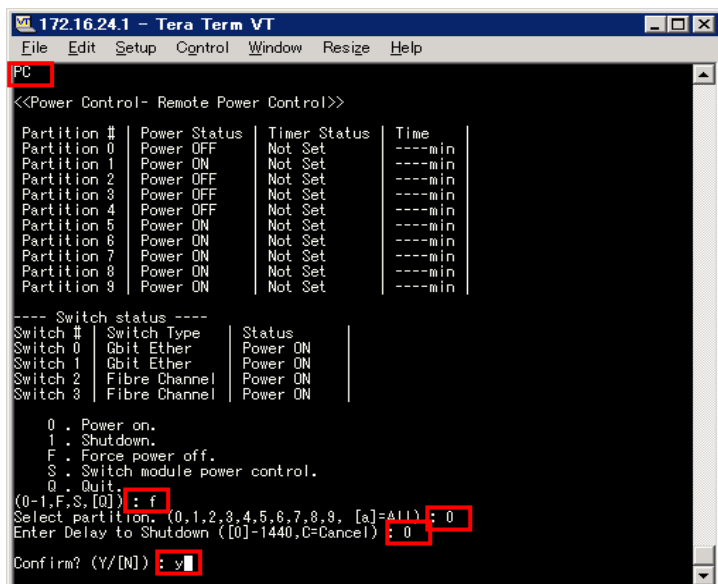


図 3-101 ブレード電源 OFF

4 オプション機能

4.1 HVMスクリーンの簡単移動

4.1.1 メニュー画面への移動

HVM コンソールの Menu ボタンをクリックすることで、メニュー画面へ移動することができます。

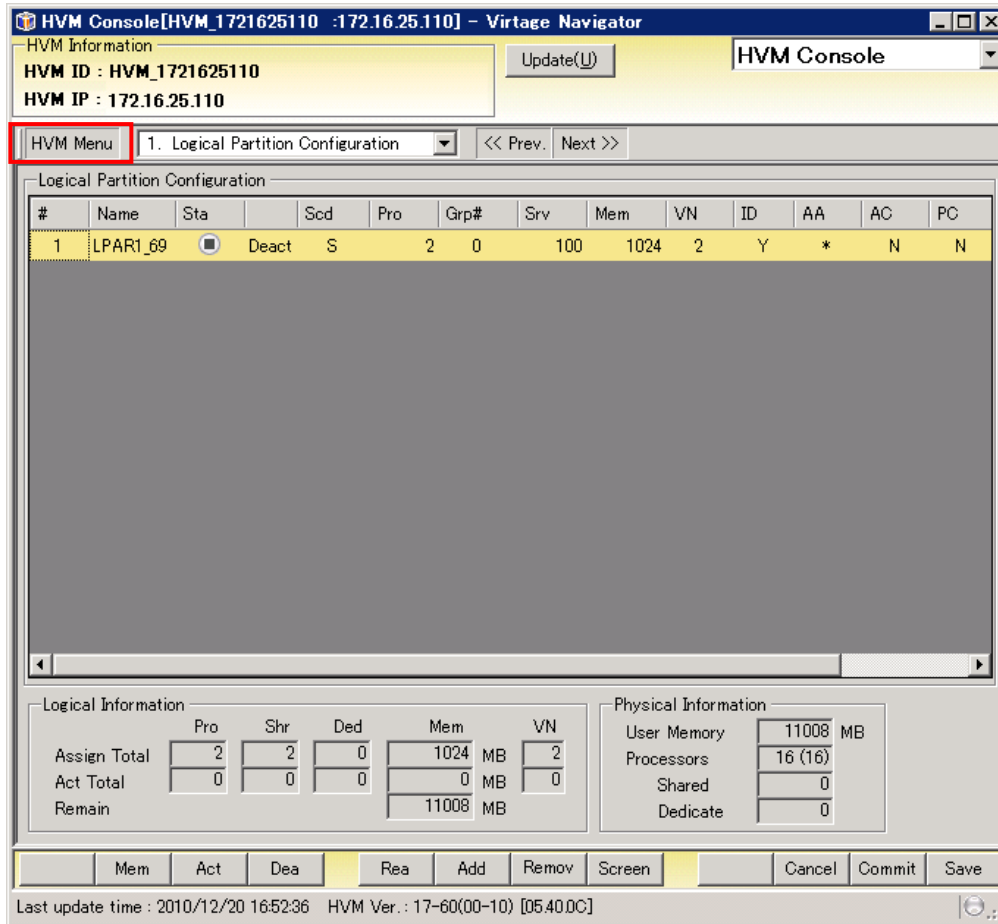


図 4-1 HVM Console ウィンドウ(メニュー画面への移動)

HVM スクリーンの Menu スクリーンが表示されます。

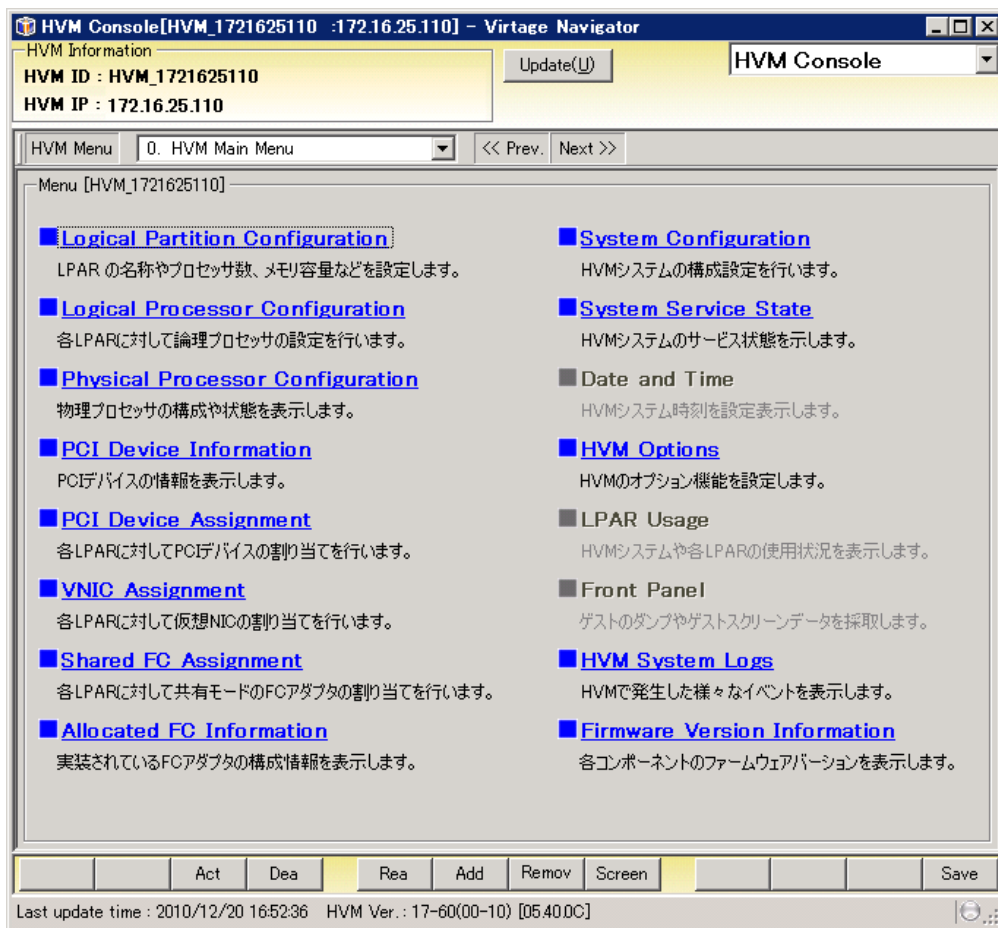


図 4-2 HVM Console ウィンドウ(メニュースクリーン)

4.1.2 スクリーンの直接移動

HVM コンソールのコンボボックスに表示されるスクリーンを選択することで、スクリーンへの直接移動ができます。

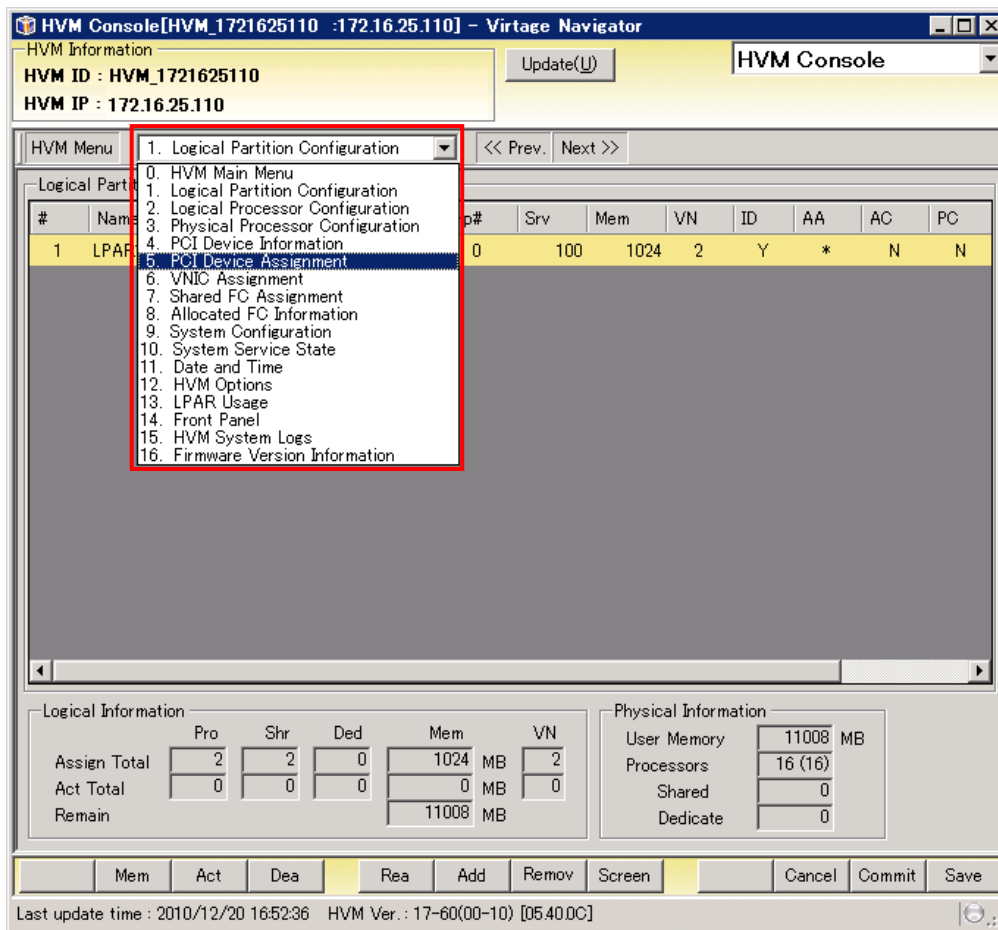


図 4-3 HVM Console ウィンドウ (移動するスクリーンの選択)

4.1.3 スクリーンの巡回移動

HVM コンソールの Next ボタンあるいは Prev. ボタンをクリックすることで、HVM スクリーンを巡回的に移動することができます。

巡回の順序は、Next ボタンの場合はコンボボックスに表示されるスクリーン番号が増す方向に移動し、Prev. ボタンの場合は減る方向に移動します。

例えば、スクリーン番号 1 Logical Partition Configuration スクリーンを表示している状態で Next ボタンをクリックします。

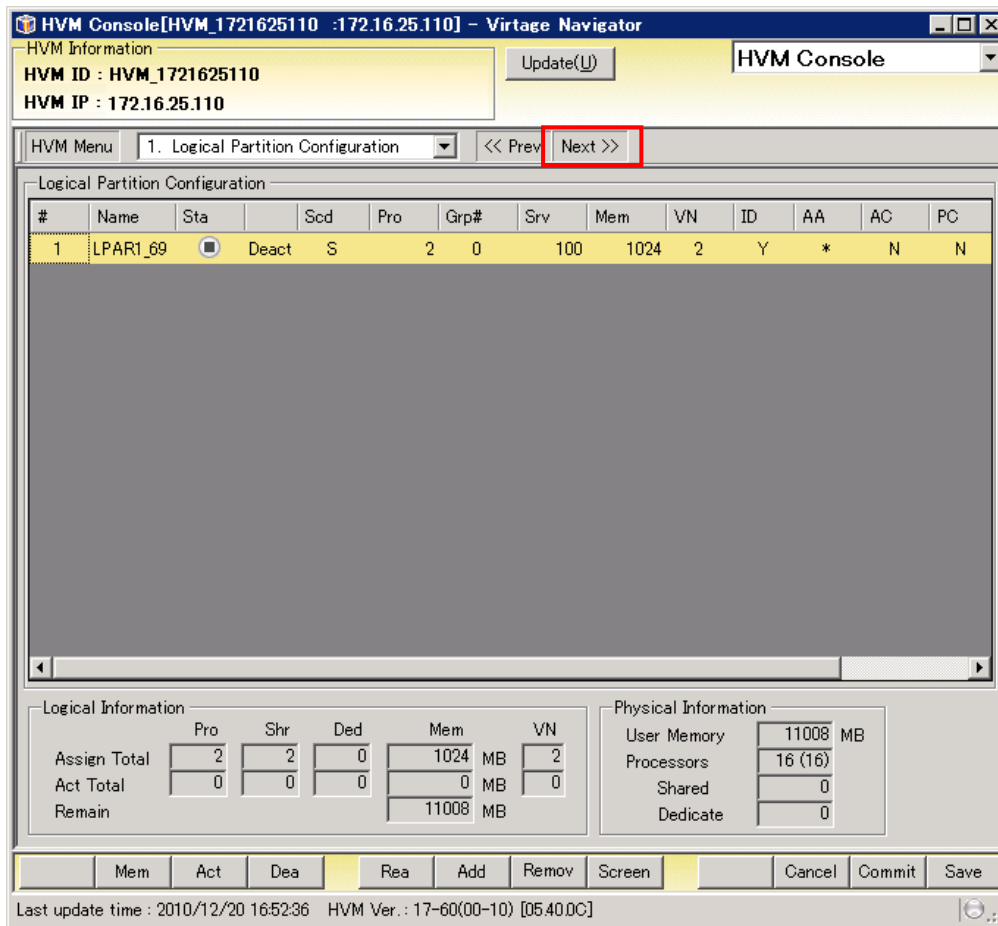


図 4-4 HVM Console ウィンドウ (Next ボタンクリック)

スクリーン番号 2 の Logical Processor Configuration が表示されます。

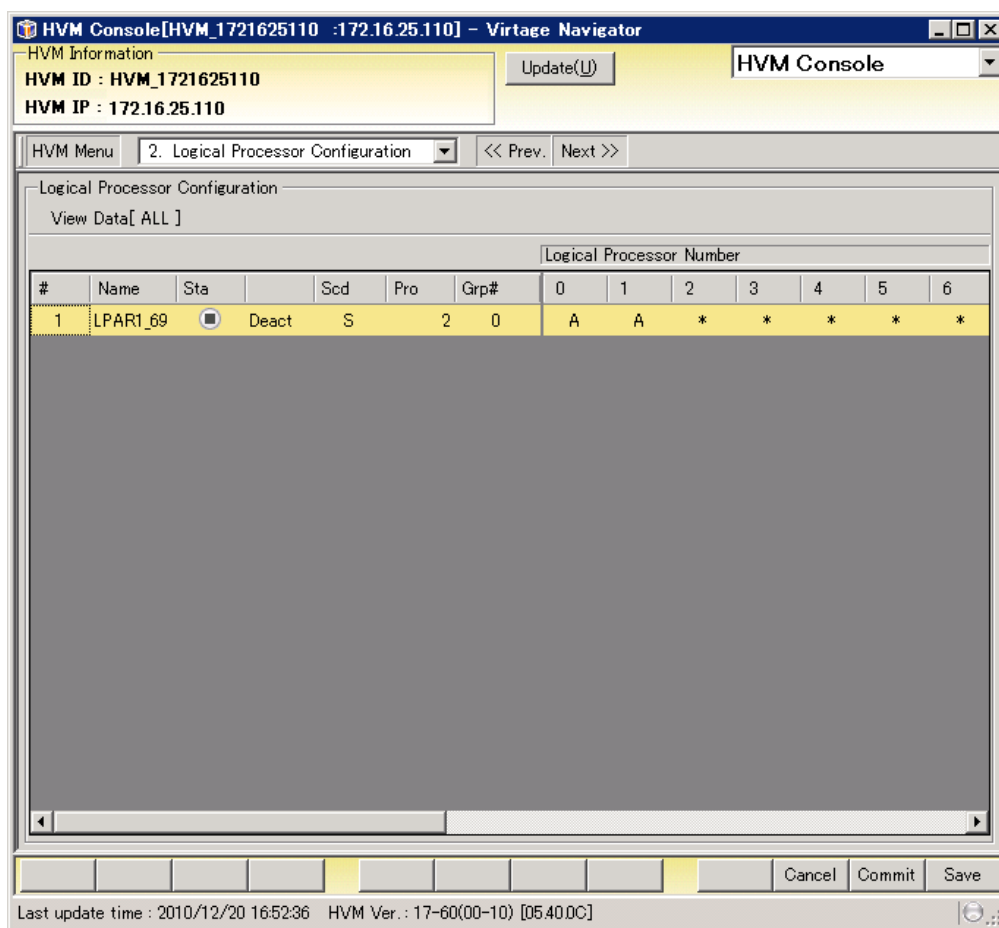


図 4-5 HVM Console ウィンドウ(Logical Processor Configuration の表示)

4.2 SVP情報の登録と削除

Initial Setup の機能を使用することで、SVP 情報の登録と削除ができます。SVP 情報を登録しておくと、HVM の起動や SVP システムコンソールの呼び出しが簡単になります。

4. 2. 1 SVP情報の登録

(1) LPAR Configuration メニューの画面右の Initial Setup ボタンをクリックします。

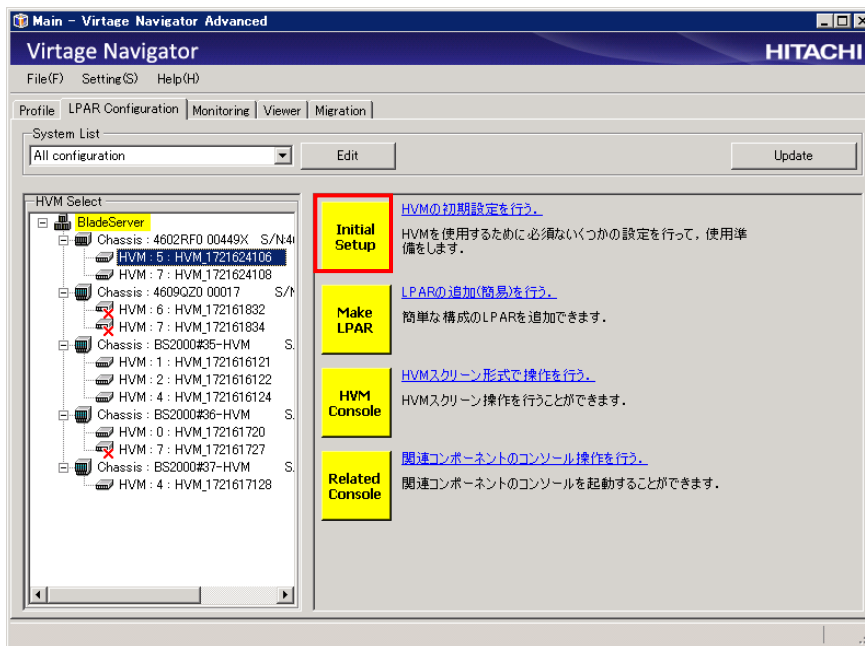


図 4-6 Main ウィンドウ (Initial Setup の開始)

Initial Setup of HVM ウィンドウが表示されます。

画面左には、Initial Setup の全体ステップ、画面中央の上部には、設定ステップ名称と設定ステップの概要が表示されます。

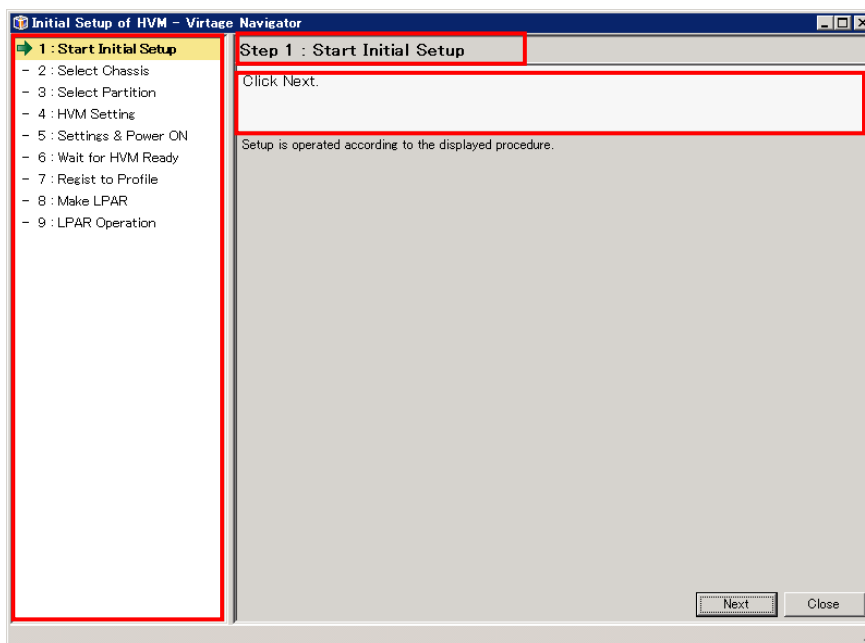


図 4-7 Initial Setup of HVM ウィンドウ (Start Initial Setup 表示)

(2) Next ボタンをクリックします。

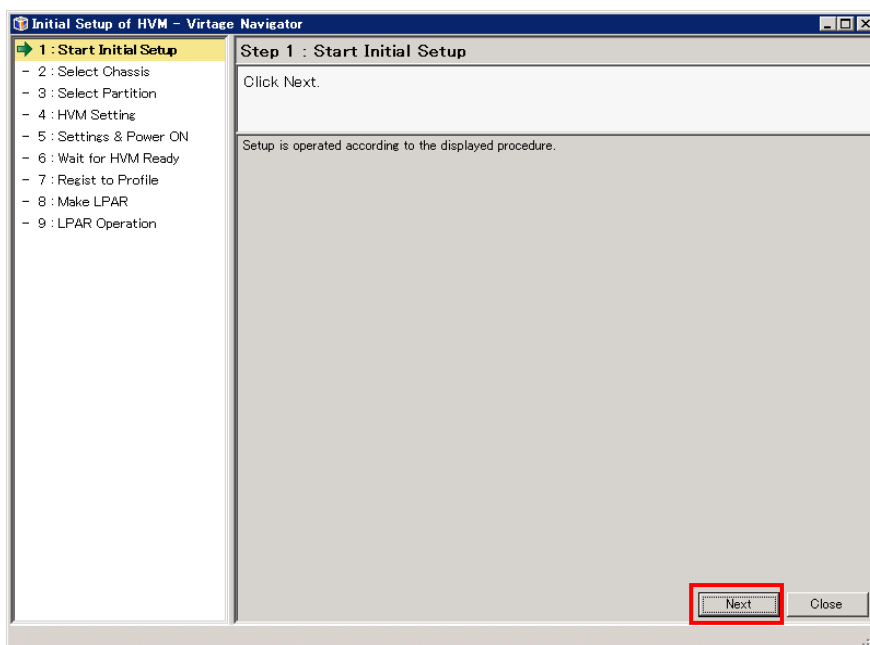


図 4-8 Initial Setup of HVM ウィンドウ (Start Initial Setup 終了)

シャーン選択画面が表示されます。

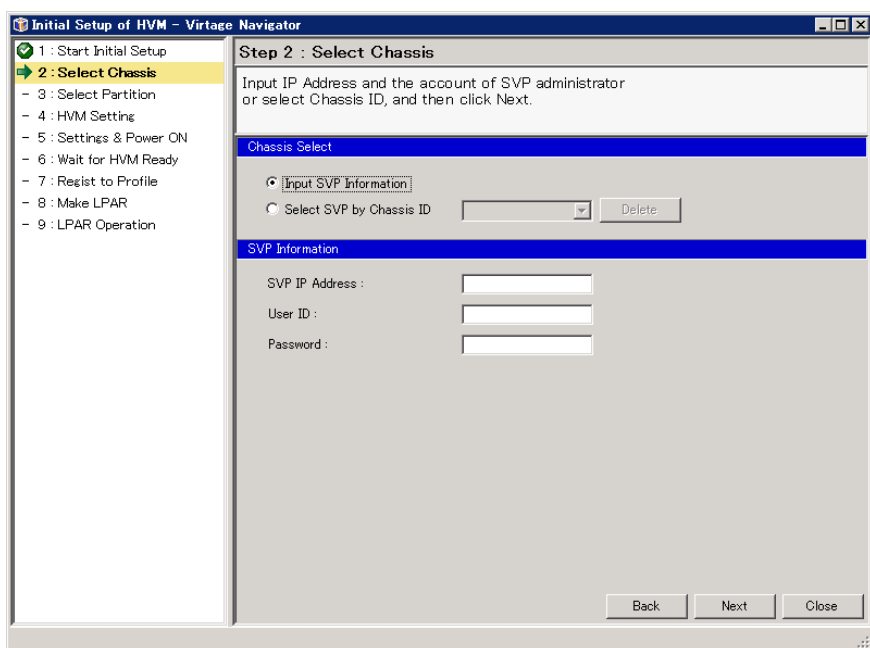


図 4-9 Initial Setup of HVM ウィンドウ (Select Chassis 開始)

- (3) シャーシに対応付けられている SVP IP アドレスと SVP ログイン ID(ユーザ ID とパスワード)を入力し、Next ボタンをクリックします。

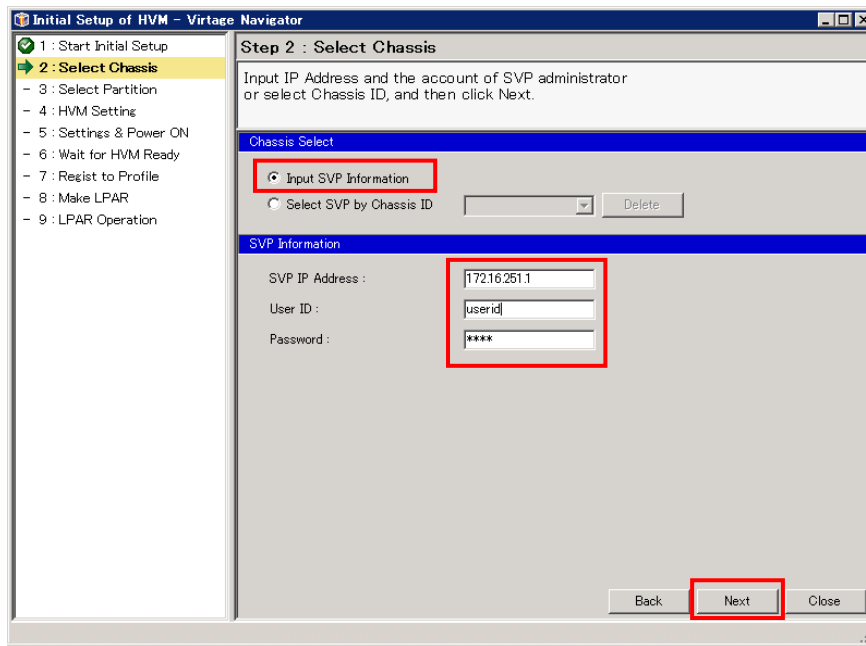


図 4-10 Initial Setup of HVM ウィンドウ (Select Chassis 操作)

(4) シャーシ ID、SVP バージョンを確認できたら、Close ボタンをクリックします。

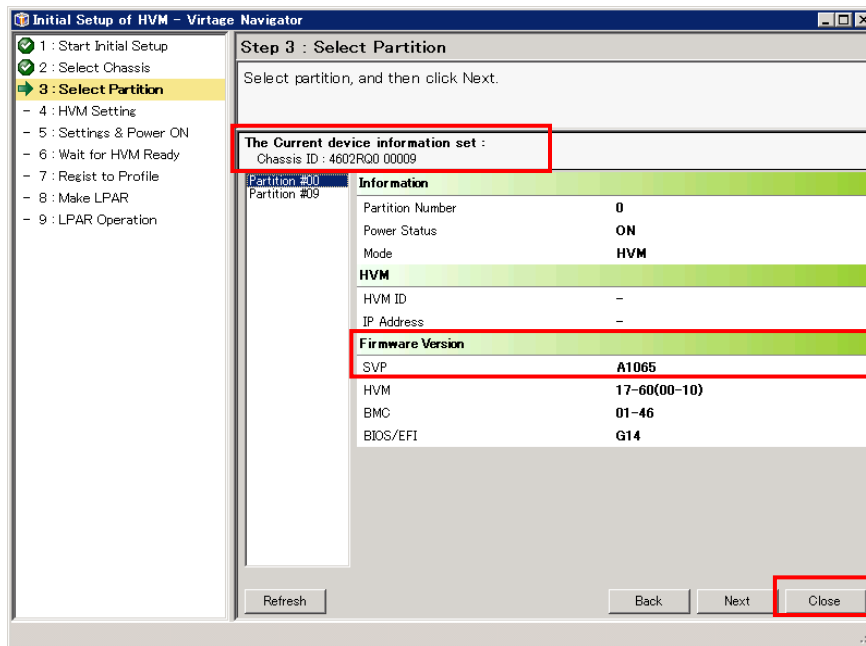


図 4-11 Initial Setup of HVM ウィンドウ (Select Chassis 完了)

(5) 確認メッセージが表示されます。OK ボタンをクリックします。

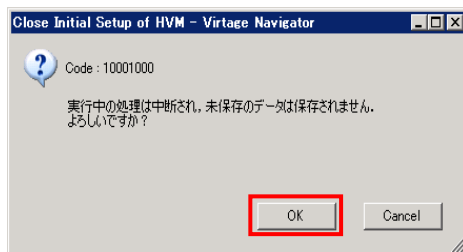


図 4-12 Close Initial Setup of HVM ウィンドウ (SVP 情報登録の終了)

4.2.2 SVP情報の削除

(1) Initial Setup を起動し、Next ボタンをクリックします。

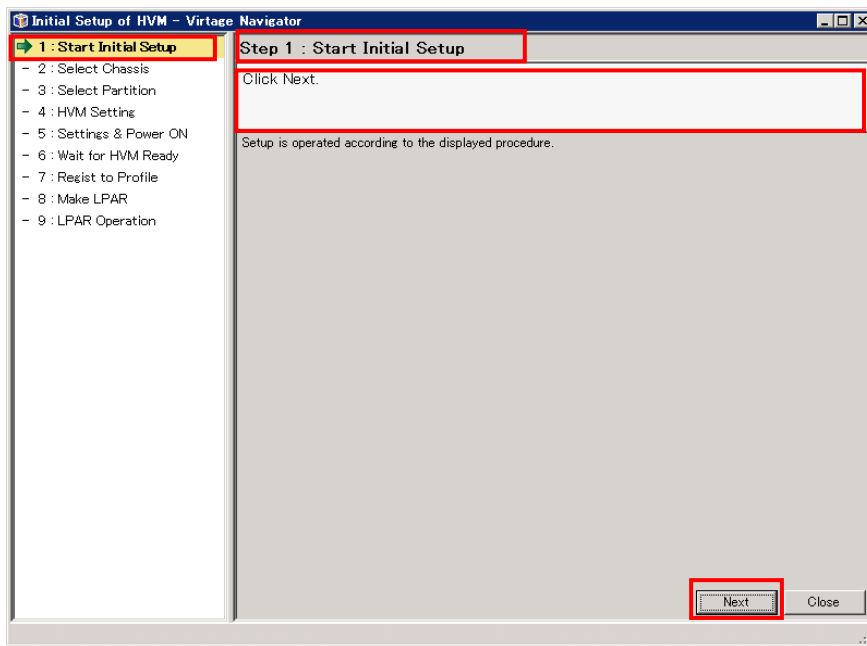


図 4-13 SVP 情報の削除 (Start Initial Setup 表示)

(2) 削除対象 SVP に対応付けられている Chassis ID を選択します。

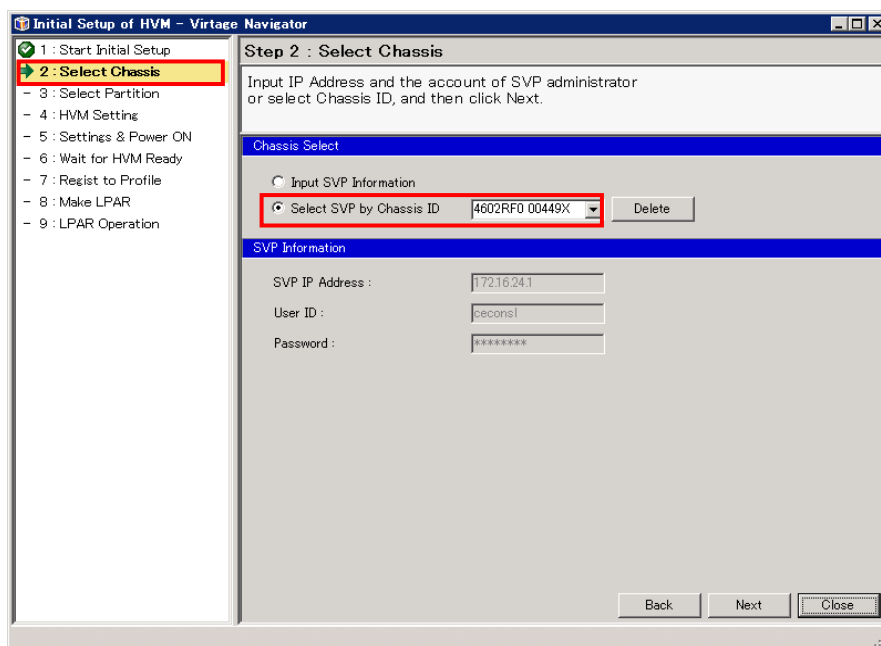


図 4-14 SVP 情報の削除 (登録済みシャーシの選択)

(3) Delete ボタンをクリックします。

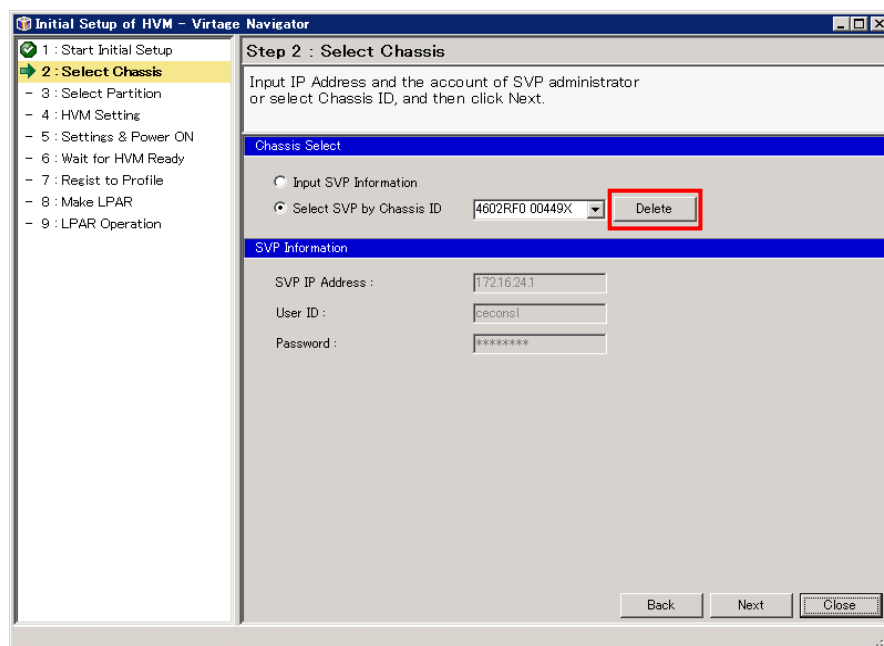


図 4-15 SVP 情報の削除 (Delete ボタンのクリック)

(4) OK ボタンをクリックします。

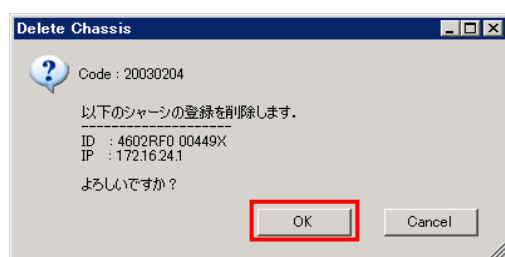


図 4-16 SVP 情報の削除 (OK ボタンのクリック)

指定したシャーシが表示されなくなります。

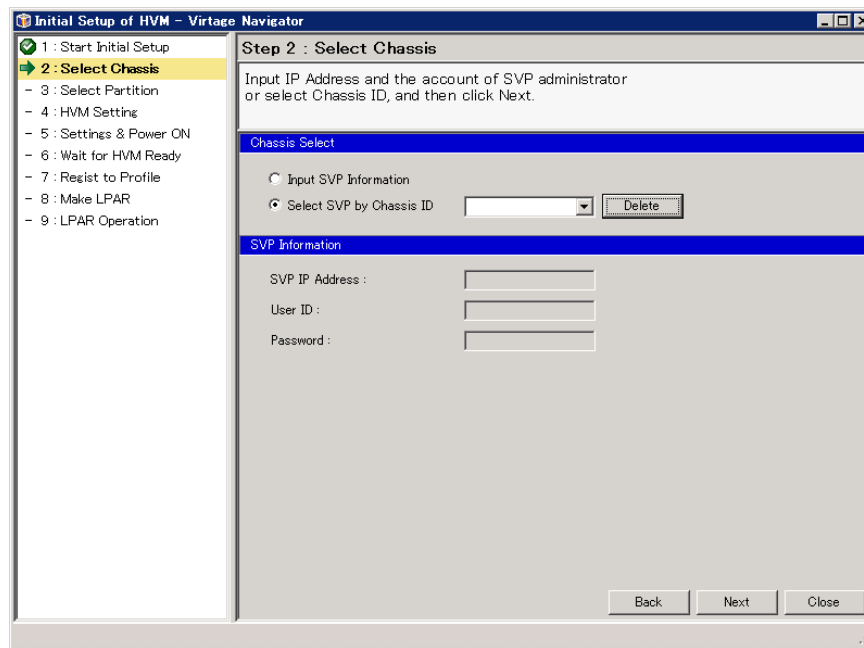


図 4-17 SVP 情報の削除 (SVP 情報削除の終了)

5 注意事項

5.1 Initial Setupの注意事項

5.1.1 HVM構成情報をクリアした場合

SVP DC コマンドなどで HVM 構成情報をクリアした後に Initial Setup を使用する場合、下記の手順にしたがって事前に HVM を起動してください。HVM の事前立上げをせずに Initial Setup を利用すると、Initial Setup の HVM 起動ステップでタイムアウトが発生します。

〈HVM 構成情報をクリア後の HVM の事前立上げ〉

- ① SVP システムコンソール(Web または Telnet)から HVM を起動する
- ② シリアル端末ベースの HVM スクリーン操作で HVM をシャットダウンする

5.1.2 HVM構成情報をリストアした場合

SVP UBR コマンドや JP1/SC で HVM 構成情報をリストアした後に Initial Setup を使用する場合、下記の手順にしたがって事前に HVM を起動してください。HVM の事前立上げをせずに Initial Setup を利用すると、Initial Setup の HVM 起動ステップでタイムアウトが発生します。

〈HVM 構成情報リストア後の HVM の事前立上げ〉

- ① SVP システムコンソール(Web または Telnet)から HVM を起動する
- ② シリアル端末ベースの HVM スクリーン操作で HVM をシャットダウンする

5.1.3 SVPバージョンがA1065 の場合は装置の電源Off/Onが必要になります

SVP のバージョンが A1065 のときに Initial setup を使用すると、非常に稀なケースで SVP に異常が発生する場合があります。Initial Setup は、下記に示す手順にしたがってご利用ください。なお、装置の電源 Off/On については、「BladeSymphony BS320 ユーザーズガイド」を参照ください。

〈SVP のバージョンが A1065 のときの Initial Setup 手順〉

- ① すべての対象サーバブレードを Initial setup で初期起動します。
- ② HVM Console を使って HVM をシャットダウンします。
サーバブレードの電源が自動的に Off になります。
- ③ すべてのサーバブレードの電源 Off を確認し、SVP をシャットダウンします。
装置の電源が自動的に Off になります。
- ④ ラックキャビネットのリアドアを開け、電源ケーブルを電源コンセントからはずします。
- ⑤ はずした電源ケーブルを電源コンセントに接続し、SVP が立ち上がるまで待ちます。
- ⑥ すべてのサーバブレードの電源スイッチを入れます。
- ⑦ 以降、Initial setup を利用しないでください。

5.2 HVMコンソールの注意事項

5.2.1 HVMスクリーンとHVMコンソールの差異

HVM コンソールはシリアル端末ベースの HVM スクリーンと同様の情報を表示しますが、以下に示す差異があります。

表 5-1 HVM スクリーンと HVM コンソールの差異

#	フィールド	HVM スクリーン(シリアル端末)	HVM コンソール(Virtage Navigator)
1	Logical Partition Configuration		
1-1	LPAR の Activation LPAR の Deactivation LPAR の Reactivation	LPAR のステータスフィールドから操作できます。	LPAR のステータスフィールドは入力できません。 LPAR の Activation/ Deactivation/ Reactivation は、ボタン操作で行います。
1-2	GB 単位のメモリ指定	整数部のみ入力できます。	整数部の他に、0.00、0.25、0.50、0.75 の4つの小数部の入力ができます。
1-3	仮想 COM 割当て	“Y” を指定できます。	“Y” を指定できません。仮想 COM の番号を選択します。
1-4	Remain Mem	閉塞(※1)した LPAR に割り当てていたメモリサイズが含まれる。	閉塞(※1)した LPAR に割り当てていたメモリサイズが含まれない。
2	Physical Processor Configuration		
2-1	占有/共有のプロセッサ数	プロセッサコアのスレッドを占有/共有で別々に割当てた(推奨しない割当て)場合、両方のスレッドは占有プロセッサにカウントされます。	プロセッサコアのスレッドを占有/共有で別々に割当てた(推奨しない割当て)場合、両方のスレッドは共有プロセッサにカウントされます。
3	VNIC Assignment		
3-1	VLAN ID Allocation	F2 ボタンで表示されます。	VNIC セグメントを選択することで表示されます。
4	System Service State		
4-1	Shared PCI Deice Port State	HVM 管理パスに使用している NIC が “*” で示されます。	HVM 管理パスに使用している NIC が表示されません。
5	HVM Options		
5-1	Confirmation	利用できます。	利用できません。
5-2	Screen Switching Character	利用できます。	利用できません。
5-3	Copy NVRAM	利用できます。	利用できません。
6	スクリーン共通		
6-1	HVM システムログの検出表示	“Error Event Detected” と表示されます	“HVM Alert” と表示されます。
6-2	HVM System Shutdown	どのスクリーンでも操作できます。	System Service State だけが操作できます。

※1 : LPAR がリソースを開放しないまままで停止してしまった異常状態を“LPAR 閉塞”と呼びます。

LPAR が閉塞すると、HVM を再起動するまで、当該 LPAR に割当てた CPU やメモリが開放されません。

5.2.2 仮想COMコンソールが開かない場合

HVM Console ウィンドウの Screen ボタンから LPAR の仮想 COM コンソールが開かない場合、以下に示す条件に一致していないか確認してください。

表 5-2 LPAR 仮想 COM スクリーンが開かないときの対処方法

#	条件	対処
1	LPAR の仮想 COM スクリーンが既に使用されている	既に使用している LPAR の仮想 COM スクリーンを閉じてください。

5.3 Related Consoleの注意事項

5.3.1 Code:20040003 が発生する場合

以下の場合に Related Console ウィンドウで Code:20040003 が発生し、関連コンソール起動が行えない場合があります。

- Virtage Navigator の Update を行った場合
- Profile タブから HVM の登録を行った場合

上記エラーはSVP情報がVirtage Navigatorに登録されていない場合に発生しますので、上記エラーを回避するには、4.2.1 SVP情報の登録に示す手順を参考に、SVP情報の登録をおこなってください。

5.3.2 HVMスクリーンが開かない場合

Related Console ウィンドウの HVM Screen ボタンから HVM スクリーンを呼び出しても、HVM スクリーンが開かない場合、以下に示す条件に一致していないか確認してください。

表 5-3 HVM スクリーンが開かないときの対処方法

#	条件	対処
1	当該 HVM の HVM スクリーンが既に使用されている	既に使用している HVM スクリーンを閉じてください。

5.4 IPアドレスを変更する場合の注意事項

Virtage Navigator は、他のコンポーネントと IP アドレスベースで通信しています。そのため、IP アドレスを変更すると、Virtage Navigator が通信エラーやタイムアウトを検出する場合があります。IP アドレスを変更した際には、IP アドレスの再登録などを実施してください。

表 5-4 IP アドレス変更の可否と変更後の影響範囲

#	IP アドレス	コンソール種		影響範囲
		HVM コンソール HVM スクリーン	SVP システムコンソール	
1	HVM	変更可能	変更不可	LPAR Configuration Monitoring Viewer Migration
2	BSM	変更可能	変更可能	Profile LPAR Configuration Monitoring Viewer Migration
3	SVP	変更不可	変更可能	LPAR Configuration

5.4.1 HVM IPアドレスを変更する場合

HVM IP アドレスは、以降に示す手順で変更してください。

- (1) 開いている LPAR Configuration のウインドウを閉じてください。
このとき、LPAR Configuration の操作が行なわれていないことを確認してください。
- (2) 開いている Migration のウインドウを閉じてください。
このとき、Migration の操作が行なわれていないことを確認してください。
- (3) 開いている Viewer のウインドウを閉じてください。
このとき、Viewer の操作が行なわれていないことを確認してください。
- (4) 開いている Monitoring のウインドウを閉じてください。
実行しているモニタリングを停止する必要はありません。
- (5) HVM IP アドレスを変更してください。
- (6) 変更後の HVM IP アドレスを HVM Profile に追加してください。
- (7) 変更後の HVM IP アドレスを Monitoring 対象にすることができます。

5.4.2 BSM IPアドレスを変更する場合

変更対象の BSM IP アドレスが管理サーバで使用されているものである場合は、以降に示す手順で変更してください。

- (1) 変更前の BSM IP アドレスを使用している Virtage Navigator では、全てのウィンドウを閉じてください。
- (2) JP1/SC や JP1/PFM、あるいは HvmSh コマンドを使用するアプリケーションがあれば、すべて終了させてください。
- (3) BSM IP アドレスを変更してください。
BSM IP アドレスは HVM と SVP でそれぞれ設定できるため、両方変更してください。
- (4) 変更後の BSM IP アドレスを使用できる管理サーバ上で、Virtage Navigator を起動してください。
- (5) 終了させたアプリケーションを起動してください。

変更対象の BSM IP アドレスが管理サーバで使用されていないものである場合は、注意事項はありません。

5.4.3 SVP IPアドレスを変更する場合

変更対象の SVP IP アドレスが Initial Setup で登録した SVP IP アドレスの場合は、以降に示す手順で変更してください。

- (1) SVP IP アドレスを変更してください。
- (2) 4.2.2 SVP情報の削除に示す手順を参考に、登録済みSVPを削除してください。
- (3) 4.2.1 SVP情報の登録に示す手順を参考に、変更後SVP IPアドレスを使ってSVPを登録してください。

6 トラブルシュート

6.1 エラーコード一覧






「BladeSymphony Virtage Navigator ユーザーズガイド 操作リファレンス編」のメッセージ一覧をご参照ください。




7 障害時のデータ採取

「BladeSymphony Virtage Navigator ユーザーズガイド 導入編」の障害時のデータ採取をご参照ください。

8 アイコン一覧

表 8-1 アイコン一覧

No.	アイコン	アイコン説明	ウインドウ
1		ステップが完了したことを表します	Initial Setup of HVM
2		ステップを操作中であることを表します	
3		ヘルプボタンです	
4		入力エラーを表します	
5		作成可能な LPAR を表します	Initial Setup of HVM /Make LPAR
6		作成する LPAR を表します	
7		作成不可能な LPAR を表します	
8		割り当て可能なプロセッサを表します	
9		割り当てるプロセッサを表します	
10		割り当て不可能なプロセッサを表します	
11		割り当て可能な NIC カードを表します	
12		割り当てる NIC カードを表します	
13		割り当て不可能な NIC カードを表します	
14		割り当て可能な HBA カードを表します	
15		割り当てる HBA カードを表します	
16		割り当て不可能な HBA カードを表します	
17		ユーザへの注意喚起を表します	HVM Console
18		Deactivate (P-off) 中の LPAR を表します	
19		Activate (P-on) 中の LPAR を表します	
20		障害が発生し、使用できない LPAR を表します	
21		System Log の Error レベルを表します	
22		System Log の Warning レベルを表します	
23		System Log の Info レベルを表します	

No.	アイコン	アイコン説明	ウインドウ
24		未変更状態を表します。	Initial Setup of HVM /Make LPAR /HVM Console /Related Console
25		未コミット状態を表します。	
26		構成情報未保存であることを表します。	

9 変更来歴

Virtage Navigator ユーザーズガイド LPAR 設定編の変更来歴を下記に示します。

表 9-1 Virtage Navigator ユーザーズガイド LPAR 設定編 変更来歴

Version	Revision	章	変更内容
V02-00	2.00	—	初版